採用ヲ許スコトアルヘシ

第八條　甲ハ工事其ノ他ノ都合ニ依リ豫告ヲ爲シ契約目的物ノ數量若クハ受渡期限ヲ變更シ又ハ契約目的物ノ形態ヲ一部變更シ或ハ契約履行ヲ中止スルコトアルモ乙ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此ノ場合ニ於テ乙ニ損害ヲ生セシムルコトアルモ甲ハ之ヲ補償セサルモノトス、乙ハ甲ヨリ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ甲ニ指定期限内ニ承諾書ヲ提出スルモノトス

第九條　乙ハ天災、地變、戰亂其ノ他不可抗力ノ障害ニ依リ第一條ノ受渡期限内ニ目的物ヲ完納スルコト能ハサルトキハ甲ニ於テ事業進行上支障ナキ場合ニ限リ甲ノ相當ト認ムル日數ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

前項ノ事由ナクシテ期限内ニ目的物ヲ完納セサルトキハ乙ノ遲滯日數一日ニ付當初契約シタル金額ノ千分ノ一ニ相當スル金額ヲ延滯料トシテ甲ニ支拂フヘシ

第十條　目的物ノ檢査若クハ試驗ノ結果契約ニ定メタル事項ニ適合セスト認メタルモノハ乙ハ甲ノ指定シタル期限内ニ之ヲ受渡場所以外ニ搬出スルモノトス若シ乙ニ於テ之ヲ搬出セサルトキハ甲ハ乙カ該物ニ對スル權利ヲ拋棄シタルモノト見做シ任意ニ之ヲ處分スルコトヲ得

第十一條　乙ハ本契約ニ關スル權利義務ヲ甲ノ承認ヲ經スシテ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十二條　目的物ノ受渡ヲ完了スル迄ノ一切ノ費用及受渡完了前ニ於テ生シタル一切ノ損害ハ總テ乙ノ負擔トス

第十三條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ甲ハ何等ノ催告ヲ用ヒス且ツ何等ノ補償ヲ爲スコトナク本契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ何等ノ手續ヲ用ヒス契約保證金ヲ甲ノ所得トシ尙甲ニ損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルモノトス

一、甲ニ於テ契約期限内ニ乙カ本契約ヲ履行セス若クハ履行ヲ爲ス能ハサル者ト認定シタルトキ

二、物件ノ製作又ハ納入ニ付不正ノ行爲アリタルトキ

三、乙カ正當ノ理由ナクシテ本契約ノ解除ヲ請求シタルトキ

四、提供物ノ試驗檢査ニ際シ乙若クハ其ノ代理人使用人等ニ於テ掛員ノ指揮ニ從ハス又ハ其ノ職務執行ヲ妨ケ若クハ妨ケシメタリト認メタルトキ

五、乙カ甲ヨリ發シタル命令又ハ契約ニ違反シタルトキ

六、第九條ノ場合ニ於テ乙ノ延期ノ請求カ至當ナリト認ムルモ延期ノ爲本市工事其ノ他ニ支障ヲ生スルトキ

七、乙ノ居所不明ナルトキ又ハ正當ノ理由ナク納入ヲ休止シタルトキ

第十四條　代金ハ目的物完納ノ上正規ノ手續ニ依リ仕拂フモノトス但シ甲ハ支障ナキ限リ既納數量ニ對スル代金ノ仕拂ヲ爲スコトヲ得

第十五條　本契約ニ依リ甲又ハ甲ノ命シタル檢査員ノ爲ス指示認定處分ニ對シ乙ハ之ヲ拒ミ又ハ異議ノ申立若クハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十六條　甲ハ乙ヨリ延滯料違約金若クハ損害賠償金ヲ徵スヘキ場合ニ於テ乙ニ仕拂フヘキ代金ノ未拂アルトキハ直ニ債務ノ相殺ヲ爲シ得ルモノトス

第十七條　本契約及附屬ノ文書、圖面等ニ關シ所見ヲ異ニスルトキハ乙ハ甲ノ所見ニ從フモノトス

第十八條　乙ハ前各條ニ明記スルモノヽ外ハ總テ一宮市工事執行規程ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

右契約ヲ證スル爲本書貳通ヲ作製シ當事者記名調印ノ上各壹通ヲ所持ス

昭和　　年　　月　　日

契約擔當者　一宮市長　森林右工門

賣　　主

備考　本契約書ハ各種主要物件購入ノ際使用セリ

水道用繼目無鋼管（直管異形管）購買仕樣書

第一章　總　　則

第一條　購買スヘキ管ハ水道ニ使用スヘキ繼目無鋼鐵直管竝ニ繼目無鋼鐵異形管ニシテ（以下單ニ管ト稱スルハ直管及異形管ヲ指ス）其ノ種別員數等ハ別表ニヨル

第二條　市長ハ隨時本市吏員ヲ派遣シ製造方法ノ適否ヲ檢査シ鋼材ノ良否強弱其他各種試驗ノ施行ヲナサシメ之ヲ監督セシムルコトアルヘシ此ノ場合本市吏員ハ何レノ場所ニモ出入スルコトヲ得

第三條　製造工場ニハ完全ナル抗張強抗屈強及水壓等各種試驗ヲ施行シ得ヘキ設備ヲナスヘシ

第四條　管ノ納入場所ハ一宮市梅ケ枝通一丁目一宮市水道課材料檢査所トス

但納入ニ當リテ本市ニ於テ準備セシ以外ノ土地ヲ必要トスル時ハ請負人ノ費用ヲ以テ附近ノ土地ヲ借地ノ上一時假置シ本市ノ檢査作業ニ順應シ更ニ檢査所内ヘ搬入スルモノトス

第五條　管ノ納入運搬ニ際シテハ極メテ丁寧ニ取扱ヒ特ニ外裝ニ損傷ヲ與ヘサルヤウ又荷車貨車等ニ積込ノ際ハ緊縛シ罅裂其他事故ノ生セサル樣注意スヘシ

第六條　各種試驗檢査ニ合格セル管ヲ受領ノ場合直管ハ米當契約單價ニ依リ異形管ハ個當契約單價ニ依リ代金ヲ計算ス
但壹「センチメートル」未滿ノ長ハ切捨トス
第七條　本仕樣書ニ記載ナキ事項ハ總テ契約書及附屬圖面竝ニ本市入札規定ニ依ルモノトシ本仕樣書ニ疑義ヲ生シタル場合ハ總テ市長又ハ其ノ代理者ノ意見ニ從フモノトス

第二章　製造方法

第八條　管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用ヒ熱間仕上法ニテ繼目ナク引拔キ製造スヘシ
第九條　管ヲ製造スルニハ軟鋼塊ヲ加熱爐ニ入レ高溫度ニ熱シ之ヲ「マンネスマン」式穿孔シ壓延機ニヨリテ穿孔シ壓延機ニヨリ所定ノ厚サニ壓延スヘシ
第十條　壓延ヲ終リタル管ハ管長斷面ヲ修正シ所定ノ形狀寸法ニ成形スヘシ
第十一條　承口ハ外型ト內型トニヨリテ所定ノ寸法ニ形成スヘシ
第十二條　管製造ニ用フル軟鋼ノ成分中炭素燐硫黃ノ含有量ハ次ノ制限ヲ超過スルコトヲ得ス

炭　素　○、一八％　燐　○、○五％
硫　黃　○、○五％

第十三條　註文者又ハ檢査員ニ於テ必要ト認メタル時ハ各鎔鋼ノ分析表ヲ提出スヘシ

第三章　塗裝

第十四條　管ハ內外面ヲ掃除シ銹ヲ完全ニ除去シタル後適當ナル溫度ニ加熱セル良質ノ防銹塗料中ニ浸シテ管ノ內外面ニ完全ナル防銹被膜ヲ燒付クヘシ此ノ際內面ノ塗裝ハ特ニ注意シ砂其他固形物ノ附着セヌヤウ之ヲ行ヒ光澤ヲ有シ滑カナラシムヘシ
第十五條　燒付塗裝ヲ施シタル後溶解セル防銹塗料ノ中ニ乾燥セル麻布ヲ浸セルモノヲ機械力ニヨリテ均一ナル張力ヲ加ヘツヽ管ニ卷付ケ完全ニ管ノ內外面ヲ包裝シ更ニ外部ヨリ麻布ヲ認メサル程度ニ防銹塗料ヲ塗布スルモノトス
第十六條　繼手接合用竝ニ修理用トシテ防銹塗料及麻布類ヲ別紙圖面ニ基キ無償添付スヘシ其ノ數量ハ直管竝ニ異形管ノ總本數ニ接合一ヶ所ニ要スル數量ヲ乘シタルモノヽ三割增トス
第十七條　塗裝ニ使用スル塗料ハ瀝靑質ノモノニシテ引火點低キ油分及水ニ可溶性ノ物質或ハ惡臭ヲ與フル物質ヲ含有セズ寒暑ニ對シテ龜裂又ハ熔解ノ憂ナキモノタルヲ要ス
第十八條　麻布ハ良質ノ麻ヲ用ヒテ製造セルモノニシテ所定ノ容量ノ塗料ヲ含ミ得ルモノナルコトヲ要ス
第十九條　塗裝ニ使用スル總テノ塗料及塗裝方法ハ施行前其ノ見本品竝ニ方法及其ノ效力ヲ證明スルニ足ル材料ヲ提出シテ註文者ノ承諾ヲ得ルモノトス

第四章　形狀寸法及重量

第二十條　管ノ斷面ハ實用的正圓ニシテ內外圓ハ同心圓タルヘシ
第二十一條　直管ノ有效長ハ標準六米ニシテ一端ヲ挿口トシ他端ヲ承口トス管體ハ眞直ニシテ各部ノ形狀寸法ハ別紙圖面ニ依ル
第二十二條　異形管ノ形狀寸法ハ別紙圖面ニ依ル
第二十三條　直管異形管共普通壓管（靜水頭七五米未滿ニ對スルモノ）トス
第二十四條　管ノ外側一定ノ場所ニ本市ノ記章製造所ノ記號製作年月及番號ヲ刻スルモノトス
第二十五條　管ノ各部ニ於ケル公差ハ次表ニ據ルモノトス

	厚	實外徑	承口內徑	挿口內徑
管	十一 日本標準規格壓延鋼材ノ公差ニ依ル	十 ○ 一 三粍	十 三粍 一 ○	十 ○ 一 三粍

第二十六條　管ノ重量ハ總テ別紙添付圖面ニ據ル
重量ノ公差ハ負ハ八％トシ正ハ制限ヲ附セス

第五章　試驗

第二十七條　試驗ハ日本標準規格ニ據ル
第二十八條　試驗ハ以下各項ノ標準ニヨリ施行ス

(一)　擴大試驗
管ノ端ヨリ三〇粍迄ノ部分ヲ常溫ノ儘次表ノ規定ノ程度マテ擴大スルモ裂疵ヲ生セサルコト

管厚(粍)	擴大ノ程度
三未滿	外徑ノ一、一倍
三　五	外徑ノ一、〇七倍
五以上	外徑ノ一、〇六倍

(二)　遍平試驗
管ノ端ヨリ適宜ノ長サノ管狀試驗片ヲ切取リ常溫ノ儘之ヲ遍平トナシ其ノ屈曲部カ管厚ノ一倍半ニ等シキ內側半徑ニ達スル

裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

(三)　燒入屈曲試驗

管ノ端ヨリ適宜ノ長及幅ノ試驗片ヲ切取リ槌打シテ遍平トナシ約六百五十度(C)ニ熱シタル後之ヲ約二十八度(C)ノ水中ニ急冷シ内側内徑ヲ管厚ノ二倍トシ百八十度ニ屈曲スルモ裂疵ヲ生セサルコトヲ要ス

(四)　抗張試驗

管狀試驗片又ハ管ヨリ縱ニ切取リタル部分ヲ鎚打シテ平片トナシタル板狀試驗片ヲ用ヒテ其ノ抗張力ハ每平方粍ニツキ三十八瓩以上延伸率ハ三十「パーセント」以上ナルコトヲ要ス

金屬材料抗張試驗片第五號

標點距離　L五〇粍

平行部長　P約七〇粍

幅　W二五粍

厚ハ原厚ノマヽトス

第二十九條　前條ノ試驗ハ註文者又ハ檢査員ニ於テ必要ト認ムル時行フモノニシテ其ノ費用ハ納入者ノ負擔トス

第三十條　前條試驗ヲナスニハ同種同一寸法ノ管五十個又ハ其ノ端數ヲ一組トシ各組ヨリ各試驗每ニ一個ノ試驗片ヲ取出シ其ノ組ノ良否ヲ決定ス若シ試驗ノ成績カ本規格ニ合セサルモノアル時ハ其ノ試驗片各一個ニツキ更ニ二個ノ試驗片ヲ採リテ再試驗ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テ一個タリトモ合格セサル時ハ其ノ試驗片ニヨリ代表セル組ハ全部之ヲ不合格トス

第三十一條　水壓試驗ハ次ノ各項ニ從ヒ行フ

一、塗裝ノ前後一本每ニ行フ

二、試驗水壓ハ每平方糎ニツキ一七、五瓩トス

三、規程ノ水壓ヲ加ヘ五分間放置シ次ニ同水壓ヲ保チツヽ輕ク鎚打ヲナシ漏洩浸潤等ノコトナキヲ要ス

四、前項ノ鎚打ニ用フル鎚ハ軟鋼製ニシテ重量一瓩以内柄ノ長サ約四百五十粍トス

第六章　檢　査

第三十二條　管ノ内外面ハ滑カニシテ有害ナル缺點ナキヲ要ス

第三十三條　水壓試驗ニ合格シタル管ハ形狀寸法ノ檢査ヲ行ヒ塗裝ヲ終ヘタル後更ニ塗裝ノ檢査ヲ行フモノトス

第三十四條　水壓試驗ノ結果漏水個所一個所ナルトキ修理ノ上再試驗ヲ許スコトアルヘシ

第三十五條　管ノ塗裝不完全又ハ疵ノアル時ハ修理ノ上塗裝ノ再檢査ヲ許スモノトス

第三十六條　管ノ納入場所ニ到着ノ上ハ運搬中ニ於ケル其ノ破損ノ有無ヲ檢査ス

第三十七條　管ノ製造所ニ於テ鋼塊ヲ製造セサル場合ニ於テハ管ノ製造ニ使用セル鋼塊ノ製造所名製鋼法及製鋼番號ヲ明記セル證明書ヲ註文者又ハ檢査員ニ提出スルモノトス

第三十八條　管ノ前各條ニ定ムル試驗及檢査ニ合格シタルモノヲ以テ合格品トナス

第七章　雜　則

第三十九條　繼目無鋼管ハ肉厚薄キヲ以テ管體ニ孔ヲ穿チ分水栓ヲ捻込ムコト困難ナリ依而簡便ニ强固ニ分水栓ヲ取付クル特別ノ裝置ヲ要ス

第四十條　前條ノ特別ノ裝置ハ納入者ニ於テ其ノ見本品竝ニ方法ヲ示シ其ノ效力ヲ實地ニ證明シテ註文者ノ承認ヲ得ルモノトス

二、弁類竝消火栓の購入

弁類竝に消火栓の購入は鐵管類の場合と同樣國內優秀業者數名を選定指名競爭入札に附し購入せり之が購入明細表左の如し。

弁類竝消火栓購入明細表

使用場所	種別	個數	金額（圓）	納入者
水源	制水弁	二	二七三・五四	東京市合名會社松井商會
	排氣弁	七	九四・三〇	〃
送水路	制水弁	七	一、二三六・五〇	〃
淨水場	〃	二三	四、〇二四・五二	〃

配水塔	制水弁	四	七八八・三〇	東京市合名會社松井商會
	逆止弁	一	一五五・〇〇	大阪市株式會社栗本鐵工所
	伸縮繼手	二	四八〇・〇〇	〃　株式會社久保田鐵工所
配水管	制水弁	二〇二	九、五二八・七八	東京市　合名會社松井商會
	〃	七四	三、三三九・三八	名古屋市　祖父江鍵次郎
	排氣弁	一八	二四四・六〇	東京市　合名會社松井商會
	安全弁	一	一四五・〇〇	大阪市　株式會社栗本鐵工所
	地上式消火栓	五〇	一、九三〇・〇〇	東京市　合名會社松井商會
	地下式消火栓	三六〇	四、九八六・〇〇	名古屋市　祖父江鍵次郎
	〃	四〇	五五四・〇〇	一宮市　山田富次郎
計	制水弁	三一二	一九、一九一・〇二	
	排氣弁	二五	三三八・九〇	
	逆止弁	一	一五五・〇〇	
	安全弁	一	一四五・〇〇	
	伸縮繼手	二	四八〇・〇〇	
	消火栓	四五〇	七、四七〇・〇〇	

一宮市水道用制水弁購買仕様書

第一條　購買スベキ制水弁ハ昭和六年第二十八回上水協議會決定水道用制水弁規格ニ依ルモノニシテ其種類員數ハ附屬明細書ノ通リトス

第二條　制水弁ハ所定ノ個所ニ「水」ノ字製作年號㊌竝ニ製作所ノ記號ヲ高三耗ニ鮮明ニ鑄出スヘシ

第三條　納入者ハ各部製作工程表ヲ豫メ本市ニ提出スルモノトス本市ハ必要ニ應シ吏員ヲ派シ製作方法ノ監督竝ニ試驗檢査ヲ行フコトアルモノニシテ此場合吏員ハ工場ノ何レノ場所ニモ出入シ得ルモノトス

納入場所　一宮市梅ケ枝通一丁目水道課材料檢査所

一宮市水道用地上式消火栓購買仕様書

納期　昭和　年　月　日

第一條　購買スヘキ本消火栓ノ種類、員數、納期等ハ末尾記載ノ明細表ノ通リトス

第二條　所要材料ハ昭和六年第二十八回上水協議會決定ノ制水弁ノ箇所及排氣弁ノ材料ニ準スルモノトス但シ記號ハ所定ノ箇所ニ㊌消火栓ヲ地上ニ「水」ノ字製作年號ヲ地下ノ部ニ高サ三耗ニ鮮明ニ鑄出スヘシ

第三條　檢査ハ現品到着後本市檢査場ニ於テ本市ノ適當ト認ムル方法ニ依リ機能材質鑄造具合其他ニ付施行スルモノトス

第四條　本消火栓ハ構造機能完全ナルハ勿論長年月ノ放置ニ際シテ機能ニ些カノ障害ヲ來サヽルモノタルヘシ

第五條　本消火栓ハ機能ノ各部ヲ各々交互ニ交換使用シ得ル様製作スヘシ

第六條　本消火栓ノ「ネジ」及突縁ヲ有スルモノハ總テ旋盤ニテ所定ノ寸法ニ仕上ケ全面ニ密着シ突縁接合ケ所ハ厚三耗以上ノ布入「ゴムパツキング」ヲ嵌メ完全ニ水密トナスヘシ

第七條　本消火栓ノ開閉ハ右廻シノトキ通水路ヲ開クヘキ装置トナスヘシ

第八條　本消火栓ノ水壓試驗ハ毎平方糎ニ付一七・五瓩ノ試驗ヲナシ又放水口ノ蓋ヲ嵌メタルマヽ同水壓試驗ヲ本市所定ノ質型ノ鎚ヲ以テ各部ヲ普ク打敲シツヽナシタル場合モ漏水ナキ様完全ニ製作スルモノトス

第九條　本消火栓製作加工ニ際シテハ供給者ハ豫メ其ノ工程表ヲ本市水道課ニ提出承認ヲ受クルモノトス

第十條　本仕様書及圖面ニ疑義又ハ不明ノ點ヲ生シタル場合ハ總テ本市ノ判定ニ從フモノトス

第十一條　納入場所ハ一宮市梅ケ枝通リ一丁目水道課檢査場構内所定ノ場所トス

第十二條　本品ハ地表以上ノ部分ニ銹止光明丹一回ヲ地下ニ沒スル部分ハ「コールターピツチ」及亞麻仁油ノ混合濟ヲ塗裝スルモノトス

第十三條　附屬品トシテ開閉用「キー」二十個ヲ製作スルモノトス

備考圖面中町野式接手金物ハ本市ヨリ支給ス（圖面省略）

一宮市水道用消火栓購買仕様書

第一條　購買スヘキ消火栓種類員數ハ附屬明細書ノ通リトス

第二條　所要材料ハ左ノ試驗ニ合格シタルモノヲ以テ製作スルモノトス

一、鑄鐵ノ抗折試驗ハ幅五〇粍、厚二五粍、長サ六五〇粍ニ鑄造シタル試驗型ヲ用ヒ鑄放シノ儘之ヲ徑間六〇〇粍ノ支ヘ刄ニ扁平ニ載セ其中心ニ八〇〇瓩ノ荷重ヲ置キ之ニ耐ヘ且ツ漸次荷重ヲ增加シ其ノ切斷前六・八粍ヨリ少ナカラサル撓ミヲ示スコトヲ要ス

二、鑄鐵ノ抗張試驗ハ標準抗張試驗片第三號ニ依リ徑二五粍乃至三〇粍ニ仕上タル試驗片ヲ用ヒ抗張力三・五瓩/粍^{2}以上ナルコトヲ要ス

三、軸合金ハ鍛ヘタル「ネーバル黃銅」トシ其合金屬調合ハ銅六二、錫一、亞鉛三七トス

四、摺動部及螺旋止用合金屬ノ調合ハ銅八八、錫八、亞鉛四トス

五、「ボールト」用軟鋼ノ抗張試驗ハ一平方吋ニ付四萬五千封度以上タルヲ要ス

第三條　所要ノ鑄鐵ハ其破碎面總テ灰色ニシテ粒狀緻密全體同質ニシテ容易ニ鑢ヲ以テ磨耗シ得ヘキモノタルヘシ

第四條　鑄鐵部ハ砂聚氣泡罅裂其他鑄造上ノ缺點アルヘカラス是等ノ缺點ヲ補ハムカ爲メ塡金等ノ加工ヲ施スヘカラス

第五條　消火栓ノ各部重要ナル部分ハ合金屬ヲ使用シ構造機能完全ナルハ勿論長年月ノ放置ニ際シテハ機能ニ障害ヲ來タササルモノタルヘシ

第六條　消火栓機能ノ各部ハ各々交互ニ交換使用シ得ル樣製作スヘシ

第七條　消火栓ノ「ネジ」及突緣ヲ有スルモノハ旋盤ニテ所定ノ寸法ニ仕上ケ總テ全面ニ密着シ完全ナラシメ其ノ接續ニ要スル「ボールト」及ゴム製「パツキング」ヲ附屬スヘシ

第八條　消火栓ノ開閉ハ右廻シノトキ通水路ヲ開クヘキ裝置トスヘシ

第九條　消火栓ハ所定ノ個所ニ水ノ字製作年號及㊅竝ニ製作所ノ記號ヲ高三粍ニ鮮明ニ出スヘシ

第十條　消火栓鑄出部分ハ仕上ケニ先立チ適當ノ溫度ニ熱シテ防銹液ヲ塗抹シ乾燥セシムヘシ防銹液ハ被包面黑色ニシテ稍光澤アリ且鐵膚ノ內外面共平滑堅固ニ附着シ容易ニ剝脫セサルモノタルヘシ

第十一條　消火栓摺動部砲金環ハ楔形ニシテ堅牢ニ嵌入シ更ニ同質ノ「セツトスクルー」ヲ以テ丈夫ニ締付タル後叮寧ニ摺合セナスモノニシテ摺合セ面ハ勿論嵌入接觸面ヨリ漏水ナキモノトス

第十二條　消火栓ノ水壓試驗ハ每平方糎ニ付十七瓩半ノ試驗ヲナシ又弁ヲ全開ニシテ同水壓ノ試驗ヲナスモノトス試驗中ハ本市所定型質ノ鎚ヲ以テ各部ヲ普ク打敲ス此場合ニ於テ弁ノ摺合部或ハ其ノ他ノ個所ヨリ漏水シ又ハ漏水ノ虞アルモノハ擯却ス但シ摺合部ヨリ漏水ノ場合手直シノ上完全トナル見込アルモノニ限リ供給者之カ手直ヲナシ更ニ試驗ヲナスコトアルヘシ

第十三條　消火栓各構ノ製作加工ニ際シテハ供給者ハ豫メ其日取ヲ本市ニ申出ツヘシ必要ト認ムル場合ハ本市ハ本市ノ費用ヲ以テ吏員ヲ製造工場ヘ派遣シ檢査ヲナシ又ハ其工法ニ就テ指定スルコトアルヘシ

第十四條　消火栓ノ納期ハ別表ノ通リトス

第十五條　本仕樣書中疑義又ハ不明ノ廉ヲ生シタルトキハ一宮市長又ハ代理者ノ指揮判定ニ從フモノトス

第十六條　試驗竝ニ檢査ハ總テ製作工場ニ於テ行フ場合ハ之ニ要スル費用一切納入者ノ負擔トシ本市檢査所內ニ於テ行フ場合ハ凡テ本市ノ負擔トス檢査ノ結果ニ付テ納入者ハ異議ヲ申立サルモノトス

第十七條　納入場所ハ本市梅ケ枝通リ一丁目水道課檢査所內トス

第二節　主要機械器具購入

諸機械類竝に諸器具性能の良否は本事業運營上至大の關係を有するを以て之が購入に際しては事前に於て彼此比較研究し就中重油機關の如きは特に水道委員諸氏を煩し阪神鐵工所、山陽工作所製品に付其性能の良否を實地視察を行ひたることさへあり斯くして最も優秀品と認めらるるものを指定購入せり左に其の主要なるものを記すべし。

主要機械器具購入一覽表

品名	形質	員數	金額	納入者	摘要
三〇馬力電動機直結タービンポンプ	口徑二五〇粍	二	三、七五〇・〇〇圓		
三馬力電動機直結眞空ポンプ及槽	〃　三八粍	一	一、〇八三・〇〇		

一馬力電動機直結汚水ポンプ	口徑　三八粍	一	四一二・〇〇	東京市 株式會社荏原製作所	水源設置送水用 此設置工事費一二、二九五圓ヨリ抄錄ス
配電盤		三	二、一五九・〇〇		
變壓器	三K、V、A 單相油入自冷式	二	一〇二・〇〇		
電壓調整器	五K、V、A 三相式(低壓用)	一	一、三〇四・〇〇		
五〇馬力電動機直結タービンポンプ	口徑　二〇〇粍	四	七、六五六・〇〇	東京市 株式會社荏原製作所	淨水場設置送水用 此設置工事費二〇、九〇五圓ヨリ抄錄ス
二馬力電動機直結眞空ポンプ	口徑　三八粍	一	二一三・〇〇		
配電盤		七	六、二三八・〇〇		
變壓器	五K、V、A一 二K、V、A三 單相油入自冷式	四	二一三・〇〇		
電壓調整器	一五K、V、A 三相式油入自冷式	一	一、六二四・〇〇		
五〇K、V、A交流發電機		一	四、三五〇・〇〇	神戸市 阪神鐵工所	水源設置豫備發電用 此設置工事費九、九三〇圓ヨリ抄錄ス
六五馬力重油機關		一	四、八〇〇・〇〇		
空氣壓縮機		一	二五〇・〇〇		
二馬力石油發動機		一	二〇〇・〇〇		
七八K、V、A交流發電機		一	四、六七五・〇〇	〃 〃	淨水場設置豫備發電用 此設置工事費一三、〇九〇圓ヨリ抄錄ス
一〇〇馬力重油機關		一	七、二五〇・〇〇		
空氣壓縮機		一	二五〇・〇〇		
二馬力石油發動機		一	二〇〇・〇〇		

一五馬力電動機直結渦巻ポンプ	るのくち式 口徑　一五〇粍	一	九八二・〇〇	名古屋市 株式會社千代田組名古屋支店	工事用
一〇馬力電動機直結渦巻ポンプ	〃　戸畑製　一五〇粍	一	六六六・〇〇	一宮市 金源商店	〃
五馬力電動機直結渦巻ポンプ	〃　アポロ製　七五粍	一	四三〇・〇〇	名古屋市 岡谷合資會社	〃
一馬力電動機直結渦巻ポンプ	〃　神野式　五一粍	一	二六二・七八	一宮市 油傳商店	水壓試驗用
二分ノ一馬力電動機直結渦巻ポンプ	〃　酉島製　三八粍	一	二〇六・〇〇	大阪市 株式會社酉島製作所	工事用
四分ノ一馬力電動機直結タービンポンプ	〃　神野式　二五粍	一	八五・七〇	一宮市 油傳商店	水源機關給水用
五馬力發動機直結渦巻ポンプ	〃〃　一〇〇粍	一	六二〇・〇〇	名古屋市 範多商店名古屋出張所	工事用
〃〃	〃　一〇〇粍	一	五九〇・〇〇	一宮市 金源商店	〃
流量計	水銀式 E、C、W、S型	一	三、〇〇〇・〇〇	東京市 株式會社エルレイボルド商館	淨水場設置
水頭計		三	二四七・八六	一宮市 山田富次郎	〃
電鈴式警報器及壓力記錄計		各二	三九四・〇〇	名古屋市 淺野物産株式會社名古屋出張所	〃
鹽素滅菌機		二	三、四五〇・〇〇	東京市 株式會社エルレイボルド商館	〃
洗砂機	SN式	一	一、四八六・〇〇	〃 合名會社松井商會	〃
異形管水壓試驗機		一	一、四六八・〇〇	〃 〃	鐵管檢査用 此設置工事費二、一三八圓ヨリ抄錄

直管水壓試驗機	自七五粍至二〇〇粍	一	三四七・〇〇	東京市合名會社松井商會	此設置工事費一、九三七圓ヨリ抄錄
〃 〃	自二五〇粍至六〇〇粍	一	一、二三八・〇〇		
鐵管竝水栓類水壓試驗機		一	二六八・〇〇	〃 〃	給水工事用
ワイレベル トランシット	三脚付 〃 三吋半	各三	一、六六八・〇〇	名古屋市近藤猛外一名	測量用
穿孔機		七	圓 八九二・〇〇	東京市茂又四郎介	給水工事用
重油溶鉛器	田中式	一	一九〇・〇〇	〃 田中實	鐵管布設用
鐵管布設工具	ファイアーポット外三三品	一六七	五六四・〇〇	大阪市帝國水道株式會社	〃
變壓器	單相油入自冷式	三	一、二七八・〇〇	東京市株式會社芝浦製作所	水源設置
水質試驗用器具	顯微鏡外一八六品	二・九六七	二、六八四・〇〇	名古屋市馬場重太郎外二名	水質試驗用
電氣用計器	交流直流兩用電壓計外六品	七	五〇七・〇〇	名古屋市株式會社日立製作所名古屋販賣所	淨水場設置
三五〇粍制水弁用浮動管		二	一、五一二・〇〇	東京市合名會社松井商會	濾過池設置
量水堰		三	一、三一四・〇〇	一宮市山田富次郎	淨水場設置
運搬車及軌條	十二封度タンテーブル其他附屬品付	一〇 四八〇	五一二・三〇	名古屋市岡谷合資會社	工事用
臺秤	一瓲半掛	一	一四七・二五	一宮市野田誠一	物品檢收用
換氣筒		四六	三八四・六〇	〃 山田富次郎	淨水場設置

水源及淨水場送水喞筒購入竝設置工事仕樣書

第一項　總　則

一、本工事ハ水源竝ニ淨水場各喞筒室内ニ水道用送配水喞筒ヲ設置セントスルモノニシテ水源送水喞筒ハ葉栗郡淺井町大字極樂寺地内水道水源構内喞筒室ニ設置シ集水井ヨリ導入シタル喞筒井内ノ源水ヲ葉栗村大字佐千原淨水場構内着水井ニ送水ヲナシ、淨水場送水喞筒ハ淨水場構内喞筒室ニ設置シ淨水池ヨリ導入シタル喞筒井内ノ淨水ヲ市内九品町水道配水塔ニ送水セシムルモノトス

一、喞筒其他ノ諸機械ハ機構完全長時間ノ連續運轉ニ何等支障ナク製作効率共ニ優秀ナルモノニシテ運轉上必要ナル一切附屬設備ヲ具備シ本仕樣書及別紙圖面竝ニ本市工事規定ニ基キ完全ニ設置スルモノトス

一、製作ハ誠實叮寧ヲ旨トシ各部構造ハ最モ堅牢ニシテ圖面仕樣書ニ明記ナキモノト雖モ据付竝ニ運轉ニ必要ト認ムルモノハ凡テ完備セシムルモノトス

一、喞筒室内ニ於ケル諸機械器具及其附屬品ノ据付配管配線竝ニ其他凡テノ附帶設備工事ヲナスモノニシテ所要物件及勞力竝ニ機械器具ノ試驗ニ要スル一切ノ費用ハ請負人ノ負擔トス但現場据付後行フ試運轉ニ要スル電力ハ本市ニ於テ支給ス

一、本市ハ必要ニ應シ製作材料ノ試驗檢査ヲ行フモノニシテ試驗檢査ハ市ノ適當ト認ムル方法ニ依リ行ヒ之ニ要スル費用ハ凡テ請負人ノ負擔トス

一、材料ノ強度ハ次ノ基準ニ依ルモノトス

(イ)	鑄　　鐵	毎平方粍	一六瓩以上	
(ロ)	砲　　金	同	二二瓩〃	七・五%以上
(ハ)	燐　青　銅	同	二五瓩〃	一〇%〃
(ニ)	軟　　鋼	同	三九瓩〃	二一%〃
(ホ)	「ニッケル」鋼	同	六〇瓩〃	二五%〃

一、鑄鐵ハ鑄疵、氣孔偏肉其他有害ナル缺點ナク鑄肌滑カニシテ之等ノ缺點ヲ補塡スヘカラス又鑄張、鑄砂等叮寧ニ除去シ水壓ヲ要スルモノ又ハ重要部ハ本市係員ノ檢査ヲ受ケタル後塗裝ナスモノトス

一、工場製作終了後本市吏員立會ノ上各部ノ試驗檢査竝ニ性能試驗ヲ行フモノニシテ本市立會員ノ指示ニ從ヒ凡テノ準備ヲナスモノトス尙工場試驗ヲ行フ場合ハ相當日數以前ニ本市ニ申請書ヲ提出スルモノトス

第二節　主要機械器具購入

一、工場檢査ニ於テ要スル費用ハ一切請負人ノ負擔トス又本市吏員ハ工場ノ何レノ場所ニモ出入シ得ルモノトス
一、物件ハ凡テ現場搬入後各部ニ付本市係員ノ檢査ヲ受ケ承認濟ノ上取付ヲ行フモノトス
一、搬入据付、運轉並ニ受渡迄請負人ハ責任アル擔任者ヲ常ニ現場ニ出頭セシメ本市係員ノ指揮ニ從ヒ物品ノ保管並ニ据付等一切ノ責ニ任スルモノニシテ据付組立ニ要スル職工ハ最モ熟練者ヲ派遣シ擔任者ト共ニ本市ノ承認ヲ受クヘシ
一、基礎ハ本市ニ於テ施工ナスモ取付ノ加工ヲナス場合ハ納入者之ヲ行フモノトス但シ「セメント」ハ本市ニ於テ支給ス
又現場ニ於テ他ノ工作物ニ損害ヲ及ホシタル時ハ凡テ其責ニ任スルモノトス
一、現場ノ都合ニ依リ製作品ニ多少變更ヲ要スル部分生シタル時請負人ハ異議ナク無償ニテ之ヲ行フモノトス
一、物件ノ受渡シハ現場据付終了後各部試驗檢査ノ上實施連續運轉ヲ行ヒ合格ト認メタル後行フモノニシテ不合格品ハ本市ノ命スル期間内ニ無償ヲ以テ本設備ノ目的並ニ仕樣書ニ適合スル樣其程度ニ依リ修理又ハ改造ヲナスモノトス
一、受渡後ト雖モ昭和　　年　　月　　以内ニ於テ据付又ハ構造製作ニ基因スル故障其他自然的ニ生シタル故障ニ對シテハ納入者ハ直チニ無償ヲ以テ本市ノ要求ニ應シ機械ノ點檢及補修或ハ取替等ヲナス義務アルモノトス
一、前條保證ノ爲請負契約保證金ヲ保證期間中當市ニ於テ留保スルモノトス
一、納期ハ契約ノ日ヨリ起算シ七ケ月間ニ現場据付一式完備セシムルモノニシテ契約後二ケ月以内ニ喞筒電動機配電盤變壓器電壓調整器及附屬裝置並ニ附屬品一切ノ組立圖並ニ配置圖及機械重要部分ノ分解圖等一切ノ設計圖ヲ提出シ本市ノ承認ヲ受ケタル後製作ニ着手スルモノニシテ工程表ト共ニ各參通宛提出スヘシ但シ基礎關係詳細圖基礎「ボールト」並ニ「コンクリート」埋設物ハ凡テ契約後一ケ月以内ニ納入スルモノトス
一、基礎並ニ建築工事ハ別途請負ニテ施工中ニ付現場据付並ニ取付等ハ凡テ之ト良ク協調ヲ保チ本市係員ノ指揮ニ從ヒ仕樣書及圖面ニ準據シ入念ニ施工ナスモノトス
一、圖面仕樣書其他ニ凝義ヲ生シタル時ハ凡テ本市ノ解釋ニ隨フモノトス

第二項　水源地設備要項

一、口徑　二五〇粍　竪型迯水喞筒　鐵管其他附屬品共　貳臺
一、同　三八　粍　竪型排水喞筒　同　壹臺
一、同　三二　粍　往復動眞空喞筒　眞空槽鐵管其他附屬品共　壹式
一、喞筒軸承臺I桁金物（備考　建築物埋込ノ爲契約後三十日以内ニ納入ヲ要ス）　壹式
一、迯水喞筒用參拾馬力竪型電動機　附屬品共　貳臺
一、排水喞筒用壹馬力竪型電動機　同　壹臺
一、眞空喞筒用參馬力電動機　同　壹臺
一、口徑三二粍手動式ウィング喞筒　水槽其他附屬品共　壹式
一、配電盤及各種配線　壹式
一、變　壓　器　壹個
一、避雷針裝置　壹式
一、機械据付並配線工事　壹式
一、五、K、V、A誘導電壓調整器　壹臺

一　水源迯水喞筒

一、本喞筒ハ口徑二五〇粍竪型一段片吸込式「タービン」喞筒ニシテ貳臺並列運轉ヲ行ヒ得ルコトヲ要ス
別紙配置圖面ノ通リ喞筒室地階ニ設置シ喞筒室一階ニ設置シタル別項記載三相誘導電動機ト中間竪軸ヲ以テ連結シ運轉ナスモノトス
一、本喞筒ノ設計基準ハ次ノ通リトス
（イ）全揚程（最大）一四・六〇米突（吸水頭　平水時四・六米）
　同　（最小）一一・二四同（渇水時六・六米）
（ロ）毎分時揚水量（最大揚程時）一臺ノ運轉ニ於テ　五・九五八六立方米突
　同　（最小揚程時）　七・〇七八同
（ハ）喞　筒　効　率　七六％以上
（ニ）毎分廻轉數（約）　八七〇
（ホ）原　動　機　馬　力　三〇馬力
一、喞筒ノ揚程ハ相當變化ヲ生スルニ付如何ナル場合ニ於テモ安定ヲ保チ圓滑ナル運轉ヲ行フモノタルヘク眞空計、壓力計並ニ水位指示器抽氣管氣密管「ドレーン」管等凡テ完備セシムルモノトス

一、喞筒外筐ハ鑄鐵製ニシテ直下ニ於テ軸心ニ九十度曲リテ側方ニ吸込口ヲ具ヘ喞筒上方ニ於テ第一號機ニ於テハ吸入管ト一六〇度五五分第二號機ニアリテハ一八〇度ノ傾斜ヲナシ送水主管ト四五度ノ交叉ヲ以テ水平ニ吐出口ヲ具ヘ外筐ハ渦卷型ニシテ内部ノ羽根車ノ檢査又ハ修理ノタメ容易ニ取外シ得ル構造トスヘシ

一、「ケーシング」各部ノ接合面ハ入念ニ仕上充分水密氣密ヲ保タシメ「サクションベンドカバー」及上部「カバー」ハ正確ニ喞筒軸心ヲ保持スル樣印籠接手トナシ鐵管取付鍔ハ厚二十八粍以上鍔面ニ附スル段ハ五粍以上トシ其他各部寸法ハ上水規格鐵管ト同一トス

一、喞筒軸ハ「サクションベンドカバー」ヲ貫通セシメ其先端ニハ軸承及「スタツフイングボツクス」ヲ設クルモノニシテ上下共「スタツフイングボツクス」ハ「ウオーターシール」スヘキ構造トス

一、「ケーシング」下部ニハ適當ナル大サヲ有スル鑄鐵製喞筒臺ヲ設ケ充分ナル强度ヲ有シ其ノ上下兩面ハ正シク水平ニ削リ仕上クヘク喞筒ト接合面ハ印籠接手トナスヘシ

一、「ケーシング」ニハ砲金製「コツク」付呼水注入口ヲ設ケ且「ドレーン」及排水又ハ軸承等ノ油等カ喞筒室床面ニ流出セサル樣適當ナ裝置ヲナシ銅管ヲ以テ漏斗内ニ取纒メ五〇粍亞鉛引瓦斯管ニ依リ汚水溜ニ導クモノトス瓦斯管ニハ所々ニ「ユニオン」ヲ用ユルモノトス

一、本喞筒ハ構造上電動機軸心ト運轉中ニ狂ヒ又ハ振動ヲ來ス虞アルニ依リ特ニ此ノ點ニ留意シ設計竝ニ製作ナスモノトス

一、羽根車及案内羽根ハ最モ優良ナル燐靑銅製ニシテ回轉ニ對スル釣合良好ニシテ震動音響等ナク圓滑ナル運轉ヲナスモノトス

一、羽根車ノ兩側「ケーシング」ト接スル部分ニハ砲金製「リング」ヲ嵌入シ水ノ漏洩ヲ少カラシメ摩滅後ハ容易ニ取替得ル構造トシ堅固ニ取付置クモノトス

一、喞筒軸ハ强靱ナル「ニツケルスティール」製ニシテ正確ニ仕上ケ水潤部ハ砲金ノ「スリーブ」ヲ固ク嵌込モノニシテ中間竪軸ハ「ニツケルスティール」ヲ用ヒ別紙圖面ニ示ス設置關係及喞筒回轉竝荷重變動等ニ對シ機械ニ毫モ振動ヲ與ヘサル樣嚴密ナル設計ノ下ニ軸徑及長サ等ヲ定メ正確ニ削成スヘキモノトス

一、喞筒軸承ハ「ケーシング」ノ兩端ニ設ケ上部ノモノハ「スタツフイングボツクス」ト別體タルヘク全負荷最大回轉ニ於テ充分ナル支持面積ヲ有セシメ喞筒軸羽根車竝ニ横壓等ニ對シテハ「スラストボールベヤリング」ヲ設ケ完全ニ平衡ヲ保タシムルモノニシテ凡テ軸承部ハ夏期ニ於テモ攝氏五〇度以下タルヘシ

一、總テ軸承內ノ油ハ外部ニ漏洩セサル樣遠心力ニ依ル循環式トシ摩擦面ハ高級ノ「ホワイトブロンズ」ノ裏金ヲ附シ容易ニ點檢及取替ナシ得ル構造トスヘシ

一、總テ軸承ニハ注油口「オイルゲージ」及油拔「コツク」等ヲ附スヘシ

一、臺I桁ハ別途建築工事ノ進捗ニ伴ヒ之ト詳細打合セノ上納入者ニ於テ材料勞力一切負擔シ規定位置ニ据付ナスモノニシテ幾分誤差ノ虞アルニヨリ中間軸及軸承等ハ製作及取付ニ考慮ヲ拂フモノトス

一、喞筒室地階中段ニ別紙圖面ノ通リI型竝ニ[型鋼材ヲ「コンクリート」壁ニ設置シ喞筒中間竪軸々承ノ臺桁トナシ之ニ「ガイドボールベヤリング」付軸承ヲ取付ルモノニシテ臺桁ハ契約後一ケ月以內ニ詳細圖提出ノ上承認ヲ承ケ製作納入ナスモノトス

一、喞筒ハ中間竪軸ヲ介シテ一階上ノ參拾馬力誘導電動機ト直結スルモノニシテ電動機ハ鑄鐵製電動機臺上ニ固定シタルモノヲ一階床面上ニ設置シ中間竪軸ハ喞筒ト「リヂツトカツプリング」ニ依リ連結シ他端ハ電動機ト「フレキシブルカツプリング」ニ依リ結合シ共ニ心々狂ヒナク垂直ニ組立ナスモノトス之ニ要スル「アンカーボールト」ハ別途工事ニ支障ナキ樣送附スヘシ「カツプリング」及同附屬品ハ高速度回轉ニ完全ニ平衡ヲ保ツ樣入念ニ製作ナスモノニシテ總仕上ケトス

一、中間竪軸ハ一階床上ニ設置シタル電動機臺ニ設クヘキ「スラストガイドベアリング」ニ支持セシメ電動機回轉部ハ電動機頂部ニ裝備シタル「スナストガイドベアリング」ニ依リ支持セシムルモノトス

一、電動機臺中ニ設クル軸承中「スラスト」ハ「ボールベアリング」トシ「ガイド」ハ「ボールベアリング」又ハ「バビツトメタル」トス

「ボールベアリング」ハ凡テSKF印ヲ用ヒ荷重ニ對シ充分餘裕アルモノヲ使用スヘシ

一、鑄鐵製電動機臺ハ適當ナル大サト充分ナル强度ヲ保有セシメ其ノ上下兩面ハ正シク水平ニ削成シ電動機ト接合スル面ハ印籠接トナシ心々正確ナラシムヘシ

一、喞筒及各附屬品ノ塗裝ハ凡テ完全ニ銹及鑄砂等除去シタル後行ヒ水壓試驗ヲ行フモノハ試驗終了後塗裝ナスモノニシテ錆止メ二回塗仕上ケ二回塗トシ内一回ハ現場据付後本市指定ノ色合ニ塗裝ナスモノトス但「コンクリート」埋設部ハ塗裝スヘカラズ

二　附屬鐵管及弁類

一、請負人ニ於テ製作納入スヘキ鑄鐵管及弁類ハ次ノ通リトス

(一)　兩鍔短管　口徑二五〇粍　長三六〇粍　三個ボルトパツキング附屬トス

別紙鐵管寸法配置圖參照ノ上喞筒中心距離ニ依リ本市係員ノ承認ヲ受ケ幾分長サノ變更ヲナシ得ルモノニシテ三八粍砲金弁取付座ヲ鑄出スルモノトス

(二)　鍔付竪型制水弁　口徑二五〇粍　四個

(三)　鍔付「フートバルブ」　口徑二五〇粍用　貳個（ストレーナー付）

一、鑄鐵管ハ上水協議會高級鑄鐵異形管ノ規格ニ依リ製作竝ニ試驗ヲナスモノトス
一、制水弁ハ昭和六年第二十八回上水協議會決定ノ水道用制水弁規格ニ依リ製作竝ニ各種試驗ヲナスモノニシテ所定ノ個所ニ水ノ字製作年號㊀竝ニ製作所ノ記號ヲ高サ三粍ニ鮮明ニ鑄出スルモノトス
一、吸入側貳個ノ制水弁ハ地階ニ於テ操作スルモノニシテ手把ニハ開閉方向指示矢印ヲ附スルモノトス
一、排出側貳個ノ制水弁ハ喞筒室一階床上ニ於テ操作ナスモノニシテ高サ約八〇〇粍ノ堅牢ニシテ體裁良キ鑄鐵製圓錐形「スタンド」ヲ床面ニ基礎「ボールト」ヲ以テ定置シ之ニ手把竝ニ開閉指示器軸承等ヲ設ケ中間軸及軸承「カップリング」等適當ナル裝置ニ依リ制水弁軸ト連結シ容易ニ開閉ナシ得ルモノトス
一、開閉指示器ハ齒車式トシ齒車盤ニ「ニッケル」鍍金砲金板ヲ貼付之ニ拾分率ノ目盛ヲ鮮明ニ刻シタル體裁良キ構造トシ軸承ハ前記臺桁ニL型鋼材ヲ取付之ニ支持セムヘシ
一、「フートバルブ」ハ水道用鍔付鑄鐵管ニ取付ルニ依リ之ニ適合セシメ扁平型ニシテ「ストレーナー」孔ノ總面積ハ「バルブ」口徑ノ四倍以上トス
一、「バルブ」内ニ於ケル水ノ通路ハ各部共充分ナル餘裕ヲ有シ漏水ナク構造堅牢ニシテ喞筒ノ急停止時ニ於テモ何等支障ナキモノトス「バルブ」ハ優良ナル象皮又ハ同等以上ノモノニシテ座當リハ砲金製トシ漏水ナキ樣丁寧ニ仕上ケタルモノトス

三　眞空及汚水喞筒竝ニ手押喞筒

一、眞空喞筒ハ一階喞筒室床ニ壹臺設置スルモノニシテ鑄鐵製共通床盤上ニ於テ參馬力三相誘導電動機ニ依リ運轉ナス往復動型トシ喞筒最高眞空度ハ水柱八・八米最大風量每分約一・一立方米以上ノ效率優秀ナルモノトス
一、本喞筒ニハ眞空槽ヲ備ヘ同槽ニハ各部喞筒及「サイフオン」管連絡用鐵管弁類等ヲ具備スルモノニシテ別紙圖面ノ通リ地階喞筒室井戸頂部ニ基礎「ボルト」ニ依リ定置スヘキモノトス
一、眞空槽ハ内徑壹米高サ一・八米ノ鋼板製圓筒形ニシテ外板ハ厚サ九粍以上底板ハ一二粍以上一九粍ノ「リベット」ヲ以テ堅牢鋲鋲ナシタル後接合部ハ凡テ丁寧ニ「コーキング」ヲ施シ完全ニ氣密ヲ保タシメ各種鐵管取付座及水位計ヲ有シ水銀其他適當ナモノヲ使用シ槽内ニ空氣ノ漏洩ナキ機構ニ依リ水位變化ニ於テモ槽内規定水位ヲ一定ニ保タシムル樣（但シ規定水位ヨリ背面壓力高キ場合ハ別トス）眞空喞筒ノ始動及停止ヲ確實ニ操作セシムル完全ナル自動運轉裝置ヲ設クルト共ニ手動ニ依リ容易ニ運轉ナシ得ルモノトス
一、自動運轉裝置用「リミットスヰッチ」ハ防水用ニシテ配線及「マグネットスヰッチ」配電盤等ハ前記用途ニ適スル樣設計製作ナスモノニシテ別項配電盤、仕樣書ヲモ考慮ノ上製作スルモノトス

一、眞空槽ハ絕對氣密ヲ保持セシムルモノニシテ各鐵管器具等取付及自動運轉裝置設備ノタメ眞空槽内ニ空氣ノ侵入セサル樣優良ナル設計竝ニ製作ヲナスモノニシテ規定水位ハ ＋14M5 トス
一、喞筒吸氣管ハ口徑五〇粍亞鉛引瓦斯管ニシテ一階天井迄立上リタル後地階眞空槽頂部ニ連絡セシメ「サイフオン」管用ハ貳本ニシテ各既設「コンクリート」壁穴ヲ通シ井戸枠内圓周ニ添ヒ配管ナシ所々ニ振止金具ヲ以テ固定シ「サイフオン」管ニ丁寧ニ穿孔ナシ口徑二〇粍砲金弁ヲ捻込ミ連絡スルモノトス凡テ鐵管取付根元ニハ砲金製塞止弁ヲ取付鐵管途中ニハ「ユニオン」又ハ鍔接手ヲ設クヘシ「サイフオン」管用亞鉛引瓦斯管ハ徑三二粍壹本長約一二米突トス
一、汚水喞筒ハ竪型ニシテ壹馬力電動機ニ依リ運轉セラル、口徑三八粍渦巻喞筒ニシテ喞筒室地階ニ於テ汚水溜ニ集結シタル汚水及導水管渠内ノ汚水ヲ吸入側制水弁ノ切換ニ依リ一階喞筒室外ニ交互ニ排水セシムルモノニシテ製作据付等凡テ主迄水喞筒ト同型トス中間竪軸承ハ「コンクリート」壁ニ丈夫ニ取付横振其他振動ナキモノトス
一、喞筒容量左ノ基準ニ據ルモノトス
(イ)　喞　筒　口　徑　　三八粍
(ロ)　喞　筒　全　揚　程　　九米突
(ハ)　每分時揚水量　　一二〇立
(ニ)　每分回轉數　　約一七五〇
(ホ)　喞　筒　効　率　　四五%
一、喞筒主要部分及附屬品左ノ如シ
(イ)　渦巻喞筒及鑄鐵製臺盤中間軸共　壹臺
(ロ)　電動機及鑄鐵製臺盤「ガイドボールベアリング」附壹臺
(ハ)　中間軸承（ボールベアリング）　貳組
(ニ)　軸　接　手　　四組（内一個可撓接手）
(ホ)　制　水　弁　　參組
(ヘ)　壓　力　計　　壹組
(ト)　鐵管及「ベンド」類（亞鉛引㊀印）　壹式（室外三米突迄）
(チ)　「フートバルブ」（ストレーナー付）　貳組

(リ)　「ドレーンパイプ及コック」類　壹式

一、電動機及配電盤其他附屬器具配線等ハ別項配電盤仕樣考慮ノ上製作竝ニ据付ヲナスモノトス

一、手押喞筒ハ口徑三二粍ウイング喞筒ニシテ一階喞筒室壁ニ取付ケ主送水喞筒排出管ノ内座付鑄鐵管ヨリ分岐シテ吸入シ喞筒室屋上ニ鐵製水槽ヲ設ケテ之ニ揚水シ飲量水竝ニ重油機關設置後ノ冷却水ニ使用スルモノトス

一、喞筒吸入管ハ主送水管分岐點ニ三八粍砲金弁ヲ取付適當ナル位置迄三八粍管ヲ配管シ之ヨリ三二粍管ヲ分岐シ一方ヲ喞筒吸入管トシ一方ヲ盲蓋ナシオクモノトス

一、水槽ハ喞筒室屋上ニ設置スルモノニシテ容量〇・八立方米突ノ矩形ニシテ五粍厚以上ノ鐵板ヲ鋲鋲ナシ漏水ナキ樣叮嚀ナル「コーキング」ヲ施シ吸水管、送水管餘水吐竝「ドレーン」管ヲ取付ルモノニシテ人孔及空氣拔曲管ヲ備ヘ喞筒室内ニ水位ヲ指示スル裝置ヲ施スモノトス

各種管ニハ砲金弁ヲ凡テ取付ケ洗面器用ニハ「ニツケル」鍍金一二粍徑ノ給水栓ヲ設備スルモノトス

一、鐵管ハ亞鉛引瓦斯管ニシテ室内ハ最モ體裁良ク配管ナシ必要ナル部分ニハ振止メ金具ヲ附スルモノトス

一、水槽ハ製作終了後水壓試驗ヲナシ内外面共完全ニ銹落シノ上叮嚀ニ銹止メ塗料二回ヲ塗布シ現場ニ於テ本市指定ノ色合ニ仕上ケ塗裝ナスモノトス

一、喞筒室内ニ設置シアル手洗器ニハ給水竝ニ排水管ヲ布敷スルモノニシテ排水ハ室外下水桝内ニ排出セシムルモノトス

四　水壓試驗

一、水壓試驗ハ本市吏員立會ノ上製造工場ニ於テ行フモノニシテ左記規定ノ水壓ヲ加ヘ相當時間ヲ保タシメツヽ輕ク鎚打ヲナシ漏洩其他ノ欠點ナキ事ヲ要ス

一、喞筒「ケーシング」　毎平方糎ニ付　一五瓩

一、「フートバルブ」　同　一七・五瓩

一、眞　空　槽　六瓩

五　試　運　轉

一、喞筒及電動機製作終了後工場ニ於テ本市係員立會ノ上本仕樣書ニ依リ喞筒及電動機直結ノ上各種性能試驗ヲ行フモノニシテ成績表作製ノ上各三通提出スルモノトス

一、吸水嵩（損失嵩ヲ含ム）ハ喞筒中心高ヨリ平水時四・六及渇水時六・六米以下ニアルモノトス若シ右高サヲ保チ難キトキハ吸水側制水弁ニヨリ四・六及六・六米ニナル樣調整運轉ナスモノトス

一、測點ハ八點以上計測シ各點共三十分以上連續運轉ナスモノニシテ仕樣書中ノ最高及最低水嵩ニ於テ各壹時間宛ノ連續運轉ヲナスモノトス

制水弁締切後ノ水嵩ハ二〇米ヲ降ルヘカラズ

第三項　淨水場設備要項

一、口徑二〇〇粍横軸送水喞筒　鐵管其他附屬品共　四臺

一、同三八粍「ロータリー」眞空喞筒　同　壹臺

一、送水喞筒用五〇馬力電動機　附屬品共　四臺

一、眞空ポンプ用　二馬力電動機　同　壹臺

一、避雷針裝置　壹式

一、配電盤及各種配線　壹式

一、一〇K、V、A誘導電壓調整器　壹臺

一、機械据付竝配線工事　壹式

一　淨水場送水喞筒

一、本喞筒ハ口徑二〇〇粍横軸二段「タービン」喞筒四臺トシ竝列運轉ヲ行ヒ得ルコトヲ要ス別紙配置圖ノ通リ喞筒室内ニ設置シ別項記載三相誘導電動機ニ依リ運轉ナスモノニシテ内壹臺ハ廻轉方向反對向トス

一、喞筒四臺ノ内壹臺ハ配水塔ノ水位ノ變化ニ依リ自動的ニ運轉又ハ停止ヲナシ常ニ規定水位ヲ保持セシムル裝置ヲ有シ且ツ必要ニ應シ隨時手動ヲ以テ運轉又ハ停止ヲナシ得ル機構トス

一、本喞筒ノ設計基準ハ次ノ通リトス（但壹臺ニ付）

(イ)　全揚程（最大）　四〇・〇米突

同　（最小）　三六・三三米突

(ロ)　毎分時揚水量（最大時）　三・三三立方米

同　（最小時）　三・八〇立方米

(ハ)　喞筒効率　七四％以上

(ニ)　毎分回轉數（約）　一、一六〇

(ホ)　原動機馬力　　五〇馬力

一、喞筒ノ揚程ハ相當變化ヲ生スルニ付如何ナル場合ニ於テモ安定ヲ保チ圓滑ナル運轉ヲ行フモノタルヘク眞空計壓力計竝ニ水位指示器抽氣管氣密管「ドレーン」管等凡テ完備セシムルモノトス

一、喞筒及電動機ハ共通床盤上ニ設置シ「フレッキシブルカップリング」ニ依リ連結運轉ナスモノニシテ「カップリング」表面ハ機械仕上ケナシ完全ニ平衡ヲ保チ高速度回轉ニ對シ何等支障ナキモノトス

一、喞筒外筐ハ鑄鐵製ニシテ充分ナル肉厚ヲ有シ直下ニ吸入口ヲ具ヘ軸心ニ直角ニ水平方向ニ吐出口ヲ有セシメ各臺共喞筒室內床面下ニ引入レタル吸水主管ヨリ分岐吸水シ各吐出管ハ床面下ニ設置シ喞筒室外吐出主管ニ合流セシムルモノニシテ內部ノ羽根車及案內羽根ノ檢査又ハ修理ノタメ容易ニ取外シ得ル構造トスヘシ

一、「ケーシング」各部ノ接合面ハ入念ニ仕上ゲ水密且氣密ヲ保タシメ「カバー」及軸承等凡テ喞筒軸心ヲ正確ニ保持スル樣印籠接手トナシ鐵管取付鍔ハ厚サ二六粍以上鍔面ニ附スル段ハ五粍以上トシ其他各部寸法ハ上水規格鐵管ト同一トス

一、「スタッフィングボックス」ハ「ウオタ―シール」スベキ構造ニシテ「シーリングウオーター」及油脂ニテ煮込ミタル綿組紐等ヲ附シ完全ニ氣密ヲ保タシムヘシ

一、軸承ハ外筐ノ兩側ニ設ケ自動注油裝置トシ外部ニ油ノ漏洩ヲ防キ摩擦面ハ優良ナル「ホワイトブロンズ」ノ裏金ヲ附シ容易ニ取替得ルモノトス軸承ハ充分ナル支持面積ヲ有セシメ橫壓ニ對シテハ「スラストボールベヤリング」ヲ設ケ完全ニ平衡ヲ保タシムルモノニシテ凡テ軸承部ハ夏季ニ於テモ攝氏五〇度以下タルヘシ

一、羽根車及案內羽根ハ最モ優良ナル燐靑銅製ニシテ回轉ニ對スル釣合良好ニシテ震動音響等ナク圓滑ナル運轉ヲナスモノトス

一、羽根車ノ「ケーシング」ト接スル部分ニハ砲金製「リング」ヲ嵌入シ水ノ漏洩ヲ少カラシメ摩滅後ハ容易ニ取替得ル構造トシ堅固ニ取付置クモノトス

一、喞筒軸ハ强靱ナル「ニッケルスチール」製ニシテ正確ニ仕上ケ水潤部ハ砲金ノ「スリーブ」ヲ固ク嵌込モノトス

一、「ケーシング」ニハ砲金製「コック」付呼水注入口及眞空喞筒連絡抽氣口ヲ設ケ且「ドレーン」及排水又ハ軸承ノ油等カ室內床面ニ流出セサル樣適當ナ裝置ヲナシ銅管ヲ以テ體裁良ク漏斗內ニ取纏メ室外排水土管ニ導クモノトス

一、總テ軸承ニハ注油口「オイルゲージ」及油拔「コック」等ヲ附スヘシ

一、塗裝ハ水源送水喞筒ノ要項ニ同シ

二　附屬鐵管及弁類

一、請負人ニ於テ納入設置スヘキ鑄鐵管及弁類ハ次ノ通リトス

(一)　兩鍔鐵管　口徑二〇〇粍　長　五個　「ボルトパッキン」附屬ノコト

(一)　同　　同　　四個　〃砲金弁取付座ヲ鑄出ノコト

別紙喞筒配置圖參照ノ上喞筒中心距離ニ依リ本市係員ノ承認ヲ受ケ幾分長サノ變更ヲナシ得ルモノトス

(一)　鍔付竪型制水弁　口徑二〇〇粍　八個

(一)　鍔付逆止弁(三二粍パイパス付)　口徑二〇〇粍　四個

一、鑄鐵管ハ上水協議會高級鑄鐵異形管ノ規格ニ依リ製作竝ニ試驗ヲナスモノトス

一、制水弁ハ昭和六年第廿八回上水協議會決定ノ水道用制水弁規格ニ依リ製作竝ニ各種試驗ヲナスモノニシテ所定ノ個所ニ水ノ字製作年號㊎竝ニ製作所ノ記號ヲ高サ三粍ニ鮮明ニ鑄出スルモノトス

一、制水弁竝ニ逆止弁ハ凡テ床面下ニ設置シ本請負人ニ於テ厚九粍以上ノ縞鋼板ヲ椽金物上ニ嵌込ミ覆ヲ施スモノトス吸込側手把ハ床面下ニ具ヘ吐出側ハ覆板上ニ高サ約八〇〇粍ノ堅牢ニシテ體裁良キ鑄鐵製圓錐形「スタンド」ヲ定置シ之ニ手把竝ニ開閉指示器軸承等ヲ設ケ容易ニ開閉操作ヲナシ得ルモノトス

一、開閉指示器ハ歯車式トシ歯車盤ニ「ニッケル」鍍金砲金板ヲ貼付之ニ拾分率ノ目盛ヲ鮮明ニ刻シタル體裁良キ構造トス

一、逆止弁ハ水道用鍔付鑄鐵管ニ取付ルニ依リ之ニ適合セシメ扁平型ニシテ水ノ通路ハ充分餘裕アルモノニシテ漏水ナク構造堅牢ニシテ喞筒ノ急停止時ニ於テモ何等支障ナク「バルブ」ハ優良ナル象皮又ハ同等以上ノモノニシテ座當リハ砲金製トシ漏水ナキ樣叮嚀ニ仕上ケナスモノトス

三　眞空喞筒竝ニ給水裝置

一、眞空喞筒ハ「ロータリー」式ニシテ喞筒及電動機ヲ共通床盤上ニ設ケ「フレッキシブルカップリング」ヲ以テ連結運轉ナスモノニシテ別紙配置圖ノ通リ喞筒室內ニ壹臺設置スルモノトス

一、喞筒最高眞空度ハ水柱五米突最大風量每分約〇・七立方米突以上トシ製作効率共ニ優秀ナルモノトス

一、眞空喞筒抽氣管ハ各送水喞筒頂部砲金弁ニ連絡シ任意ニ切換使用ナスモノニシテ排氣管ハ喞筒室外排水土管內ニ導キ置クモノトス

一、眞空喞筒運轉用電動機ハ貳馬力三相誘導電動機ニシテ配電盤配線其他附屬器具ト共ニ別紙配電盤仕樣書ニ依リ施工ナスモノトス

一、送水喞筒吐出管ノ一部ニ座ヲ鑄出シ口徑三八粍砲金弁ヲ取付ケ之ヨリ分岐シ各喞筒「シーリング」竝ニ眞空喞筒給水其他手洗用ニ送水セシムルモノニシテ連絡用鐵管ハ凡テ亞鉛引瓦斯管竝ニ⚇印ヲ使用シ手洗器用給水栓ハ「ニッケル」鍍金口徑一二粍ヲ設備スルモノトス

一、手洗器ハ喞筒室内壁ニ取付ケアルヲモツテ「ドレーン」ハ室外下水桝内ニ鐵管ヲ以テ排出セシムルモノトス

四　水壓試驗

一、要項水源送水喞筒ニ同シ　但逆止弁水壓毎平方糎ニ付一七・五瓩

五　試運轉

一、要項水源喞筒ニ同シ　但喞筒吸水嵩中心ヨリ一米突下ニアルモノトス

第四項　雜則

一、請負人ニ於テ製作納入スヘキ制水弁竝ニ鑄鐵管ハ凡テ本市梅ケ枝通リ檢査所ニ搬入シ水壓竝ニ各種檢査ヲ受ケ合格ノ上請負人ニ於テ設置場所ニ運搬取付ヲナスモノトス

一、喞筒室用鐵管ノ内本市ヨリ支給スルモノハ當市梅ケ枝通リ檢査所ニ於テ受領シ請負人ニ於テ小運搬竝ニ取付一切ナスモノハ次ノ通リニシテ運搬取付等ニ於テ支給鐵管ニ損傷ヲ生シタル時ハ凡テ請負人ハ其ノ責ニ任スルモノトス

一　水源喞筒室用

一、兩錣短管　口徑二五〇粍　長(粍)一、二五〇―五五〇　貳個「ボルトパッキング」附屬ノコト
一、片錣短管　〃　〃　一、三五〇―一、二五〇　貳個　〃
一、無頭管　〃　〃　九九〇　壹個
一、挿承片落管　四五〇×二五〇　壹個
一、叉　管　四五〇×二五〇　貳個
一、片承短管　四五〇　一、六一五　壹個
一、栓　甲　二五〇　壹個
一、兩錣四十五度曲管　二五〇　壹個「ボルトパッキング」附屬ノコト
一、兩承四十五度曲管　二五〇　壹個

二　淨水場喞筒室用

一、兩錣短管　口徑六〇〇粍　長(粍)一、五七四　貳個「ボルトパッキング」附屬ノコト
一、同　〃　〃　〃　、八〇〇　壹個　〃
一、片錣短管　〃　〃　〃　二、〇〇〇　壹個　〃
一、四錣十字管　六〇〇×二〇〇　參個　〃
一、盲　蓋　六〇〇用　壹個
一、同　二〇〇用　參個
一、片錣直管　二〇〇用　四、〇〇〇　參本
一、兩錣九十度曲管　二〇〇　拾六本

一、各鐵管ハ請負人ニ於テ規定位置ニ連絡ノ上承口部ノ接合ノミ本市ニ於テ施行スルモノトス

一、送水喞筒壓力計ハ凡テ水柱ヲ米突ニテ表シ文字板ノ徑一二五粍以上トシ水源用ハ最高二五米突トシ一米突ヲ表シ淨水場用ハ六〇米突トシ二米突ヲ表シ眞空計ハ最高十米突ニシテ〇・五米突ヲ表シ東京計器製作所又ハ之ト同等以上ノ製品ニシテ檢定濟トス

一、喞筒附屬品ハ次ノ通リトス

一、特種分解組立用工具　壹式
一、各種「スパナー」　貳組
一、柄付片手ハンマー　半瓩　四丁
一、柄付ハンマー　二瓩半　貳丁
一、内外キヤリパス　七五粍　一二五粍　三〇〇粍　各貳組
一、眞鍮製油差鼠型　大小　各貳組
一、同　ラッパ型　小　貳個
一、錠付鐵製道具箱　長七〇〇×二〇〇深　三〇〇粍　貳個
一、臺付油小出管　二五立入　貳個

三　喞筒豫備品ハ次ノ通リトス

一、壓力計　(水源用)　壹個
一、眞空計　貳個
一、壓力計　(淨水用)　貳個
一、喞筒及電動機用「スラストベアリング」(水源用)　壹臺分

一、喞筒軸承「メタル」（水源用）　壹臺分
一、同　（淨水用）　壹臺分

電氣機械器具供給竝据付仕樣書

第一章　總　則

第一條　本仕樣書ニ依ル購入及据付ヲナスモノハ左記ノモノニシテ總テ機構完全ニシテ長時間ノ連續運轉ニ何等ノ支障ナキ製作効率共ニ優秀ナルモノニシテ運轉上必要ナル一切ノ附屬品ヲ具備セシメ夫々水源地及淨水場喞筒室ニ据付ヲ行フモノトス

一、配電盤供給竝据付工事
二、電動機供給竝据付工事
三、變壓器供給竝据付工事
四、誘導調整器供給竝据付工事
五、前記ヲ連絡スル配線工事
六、電燈材料供給竝取付配線工事
七、避雷針材料供給竝ニ設置工事

第二條　本工事ニ必要ナル金屬管木片、鐵片、碍子類等ニシテ豫メ建築物內ニ埋込ミ又ハ取付ヲ要スヘキモノハ別途契約中ノ建築請負工事者ニ於テ施行スヘキニ付本請負人ハ之カ材料一切ヲ本契約後速ニ供給シ配管埋設等ニ關シ充分ノ協調ヲナシ本工事ヲ完全ナラシムルハ勿論建築工事ノ進捗上手違ヲ生セシムル如キコトアルヘカラス

第三條　配管、配線取付等ハ安全ヲ期スルト共ニ簡明ニシテ美觀ヲ損傷セサル樣施行スヘシ

第四條　使用電線電纜器具機械及附屬品等ハ總テ材料ヲ精選シ製作ヲ入念ニナシ工事ヲ周到ナル注意ノ下ニ施行シ電氣的機械的共ニ完全ナルモノタルヘシ

第五條　本工事ハ製作、配線、配管、据付、取付共ニ日本電氣工藝委員會ノ標準規格ニ則リ且ツ電氣工作物規程ヲ嚴守シテ施行スヘシ

第六條　配置圖接續圖ハ別紙圖面ヲ標準トシ詳細ニ關シ或ハ本仕樣書ニ對シ疑義ノ點ハ本市係員ノ指示ニ依リ主旨ヲ充分斟酌ナシ最善ノ方法ヲ以テ本工事ヲ完全ニ遂行ナスモノトス

第七條　本仕樣書ニ明記ナキモノト雖モ工事上當然必要ナルモノハ之ヲ提供シテ施行シ猶本施設ニ對シ適當ト認ムルモノハ本市係員ノ承認ヲ經テ之ヲ變更ナシ施行スヘシ

第八條　別項喞筒仕樣書ノ條項ニ示スモノノ內關聯スルト認ムルモノハ本契約ニ適用スルモノトス

第九條　本請負人ハ契約締結後二ケ月以內ニ本設計ニ依ル配置圖電線接續圖等詳細ナル圖面ヲ提出シ本市ノ承認ヲ受クヘシ

第十條　本請負人ハ契約締結後七ケ月以內ニ納入据付ヲ完了スルモノトス

第十一條　据付後運轉上ニ必要ナル變壓器油、開閉器油、炭素刷子、包裝可熔片等ノ消耗品ニ類スルモノハ壹式具備スルハ勿論猶豫備トシテ約一割以上適量ヲ同時ニ納入スルモノトス

第十二條　機械器具類一切ハ本市ノ適當ト認ムル方法ニ依リ嚴密ナル檢査ヲ行ヒ合格ノモノヲ採用ス納入請負者ハ之ニ關シ一切異議ノ申立ヲナササルモノトス

第十三條　前條檢査ハ一部製作工場ニ於テ行フコトアルモ其他ハ指定會社ノ檢査ヲ受クルモノ或ハ据付後試驗檢査ヲ行フモノアルモ之ニ要スル一切ノ費用ハ納入請負者ノ負擔トス但シ据付後試驗ニ要スル電動力ハ當市ニ於テ支給ス猶納入者ハ遞信省落成試驗ニ立會ヲナスモノトス

第二章　配　電　盤

第十四條　配電盤ハ鑛脈ヲ含マサル良質ノモノニシテ歪其他ノ缺點ナク磨仕上ケヲナシタル上良質强靱ナル防濕性塗料ヲ吹付ケタル艶消黑色ノ大理石ヲ用ヒ各盤同一列ニ取付ケ外觀優美ナルモノトス

第十五條　盤ハ總テ之ニ必要ナル鐵製枠ヲ設置シ裏面接續碍子其他附屬品一式ヲ備フルモノトス

第十六條　盤ノ鐵枠ハ堅固ナル枠組ヲ構成シ床面ニ取付クモノニシテ盤ノ下ニハ溝型鋼ヲ床面ニ埋込ミ「ボールト」ニ依リ組立ツルモノニシテ優美ニ仕上ケタルモノタルヘシ之ニ要スル「ボールト」ハ豫メ圖面ト共ニ納入スヘシ

第十七條　計器類ハ正確ニシテ明瞭ナル目盛ヲ施シ體裁ヨキ外觀ヲ有スヘシ

第十八條　盤ノ設置及開閉器ノ取付ケハ操作ニ便利ニシテ且安全ニ動作シ得ルモノタルヘシ

第十九條　開閉器類ハ總テ充分ナル電流容量ヲ有シ電氣的機械的共ニ堅牢完全ナルモノタルヘシ

第二十條　母線其他電線等ハ夫々適當ナル碍子其他ノ絕緣物ニ依リ完全ニ支持セシムヘシ

第二十一條　盤ノ裏面枠組上ニ受電用母線及發電機用母線ノ二回線ヲ設ケ電動機回路ヲ何レノ母線ニモ切換得ル如ク双投開閉器ヲ裝置スヘシ

第二十二條　兩母線ヲ結フ爲メ充分ノ容量ヲ有スル帶開閉器ヲ裝置スヘシ

第二十三條　配電盤枠組ニハ完全ナル第一種地線工事ヲ施スヘシ

(一)水　源

(イ)發電機盤　壹面

第二十四條　盤ノ大サ約 500粍×(1200粍+700粍)×40粍 ニシテ二二〇V四〇KVA六〇「サイクル」三相三線式交流回路ヲ支配シ得ヘキモノニシテ左記ノモノヲ具備スヘシ

交流電壓計	最大目盛三〇〇V	壹個
同用開閉栓及栓受	八孔四脚	貳組
交流電流計	二五〇V 最大目盛一五〇A	壹個
同用變流器	一五〇／五A	貳個
同用轉換開閉器		壹個
三相交流指示電力計	二〇〇V 最大目盛六〇「キロワット」	壹個
三極單投油入自働遮斷器	三五〇〇V、二〇〇A引外線輪二箇及低壓繼電器付	壹個
過電流繼電器	誘導型	貳個
表示燈	白色	壹個
開閉信號燈	青、赤	壹組
直流電壓計	最大目盛一五〇V	壹個
直流電流計	二五〇V 最大目盛二五A	壹個
界磁開閉器	二五〇V 一〇〇A	壹個
界磁抵抗器把手		壹個
勵磁用界磁抵抗器把手		壹個
單極單投切斷開閉器	三五〇V 二〇〇A	參個
ディスコンフック	長一・五米把手付	壹本

二極單投刄型開閉器	一五〇V三〇A 一〇A包裝可熔安全器付	參個
カードホールダー		四個

盤ニ裝置セル油入遮斷器ハ手働式トシ盤ノ前面ニ操作把手ヲ有シ開閉器部分ハ盤ノ裏面ニ具ヘ低電壓及過電流ノ際ハ自働的ニ遮斷スルモノニシテ尙信號燈用機構ヲ有シ遮斷器ノ開閉ニ開聯シテ點滅スルモノタルヘシ

(ロ)電動機盤　貳面

第二十五條　盤ノ大サ約 400粍×(1200粍×700粍)×40粍 ニシテ二〇〇V三〇馬力六〇「サイクル」三相交流捲線型誘導電動機ヲ支配スルモノニシテ各盤左記ノモノヲ具備スヘシ但シ積算電力計ハ引込線ニ接續シ配電盤鐵枠中適當ノ個所ニ裝置スヘシ

交流電流計	二五〇V 最大目盛一二〇A	壹個
同　用變流器	一二〇／五A	貳個
交流電流計	二五〇V 壹面二〇A 壹面一〇A	各壹個
過電流繼電器	喞子型	貳個
操作用釦開閉器		貳組
表示燈	白色	貳個
交流積算電力(檢定濟品)計	二〇〇V二〇〇A不平衡三相三線式同器用變流器其他附屬品一切	貳面ニ對シ壹組
開閉信號燈	赤青	貳組
二次短絡表示燈	赤色	壹個
一次側電磁開閉器		壹式
二次短絡裝置		壹式
カードホールダー		貳個

本盤ノ裝置ハ釦操作ニ依リ一次側ノ開閉ヲ司リ自働的ニ二次側ヲ順次短絡或ハ開放セシメ起動ニ際シ電源回路ニ大ナル電擊ヲ及スコトナク圓滑ニ運轉ナシ得ルモノタルヘク且ツ過電流ニ際シテハ自働的ニ一次回路ヲ開キ電動機ニ障害ヲ與ヘサル設備ヲナスヘシ

一次側開閉器二次側短絡裝置ハ盤ノ裏面ニ點檢容易且ツ安全ナル如ク之ヲ設備スヘシ
猶電動機盤ノ內壹面ニ眞空喞筒運轉用電動機ヲ支配スル鉛開閉器電流計及表示燈ヲ具ヘ他ノ壹面ニ汚水喞筒運轉用電動機ヲ支配スル鉛開閉器電流計及表示燈ヲ具ヘ同盤面ヨリ操作シ得ル如ク裝置スヘシ
又發電機盤ニ裝置セル二個ノ電壓計用開閉栓ニ依リ受電々壓發電々壓ヲ切換ヘ同一計器ニ依リ檢シ得ル如クスヘシ

(ハ)配　電　函　貳　個

第二十六條　本函ハ三馬力眞空喞筒運轉用電動機及一馬力汚水喞筒運轉用電動機ヲ制御スルモノニシテ前記電動機盤ニ裝置セル鉛開閉器ノ操作ニヨリ電磁接觸器ヲシテ開閉セシメ全電壓起動及運轉停止ヲナサシムル裝置ヲ有シ猶過電流ノ際ハ自働的ニ回路ヲ開放スルモノタルヘシ
前項各電動機盤上ノ表示燈電流計鉛、開閉器ハ本器ト連絡ヲ有スルモノトス本器ハ前項電動機盤ノ二次短絡盤ノ下部ニ之ヲ取付クルモノトス
猶眞空喞筒用電動機ヲ制御スル爲メ別項喞筒仕樣書ト關聯シテ前記鉛開閉器ノ外自働的ニ運轉及停止ヲナシ得ル機能ヲ有スヘシ

(ニ)淨　水　場

(イ)受　電　盤

第二十七條　盤ノ大サ約 500粍×(800粍×800粍×700粍)×40粍ニシテ三、五〇〇V二〇〇KVA六〇「サイクル」三相三線式交流回路ヲ支配シ得ヘキモノニシテ左記ノモノヲ具備スヘシ

交流電壓計	最大目盛四、五〇〇V	壹個
同用變壓器	三、三〇〇／一一〇V	貳個
同變流器用單極單投切斷開閉器	可熔安全器付	參個
同電壓計用開閉栓及栓受	八孔 四脚	壹組
交流電流計	三、〇〇〇V 最大目盛五〇A	參個
同用變流器	五〇／五A	貳個
三相交流積算電力計	三、〇〇〇V三〇A 不平衡式檢定濟品、變壓器變流器等附屬品一切	壹組
三相交流指示電力計	三、〇〇〇V 最大目盛一五〇「キロワツト」	壹個
過電流繼電器	誘導型	貳個
三極單投油入自働遮斷器	三、五〇〇V二〇〇A 引外線輪二個及低電壓繼電器	壹個
單極單投切斷開閉器	三、五〇〇V二〇〇A	六個
弁型避雷器	屋外用	四個
塞流線輪	三、五〇〇V 二〇〇A屋外用	參個
三相靜電式漏電計	三、三〇〇V	壹個
開閉信號燈	赤青	壹組
表示燈	白色	壹個
デイスコンフツク	二米把手付	壹本
〃	一米把手付	壹本
カードホールダー		壹個

(ロ)變　壓　器　盤

第二十八條　盤ノ大サ約 400粍×(800粍×800粍×700粍)×40粍ニシテ左記ノモノヲ具備シ低壓二〇〇V九KVA六〇「サイクル」三相三線式交流回路及一〇〇V五KVA六〇「サイクル」單相二線式回路ヲ支配シ得ヘキモノタルヘシ

交流電壓計	最大目盛三〇〇V	壹個
〃	最大目盛一五〇V	壹個
交流電流計	二五〇V 最大目盛二〇A	壹個
〃	二五〇V 最大目盛五〇A	壹個

三極單投刄型開閉器	二五〇V三〇A二〇A包裝可熔安全器付開閉部配電盤裏面操作把手配電盤表面	壹個
二極單投刄型開閉器	一五〇V六〇A五〇A包裝可熔安全器付開閉部配電盤、裏面操作把手配電盤表面	壹個
〃	一五〇V三〇A 一〇A包裝可熔安全器付	四個
カードホールダー		七個

盤ノ二五〇V三〇A用三極刄型開閉器及二五〇V六〇A用二極刄型開閉器ハ何レモ盤ノ裏面ニ開閉部及包裝可熔安全器ヲ具ヘ之ヲ盤ノ表面ニ有スル把手ニ依リ操作シ得ル如キ機構ヲ有スヘシ

(ハ)　電動機盤

第二十九條　盤ノ大サ約 400粍×(800粍×800粍×700粍)×40粍ニシテ三、三〇〇V五〇馬力六〇「サイクル」三相三線式交流捲線型誘導電動機ヲ釦操作ニ依リ人爲的ニ或ハ配水塔水位ノ上下ニ依リ自働的ニ一次側油入開閉器ヲ開閉セシメ續イテ二次側接觸器ニ依リ起動抵抗ヲ順次短絡或ハ開放セシメ起動ノ際電源回路ニ大ナル電擊ヲ與フルコトナク圓滑ニ運轉ヲナサシメ且ツ過電流ノ際ハ自働的ニ一次回路ヲ開キ電動機ニ障害ヲ與ヘサル如キ裝置トナシタルモノニシテ盤ノ正面ニハ計器表示燈、繼電器、操作器具類ヲ具ヘ電磁開閉器類ハ盤ノ裏面ニ點檢容易動作安全ナル如ク裝置スヘシ
猶操作電源ハ二〇〇Vトシ各盤ハ左ノ如キモノヲ具備スヘシ

交流電流計	三、三〇〇V最大目盛一五A	壹個
同用變流器	三、三〇〇V一五／五A	貳個
三極單投電磁油入開閉器	三、三〇〇V一〇〇A引外線輪及低壓繼電器付	壹個
過電流繼電器	喞子型	貳個
自働手働切換裝置		壹個
釦開閉器		壹組
開閉信號燈	赤青	壹組
二次側短絡表示燈	赤色	壹個
表示燈	白色	壹個
單極單投切斷開閉器	三、三〇〇V一〇〇A	參個
二次抵抗自働短絡裝置		壹式
變壓器	二〇〇／五〇V	壹個
浮子開閉器	二五〇V一〇Aフロート重錘反鎖付	四面ニ對シ壹組
カードホールダー		壹個

浮子開閉器ハ電動機四臺ニ對シ壹組ナルヲ以テ各臺每ニ切換使用シ得ルモノニシテ確實ニ動作スル機能ヲ有スヘシ
猶配水塔水槽及配電盤間ニ更ニ壹回線ヲ架スルコトニヨリ低水位警報ヲナシ得ヘク水槽ニ低水位接觸器配電盤ニ高音ヲ發スル鳴動電鈴及表示燈ヲ裝置スヘシ

(ニ)　發電機盤

第三十條　盤ノ大サ約 500粍×(800粍×800粍×700粍)×40粍ニシテ三、三〇〇V五〇KVA六〇「サイクル」三相三線式交流回路ヲ支配シ得ヘキモノニシテ左記ノモノヲ具備スヘシ

交流電壓計	最大目盛四、五〇〇V	壹個
同用變壓器	三、三〇〇／一一〇V	貳個
同變壓器用單投切斷開閉器	三、三〇〇V可熔安全器付	參個
同電壓計用開閉栓及栓受	八孔四脚	壹組
交流電流計	三、三〇〇V最大目盛二〇V	參個

同用變流器	三、三〇〇V 一五／五A	貳個
三相交流指示電力計	三、三〇〇V 最大目盛八〇KW	壹個
過電流繼電器	誘導型	貳個
三極單投自動油入遮斷器	三、三〇〇V 引外線二個輪及低電壓繼電器付	壹個
單極單投切斷開閉器	三、三〇〇V二〇〇A	參個
表示燈	白色	壹個
開閉信號燈	赤青	壹組
直流電壓計	最大目盛一五〇V	壹個
直流電流計	一五〇V 最大目盛二〇A	壹個
界磁開閉器	二五〇V 一〇〇A	壹個
界磁抵抗器把手		壹個
勵磁機界磁抵抗器把手		壹個
三相靜電式漏電計	三、三〇〇V	壹個
カードホールダー		壹個

油入自働遮斷器ハ盤ノ正面ニ把手ヲ有シ開閉器部分ハ盤ノ裏面ニ具ヘ低電壓及過電流ノ際ハ自働的ニ遮斷ヲナシ尙信號燈用機構ヲ有シ遮斷器ノ開閉ニ關聯シテ點滅スルモノトス

（ホ）屋外設備

第三十一條　本設備ハ約65粍×65粍×6粍ノ角鐵ヲ以テ別紙圖ニ示ス如ク組立テ堅牢ナルハ勿論外觀モ亦充分考慮シ場内ノ風致ヲ損傷セサル樣留意スヘシ

第三十二條　枠組基礎ハ別途契約ニ依リ建築工事者ニ於テ施行スルヲ以テ其ノ臺上ニ本設備ヲナスモノトス

第三十三條　變壓器、誘導調整器ノ設置及開閉器、電纜終端函ノ取付等ハ操作ニ便利且ツ動作モ亦安全ニナシ得ルモノタルヘシ

第三十四條　塞流線輪及避雷器モ亦本枠組上ニ取付クルモノトス

第三十五條　角鐵枠組モ充分ナル容量ヲ有スル地線ヲ以テ完全ニ接地スヘシ

第三章　配　線

第三十六條　使用電纜、電線類ハ左記製造會社ノ製品ニシテ良ク精選サレタルモノタルヘシ

古川電氣工業株式會社　　住友電線製造所
藤倉電線株式會社　　日本電線株式會社
東京製線株式會社

第三十七條　母線及其他ニ使用スル導線ハ特ニ指定セサルモノ、外ハ總テ第四種絕緣電線ヲ使用スヘシ

第三十八條　電纜ノ兩端ニハ夫々適合スル屋外用又ハ屋内用ノ終端函ヲ用ヒテ機械的、電氣的共ニ完全ナル接續取付ヲナシ充分ナル絕緣耐力ヲ有スル混和物ヲ塡充スルモノトス

第三十九條　本工事ニ使用スル金屬管ハ總テ三粍厚トシ左記製作所製品ノ亞鉛引鋼管トシ其附屬品ハ夫々施設場所ニ最モ適合セルモノヲ使用スヘシ

東京電氣株式會社　　日本パイプ製造株式會社

第四十條　管ノ附屬品ノ銹又ハ腐蝕ヲ來タス虞アル部分ニハ塗料其他ヲ施シ適當ナル保護ヲ要ス

第四十一條　金屬管及附屬品ハ機械的竝ニ電氣的ニ完全ナル連結ヲナシ地線ヨリ金屬管最終端マテノ導體抵抗ヲ「二オーム」以下タラシムルコト

第四十二條　金屬管ヲ「ボックス」ニ取付クル點ニハ必ス「ロックナット」二個ヲ以テ兩側ヨリ締付クヘシ

第四十三條　金屬管及附屬品ノ內面部分及端口ハ平滑ニシテ電纜及電線ノ被覆ヲ損傷スル虞レナカラシムヘシ

第四十四條　金屬管、電纜電線ハ何時ニテモ容易ニ引換ヘ得ル如ク施設シ曲折部ニハ「ノーマルベンド」ヲ使用スヘシ

第四十五條　電線ニ用フル金屬管ノ終端ニハ必ス「ターミナルブッシング」ヲ使用スルコトヲ要ス但シ屋外線ノ引出口ニハ必ス「サービスカップ」ヲ使用スヘシ

第四十六條　金屬管ノ內部ニ水ノ侵入セサル樣防水設備ヲナスヘシ

第四十七條　金屬管及附屬品ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ二米未滿ノモノハ此限リニ非ス

第四十八條　金屬管內ニテ電線ノ接續ハ絕對ニナスヘカラス
第四十九條　金屬管ノ埋設附屬品ノ取付ケニ際シテ建築物ヲ損傷セサル樣周到ナル注意ヲ以テ之ヲ施スヘシ
第五十條　配管後直ニ敷線セサル場合ハ「チューブ」內ニ濕氣及塵埃ヲ侵入セサル樣裝置スヘシ
第五十一條　配線ノ場合可成同一金屬內ニ電線ヲ多數ニ納メ金屬管ノ數ヲ增加セサル樣ニナスヘシ但シ第四十四條ヲ完全ニ遂行シ得ルモノタルヘシ
第五十二條　金屬管接地導線ハ一・〇粍七本撚裸銅線ヲ使用スヘシ
第五十三條　避雷針接地管ト共同スヘカラス

(イ)　水　源

第五十四條　本施設ニ對スル會社トノ責任分界點ハ東邦電力株式會社ノ設置セル變壓器ノ二次側ニ裝置セル切斷開閉器ニシテ同個所ヨリ低壓三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ喞筒室敷地西側ノ地下室側壁及外部壁面間ニ外側ニ降リ勾配トナル如ク鐵管ヲ埋設シ之ヲ引込ミ地下室天井ヨリ喞筒室配電盤裏面受電母線ニ至ルモノトス約五米(本個所ノ鐵管ニ限リ本市之ヲ支給ス依ッテ指定ノ個所ヨリ運搬ノ上埋設スヘシ)猶自働誘導電壓調整器ヲ屋外引込前ニ設置接續スルモノトス
第五十五條　發電機用導線ハ低壓三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ發電室溝渠ヨリ地下室天井裏ヲ經テ發電機盤ノ油入自働遮斷器ニ至ルモノトス
第五十六條　發電機界磁用ニハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ前條同樣ニシテ勵磁機ヨリ發電機盤界磁開閉器ヲ經テ發電機ニ至ル勵磁回路ヲナスモノトス
第五十七條　三〇馬力電動機ハ何レモ低壓用三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ニシテ枠組ノ切換開閉器ヨリ電磁開閉器ヲ通シ地下室天井裏ヲ經テ各電動機ニ至ルモノトス
第五十八條　電動機ノ二次側短絡用電纜モ亦前條同樣ニシテ短絡裝置ニ至ルモノトス
第五十九條　三馬力及一馬力ノ電動機ニ至ル配線ニハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ前條同樣切換開閉器ヨリ配電函ヲ通シ地下室天井ヲ經テ所定ノ電動機ニ至ルモノトス
第六十條　發電々燈用變壓器ハ所內配電盤裏ニ設置ナシ一次側ハ受電母線及發電母線ノ兩線ヨリ切換得ル双投開閉器ヲ裝置スヘシ
第六十一條　電燈變壓器用二次側ニ双投用開閉器或ハ簡單ナル方法ニ依リ受電電燈用變壓器ヲ切換ヘ得ル如ク設備スヘシ
第六十二條　眞空喞筒運轉用電動機電磁開閉器ヲ自働開閉セシムル制限開閉器ニ至ル導線ハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ第五十九條同樣ニシテ布設スヘシ

第六十三條　電纜電線ヲ地下室天井裏ヲ經テ布設スルモノハ取付金具ニ依リ堅固ニ支持セシメ電線ヲ引込ム金屬管ノ曲角ニハ「サービスエルボー」ヲ用ヒ拔差ノ便ニ供スヘシ

(ロ)　淨　水　場

第六十四條　發電機ニハ高壓三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ本個所ニ限リ本市ヨリ支給スル金屬管ヲ混凝土床中ニ埋込ミタル中ニ拔キ差シナシ得ル如ク配線ヲナシ發電機盤ニ裝置セル油入自働遮斷器ニ至ルモノトス支給金屬管ハ指定ノ個所ヨリ請負人ニテ運搬スルモノトス
第六十五條　發電機用界磁回路ニハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ前條同樣ニシテ勵磁機、發電機盤上ノ界磁開閉器、發電機界磁間ヲ接續スルモノトス
第六十六條　高壓電動機ハ何レモ高壓三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ母線切換用双投開閉器ヨリ床面溝中ニ布設スルモノニシテ枕木金具等ニ依リ支持セシメ各電動機ニ至ルモノトス但シ床面ニ溝無キ個所ハ本市支給鐵管ヲ埋設シ同管內ニ引込ミ配線スルモノトス
第六十七條　受電用施設ノ會社トノ責任分界點ハ屋外ニ會社ノ施設セル柱上切斷開閉器ニシテ以後ノ設備ハ本契約者之ヲ施行スルモノトス
第六十八條　引込線ハ前條責任分界點ノ開閉器ヨリ高壓三芯紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ屋內受電盤ノ油入自働遮斷器ニ至リ同開閉器ヨリ再ヒ屋外ニ引出シ誘導調整器ニ接續ヲナシ同器ヨリ更ニ屋內受電用母線ニ結フモノトス全長約三〇米
第六十九條　前條屋外ヨリ引込ミ屋內ヨリ引出シ電纜ハ本市ヨリ支給スル鐵管內ニ之ヲ納ムルモノトス但シ鐵管ハ指定ノ個所ヨリ請負者ニ於テ運搬スルモノトス
第七十條　塞流線輪、油入遮斷器間、誘導調整器ト低壓用變壓器分岐點間ニハ單極單投開閉器ヲ裝置スヘシ
第七十一條　低壓用變壓器ハ電燈用動力用共ニ一次側ニ可熔安全器付單極單投切斷開閉器ヲ附シ變壓器ヲ切換ヘ又開放ナシ得ヘキモノタルヘシ
第七十二條　屋外動力用變壓器ヨリ屋內双型三極開閉器ニ至ル間ハ低壓用三芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ金屬管ヲ埋設シタル中ニ布設ナシ同開閉器後ハ第四種絕緣電線ヲ用ヒ金屬管內ニ納メ第六十七條同樣ニナシ布設スルモノトス但シ曲角ハ「サービスエルボー」ヲ用ヒ拔換ノ際ノ便ニ供スヘシ
第七十三條　電燈幹線ハ低壓ニ芯入紙絕緣鋼帶鎧裝電纜ヲ用ヒ前條同樣ニシテ屋內双型二極開閉器ニ至ルモノトス
第七十四條　屋外誘導調整器ノ二次側ニ裝置セル切斷開閉器ノ屋內側ヨリ變壓器ニ至ル母線ヲ分岐ナシ低壓動力用變壓器及電燈用

變壓器ニ接續スヘシ

第四章　變　壓　器

第七十五條　本器ハ全負荷ヲ以テ二四時間連續運轉ナシタル後ニ於テ攝氏四十五度以上ノ溫度上昇ヲ來タサヽルモノタルヘシ猶引續キ二五%ノ過負荷ヲ以テ二時間連續運轉ナスモ攝氏五十五度以上ノ溫度上昇ヲ來タサヽルモノタルヘシ

第七十六條　全負荷ニ於テ力率一〇〇%ナル場合ノ能率ハ九八%以上タルヘシ

第七十七條　力率一〇〇%ナル場合ニ於ケル電壓變動率ハ三%ヲ超過スヘカラス

第七十八條　第一次線輪ト鐵心第一次線輪ト第二次線輪トノ絕緣耐力ハ七、〇〇〇V六〇「サイクル」ノ交番電壓ヲ以テ試驗シ拾分間以上耐ヘ得ルモノタルヘシ

第七十九條　本器ニ要スル油ハ絕緣耐力ヲ充分有シ日本電氣工藝委員會標準規格ニ適合ノモノタルヘシ

第八十條　本器ニハ變壓器油、ターミナル、油「ゲーヂ」油「コック」寒暖計一次側可熔片付開閉器等一切ノ附屬品ヲ具備スヘシ

第八十一條　變壓器設置ニ際シテ二次側ニ第二種地線工事及外函ハ第一種地線工事ヲ施シ完全ニ接地スヘシ

（イ）水源用變壓器

第八十二條　本變壓器ハ電燈用トシテ使用スルモノニシテ左ノ如キモノタルヘシ

型　　油入自冷式單相變壓器　　貳　箇
容　量　　三KVA
一次電壓　　二一〇V
二次電壓　　一〇五V
周波數　　六〇「サイクル」

第八十三條　本器ハ所定ノ位置ニ設置スルモノトス

（ロ）淨水場動力用

第八十四條　本變壓器ハ別紙圖ニ示ス如ク室外角鐵枠組上ニ設置スルモノニシテ一次側ニハ可熔安全器付切斷開閉器ヲ裝置スルモノトス

第八十五條　動力用變壓器ハ總數三個ニシテ内二個ハV結線トシテ常用トナシ他ノ一個ハ豫備トナスモノニシテ左ノ如キモノタルヘシ

型　　油入自冷式單相變壓器
容　量　　二KVA
周波數　　六〇「サイクル」
一次電壓　　三、三〇〇V三、一五〇V三、〇〇〇V二、八五〇V
二次電壓　　二一〇、一〇五V

（ハ）淨水場電燈用

第八十六條　電燈用變壓器ハ左記ノ如キモノタルヘシ

型　　油入自冷式單相變壓器
容　量　　五KVA
周波數　　六〇「サイクル」
一次電壓　　三、三〇〇V三、一五〇V三、〇〇〇V二、八五〇V
二次電壓　　二一〇V一〇五V

第五章　自働誘導電壓調整器

第八十七條　本器ハ淨水場受電端ニ接續シ常用スルモノニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

	淨水場用	水源用
型	自働操作三相誘導電壓調整器（屋外用）	
容　量	一五KVA	五KVA
周波數	六〇「サイクル」	六〇「サイクル」
一次電壓	三、〇〇〇V	二〇〇V
二次電壓	上下各三〇〇V	上下各三〇V

第八十八條　全負荷ヲ以テ二十四時間連續運轉ヲナシタル後ニ於テ室內溫度ヨリ四十五度以上ノ溫度上昇ヲ來タサヽルモノタルヘシ猶引續キ二五%ノ過負荷ヲ以テ二時間連續運轉ナシタル後モ溫度上昇五十五度ヲ超過スヘカラス

第八十九條　全負荷ニテ力率一〇〇%ノ場合ニ於ケル調整器ノ能率ハ九八%ヲ降ラサルモノタルヘシ

第九十條　線輪ト鐵心及線輪ト外函トノ間ノ絕緣耐力ハ七、〇〇〇V六〇「サイクル」ノ交番電壓ヲ以テ試驗シ拾分間以上耐ヘ得ルモノタルヘシ但シ水源用ノモノハ試驗電壓一、二五〇Vトス

第九十一條　電氣的ニ精密ナル調整ヲナシ得ルハ勿論機械的構造モ亦堅牢ニシテ圓滑ナル操作ヲナシ得且ツ長期ノ使用ニ耐ヘ得ル

モノタルヘシ

第九十二條　內部ノ點檢容易ニシテ且移動運搬モ亦便ナラシムヘシ

第九十三條　操作ハ自働的ニナシ且ツ人爲的ニモ調節ナシ得ルモノタルヘシ

第九十四條　附屬品トシテ左記ノモノヲ具備シ猶當然必要ナルモノハ明記ナキモノト雖モ之ヲ具フヘシ

(イ)外函附屬品

一、寒暖計

二、油量計

三、油出弁

四、排油活嘴

五、ハンドホール及バスチングプレート兼用ハンドホール

六、接地用端子

七、接續圖板及銘板

(ロ)操作用附屬品

一、電動機　壹臺

二、電磁制動機　〃

三、電壓調整繼電器　壹個

四、接觸器(制御開閉器付)　壹組

五、附屬品　壹式

第九十五條　外函ハ第一種地線工事ニヨリ完全ニ接地スヘシ

第六章　電動機

第九十六條　本電動機ハ三相三線式交流回路ニ接續シ別項喞筒仕樣書ニ依ル取水、壓送、眞空、汚水等ノ喞筒ニ直結運轉ヲナスモノニシテ以下各條項ニ依リ之ヲ製作シ納入ノ上据付クルモノトス

第九十七條　本機製作据付共別紙仕樣書ノ喞筒ニ關聯スルモノナルヲ以テ總テ同仕樣書各條項ヲ相照合シテ施行スルモノトス

第九十八條　起動ニ際シテ全負荷ニ對スル充分ノ廻轉力ヲ有シ且ツ起動電流ハ小ナルヘキモノトス又廻轉中ノ爆音ハ努メテ小ニスヘシ

第九十九條　格定電壓格定周波數ノ下ニ全負荷ニテ二四時間連續運轉ヲナシタル後ノ溫度上昇ハ攝氏四十五度以下タルヘク猶引續キ二五%ノ過負荷ヲ以テ二時間連續運轉ヲナシタル後ノ溫度上昇攝氏五十五度ヲ超過スヘカラス

第百條　固定子線輪ト廻轉子線輪及固定子線輪ト繼鐵間ニ交流四、五〇〇V六〇「サイクル」ノ交番電壓ヲ加ヘ拾分間以上耐ヘ得ルモノタルヘシ

第百一條　鐵臺ハ第一種地線工事ニ依リ完全ニ接地スヘシ

第百二條　捲線型電動機ノ場合ノ電刷子ト滑動環ノ摺合ハ頗ル良好ニシテ滑動環ノ表面ヲ損傷ナシ或ハ電刷子ノ片減リヲナシテ火花ノ發スル如キコト無カラシムヘシ

(イ)五〇馬力電動機

第百三條　本電動機ハ淨水場壓送用五〇馬力喞筒ニ直結使用スルモノニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

一、型式　三相交流捲線型横軸開放誘導電動機

二、出力　五〇馬力

三、個數　四臺

四、端子電壓　三、〇〇〇V

五、周波數　六〇「サイクル」

六、毎分廻轉數　一、二〇〇

七、起動電流一五〇%(全負荷ニ對シ)

八、力率　左記ノ如キモノタルヘシ

負荷	一二五%	一〇〇%	七五%	五〇%
力率	九〇%	八八%	八五%	八二%

九、能率　左記ノ如キモノタルヘシ

負荷	一二五%	一〇〇%	七五%	五〇%
能率	八八%	八八%	八五%	八二%

十、起動及停止

淨水場電動機四臺ノ內一臺ハ配水塔水位ノ上下ニ依リ自働的開閉ヲナシ併セテ配電盤ニ裝置セル鈕開閉器ノ操作ニ依リ圓滑ニ起動及停止ヲナシ得ル二樣ノ設備ヲナスモノニシテ配電盤仕樣喞筒仕樣ト相俟ツテ之ニ適合スルモノタルヘシ他三臺ハ此ノ際手働

運轉ナルモ之ヲ交互何レニテモ利用シ得ヘキモノトス

(ロ)三〇馬力電動機

第百四條　本電動機ハ水源取水用三〇馬力喞筒ニ直結使用スルモノニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

一、型　式　三相交流捲線型竪軸開放誘導電動機
二、出　力　三〇馬力
三、個　數　二臺
四、端子電壓　二〇〇V
五、周波數　六〇「サイクル」
六、毎分廻轉數　九〇〇
七、起動電流　全負荷電流ノ一五〇%
八、力　率　左記ノ如キモノタルヘシ

負　荷	一二五%	一〇〇%	七五%	五〇%
力　率	九〇%	八八%	八五%	七八%

九、能　率　左記ノ如キモノタルヘシ

負　荷	一二五%	一〇〇%	七五%	五〇%
能　率	八七%	八七%	八五%	八三%

十、起動及停止
配電盤面ノ釦開閉器操作ニ依リ起動停止ヲナシ得ルモノニシテ別項配電盤仕様及喞筒仕様ト相俟ツテ之ニ適合ノモノタルヘシ

(ハ)水源用三馬力電動機

第百五條　本電動機ハ水源眞空用參馬力喞筒ニ直結シテ使用スルモノニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

一、型　式　三相交流籠型横軸開放誘導電動機
二、出　力　參馬力
三、個　數　壹臺
四、端子電壓　二〇〇V
五、毎分廻轉數　一八〇〇

六、起動電流　全負電流ノ五〇〇%以下
七、力　率　全負荷ノ場合　八五%
八、能　率　全負荷ノ場合　八三%
九、起動及停止
直空槽ニ關聯シテ自働的ニ或ハ配電盤ノ釦開閉器ノ操作ニ依リ起動及停止ヲナスモノニシテ別項配電盤仕様喞筒仕様ト相俟ツテ之ニ適合スルモノタルヘシ

(ニ)淨水用二馬力電動機

第百六條　本電動機ハ淨水場眞空喞筒用ニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

一、型　式　三相交流籠型開放誘導電動機
二、出　力　貳馬力
三、個　數　壹個
四、端子電壓　二〇〇V
五、毎分廻轉數　一、八〇〇
六、起動電流　全負荷電流ノ五〇〇%以下
七、力　率　全負荷ノ場合　八五%以上
八、能　率　〃　八三%以上
九、起動及停止
配電盤ニ裝置セル手働開閉器ニ依リ之ヲ操作ス

(ホ)壹馬力電動機

第百七條　本機ハ水源地下室汚水喞筒運轉用ニシテ左記ノ如キモノタルヘシ

一、型　式　三相交流籠型竪軸開放誘導電動機
二、出　力　壹馬力
三、個　數　壹個
四、端子電壓　二〇〇V
五、毎分廻轉數　一、八〇〇

六、起動電流　全負荷電流ノ五〇〇%以下
七、力　率　全負荷ノ場合　八〇%以上
八、能　率　〃　七八%以上
九、起動及停止

配電盤ニ裝置セル釦開閉器ニ依リ之ヲ操作ス

第七章　電　燈

第百八條　電燈工事ハ總テ金屬管工事トシ天井、側壁或ハ床ノ混凝土中ニ埋込ミ配管ナスモノトス

第百九條　電燈、「ガングスウヰッチ」「コンセットスウヰッチ」等ノ取付位置ハ金屬製ノ「アウトレッドボックス」「ガングスウヰッチボックス」等ヲ使用スヘシ

第百十條　「ガングスウヰッチ」ハ同一個所ニアルモノハ「ボックス」「プレート」共ニ共通ノモノヲ使用スヘシ

第百十一條　電燈、開閉器、共ニ重量或ハ操作ノ爲ニ動搖ヲナシ營造物ヲ損傷スル如キコトヲ絶無タラシムヘシ

第百十二條　屋外線ハ配電盤裏面ヨリ喞筒室混凝土床中ヲ側壁ニ至リ側壁混凝土中ヲ上昇ナシ所定ノ位置ニテ屋外ニ引出スモノトス

第百十三條　屋外燈ハ本請負人ハ引出口引留碍子迄施行シ以降ハ本工事ニハ含マサルモノトス

(イ) 水　源

第百十四條　水源電燈線工事ハ左ノ通リノモノトス

一、發電室天井燈　貳個
二、喞筒室天井燈　參個
三、門　燈　貳個
四、地下室天井燈　貳個
五、地下室倉庫燈　壹個
六、室外燈　引出口迄
七、發電室豫備燈用栓受　壹個
八、喞筒室豫備燈用栓受　壹個

第百十五條　發電室、地下室燈ノ幹線ハ配電盤裏面ヨリ喞筒室床ヲ經テ發電室入口附近ノ發電室燈用「ガングスウヰッチ」ニ至ルモノトス

第百十六條　前條ノ「ガングスウヰッチ」ノ位置ハ發電室入口ノ喞筒室側ノ操作便利ナル點ニ設置シ電發室燈ヲ各別ニ點滅ナシ得ル如キモノタルヘシ

第百十七條　發電室燈ハ前記「ガングスウヰッチ」ヨリ發電室側壁ヲ上昇シテ同天井所定ノ位置ニ至ルヘシ

第百十八條　地下室燈ハ前記「ガングスウヰッチ」ノ點ニ於テ分岐シテ地下室入口附近ノ發電室側壁ノ操作便利ナル點ニ各燈毎ニ點滅ナシ得ル「ガングスウヰッチ」ヲ取付ケ地下喞筒室地下倉庫所定ノ位置ニ至ルモノトス

第百十九條　地下室用「ガングスウヰッチ」ノ點ヨリ更ニ一回線ヲ發電室側壁適當ノ高サノ點ニ豫備燈用「コンセットスウヰッチ」ヲ設置シテ之ニ配線スヘシ

第百二十條　喞筒室燈ハ配電盤裏面ヨリ喞筒室床中ヲ別紙圖ノ點ニ至リ同側壁ヲ上昇シテ喞筒室天井ノ所定ノ各燈ニ至ルヘシ

第百二十一條　前條電燈ハ喞筒室側壁ノ操作便利ナル點「ガングスウヰッチ」ニテ各燈毎ニ點滅ナシ得ル如ク裝置ヲナスヘシ

第百二十二條　前條ノ「ガングスウヰッチ」ヨリ更ニ一回線ヲ分岐シテ床上適當ノ高サノ側壁ニ豫備燈用「コンセットスウヰッチ」ヲ設ケ之ニ配線スヘシ

第百二十三條　門燈モ亦天井燈ト同樣配線ヲナシ玄關口ニ至ルモノニシテ天井燈ト同一點ニ「ガングスウヰッチ」ヲ設置シテ點滅ナシ得ル如クスヘシ

第百二十四條　發電室及喞筒室ノ五個ノ天井燈ハ「グローブ」及鎖型吊金物ヲ用ヒ本市水道課ニ見本ヲ提出シタル後本市指定ノモノヲ取付クルモノトス

第百二十五條　地下室倉庫及地下喞筒室ノ天井燈ハ金屬製笠及可撓紐線ヲ用ヒ前條同樣見本提出後取付クルモノトス門燈ノ「グローブ」以下ハ本市ニテ之ヲ施行ス

(ロ) 淨　水　場

第百二十六條　淨水場電燈線工事ハ左ノ通リトス

一、發　電　室　燈　六個
二、喞　筒　室　燈　九個
三、門　燈　貳個
四、室　外　燈
五、發電室豫備燈栓受　壹個

六、喞筒室電燈豫備燈栓受　　壹　個

第百二十七條　發電室ノ幹線ハ配電盤裏面ヨリ喞筒室床中ヲ經テ發電室入口附近ノ發電室燈用「ガングスウキッチ」ニ至ルモノトス

第百二十八條　前條ノ「ガングスウキッチ」ノ位置ハ發電室入口ノ喞筒室側ノ操作便利ナル點ニ設置シ發電室燈ヲ別紙圖ニ示ス如ク二燈宛三回路ヲ各回路毎ニ點滅ナシ得ルモノタルヘシ

第百二十九條　發電室燈ハ前條ノ「ガングスウキッチ」ヨリ發電室側壁ヲ上昇シテ同天井所定ノ位置ニ至ルヘシ「グローブ」及吊金物類ハ水源ニ準スルモノトス

第百三十條　喞筒室燈ハ配電盤裏面ヨリ喞筒室床中ヲ別紙圖面ノ點ニ至リ同側壁ヲ上昇シテ喞筒室天井ニ至ルモノトス「グローブ」及吊金物類ハ水源ニ準スルモノトス

第百三十一條　前條ノ側壁上昇中途操作便利ナル點ニ三回路用「ガングスウキッチ」ヲ取付ケ九燈ヲ三回路ニ分岐シ各回路毎自由ニ點滅ナシ得ルモノトスヘシ然シテ別紙圖面ニ示ス同一記號ヲ有スル電燈ヲ同一回路ニ接續スルモノトス

第百三十二條　門燈ハ天井燈ト同一個所ニ「ガングスウキッチ」ヲ取付ケ天井燈ト同一金屬管内ニ配線シ別紙圖ニ示ス位置ニ取付クルモノトス

第百三十三條　別紙圖ニ示ス點ニ喞筒室發電室共豫備燈用「コンセットスウキッチ」ヲ取付クヘシ

第八章　避雷設備

第百三十四條　本設備ハ水源、淨水場共ニ同一型式ヲ以テ設備スルモノトス

第百三十五條　避雷針ノ尖頭ハ中央主針及三個ノ側針ヲ有シ材質ハ純銅ヲ用ヒ各針ノ尖端ハ三十粍以上ニ純金ヲ完全ニ燒付クルモノトス

第百三十六條　避雷針柱ハ三粍厚三二粍徑ノ長サ三米五ノ瓦斯管ヲ用ヒ根部ヲ金具ニ依リ建築物屋上所定ノ位置ニ堅固ニ取付クルモノトス

第百三十七條　導線ハ瓦斯管内ヲ通シテ屋上所定ノ位置ニ至リ同所ヨリ露出ニテ側壁外面ヲ引下シ地中導體ニ接續スルモノトス

第百三十八條　導線ノ支持ニハ玉碍子ヲ用ヒ一米毎ニ之ヲ設置スヘシ

第百二十九條　導線ト尖頭部ハ電氣的完全ニ接續スヘシ此場合溶劑トシテハ「ペースト」或ハ樹脂ヲ用ヒ稀鹽酸ハ使用スヘカラス

第百四十條　導線ハ二、〇粍一九本撚相當銅線ヲ用ヒ中途ノ繼手ハ之ヲ避クヘシ止ムヲ得ス繼手ヲナス場合ハ係員ノ承認ヲ受ケ完全ニ之ヲ行フヘシ

但シ管内ニテハ絕對ニ之ヲナスヘカラス

第百四十一條　直徑三二粍以上長サ六米ノ瓦斯管ヲ地表下ニ打込ミ導體ノ下端ト電氣的ニ完全ナル接續ヲナスヘシ

第百四十二條　工事完了後ノ接地抵抗試驗ヲ行ヒ其ノ電氣抵抗ハ「一〇オーム」以下タルヘシ此ノ試驗ニ依ル勞力其ノ他ノ費用ハ一切請負人ノ負擔トス

發電機及重油機關購入竝据付工事仕樣書

第一章

第一條　本發電機竝ニ重油機關ハ本市水道水源地及淨水場喞筒室内ニ設備シ自家發電ノ上既設送水喞筒用電動機其他ニ送電セントスルモノニシテ水源地ハ葉栗郡淺井町大字極樂寺地内ニ淨水場ハ同郡葉栗村大字佐千原地内ニ在リ

第二條　發電機竝機關其ノ他ノ諸機械ハ機構完全長時間ノ連續運轉ニ何等支障ナク圓滑ニ運轉シ製作竝効率共ニ優秀ナルモノニシテ運轉上必要ナル一切附屬設備ヲ具備シ本仕樣書及別紙圖面竝ニ本市工事執行規定ニ基キ完全ニ設置スルモノトス

第三條　製作ハ誠實叮嚀ヲ旨トシ各部構造ハ最モ堅牢ニシテ圖面仕樣書ニ明記ナキモノト雖モ本設備上必要ナルモノハ之ヲ一切本仕樣書ニ依リ附屬シテ完備セシムルモノトス

第四條　購入スヘキ諸機械器具及其附屬品ハ發電機室内ニ据付ケ尙之ニ附屬スル配管其他凡テノ附帶設備工事ヲモ併テ本工事ニ於テ施行スルモノニシテ所要物件及勞力竝ニ機械器具ノ試驗ニ要スル一切ノ費用迄納入請負人ノ負擔トス

第五條　本市ハ必要ニ應シ製作材料ノ試驗檢査ヲ行フモノニシテ試驗檢査ハ市ノ適當ト認ムル方法ニ依リ行ヒ之ニ要スル費用ハ凡テ納入請負人ノ負擔トス

第六條　工場製作終了後本市吏員立會ノ上各部ノ試驗檢査竝ニ性能試驗ヲ行フモノニシテ本市立會員ノ指示ニ從ヒ凡テノ準備ヲナスモノトス尙工場試驗ヲ行フ場合ハ豫メ本市ニ申請ナスモノトス

第七條　工場檢査ニ於テ要スル費用ハ一切請負人ノ負擔トス又此場合本市吏員ハ注文品製作ニ關スル工場ノ何レノ場所ニモ出入シ得ルモノトス

第八條　注文物件ハ附屬品ト共ニ凡テ現場搬入後各部ニ付本市係員ノ檢査ヲ受ケ承認濟ノ上取付ヲ行フモノトス

第九條　納入請負者ハ注文物件ノ搬入据付運轉竝ニ受渡迄常ニ責任アル擔任者ヲ現場ニ出頭セシメ本市係員ノ指揮ニ從ヒ物品ノ保管竝ニ据付等一切ノ責ニ任スルモノニシテ据付組立ニ要スル職工ハ最モ熟練者ヲ派遣スヘシ

第十條　機器ノ基礎ハ本市ニ於テ施工ヲナスト雖取付上ノ加工ヲ要スル場合ハ納入者之ヲ行フモノトス猶業中過チテ本市既設工作

物ニ損害ヲ及ホシタル時ハ凡テ其責ニ任スルモノトス

第十一條　現場ノ都合ニ依リ製作品ニ多少變更ヲ要スル部分ヲ生シタル時ハ當市ノ通告ニ從ヒ納入者ハ異議ナク無償ヲ以テ之ニ應シ完全ニ施行ヲナスモノトス

第十二條　注文物件ハ現場据付終了後各部試驗檢査ノ上連續運轉ヲ行ヒ合格ト認メタル後受渡シヲ行フモノニシテ不合格品ハ本市ノ命スル期間內ニ本設備ノ目的竝ニ仕様書ニ適合スル様其程度ニ依リ修理又ハ改造ヲナスモノトス

第十三條　受渡後ト雖モ昭和十四年十月以內ニ於テ据付又ハ機構竝ニ製作ニ基因スル故障等ニ對シテハ納入者ハ絕對責任ヲ有シ本機器ニ故障ヲ來シタル時ハ當市ノ通告ニ際シ速ニ無償ヲ以テ本市ノ要求ニ應シ機械ノ點檢及補修或ハ取替等ヲナス義務アルモノトス

第十四條　前條保證ノ爲請負保償金ヲ保證期間中當市ニ於テ留保スルモノトス但シ昭和十三年十月以降ニ於テハ請負保證金ヲ半減シ留保スルヲ得

第十五條　納期ハ契約ノ日ヨリ起算シ七ケ月間ニ現場据付ニ至ル迄一切ヲ完備セシムルモノニシテ契約後二ケ月以內ニ發電器及機關ノ組立圖、配置圖及機械重要部分ノ分解圖等ノ設計圖ヲ提出シ本市ノ承認ヲ受ケタル後製作ニ着手スルモノニシテ工程表ト共ニ各參通宛提出スヘシ但シ基礎關係詳細圖、基礎「ボールト」竝ニ「コンクリート」內ニ埋設ヲ要スル物ハ凡テ契約後二ケ月以內ニ納入スルモノトス

第十六條　凡テ試驗檢査ノ結果ニ對シ納入者ハ一切異議ノ申立ヲナササルモノトス

第十七條　圖面仕様書其他ニ於テ不明ノ點ハ入札前本市係員ニ就キ說明ヲ求ムルモノトス

第十八條　圖面仕様書其他ニ疑義ヲ生シタル時ハ凡テ本市ノ解釋ニ隨フモノトス

第二章　交流發電機

第十九條　購買竝ニ据付ヲナスヘキ交流發電機ハ次ノ要項ヲ具備スルモノタルヘシ

（イ）水源用

（一）用途　取水喞筒、眞空喞筒、運轉用電動機及電燈ニ供給ス

（二）原動機　別項仕様ニ依ル重油機關ニ直結運轉ヲナスモノ

（三）型　開放橫軸廻轉磁界型制動捲線付同期發電機

（四）容量　五〇「キロヴオルトアンペア」

（五）電壓　二二〇「ヴオルト」

（六）相式　三相三線式

（七）廻轉數　每分四〇〇

（八）周波數　六〇「サイクル」

（九）力率　遲レ八〇「パーセント」

（一〇）能率　八八「パーセント」以上　（力率一〇〇「パーセント」ノ場合）

（一一）勵磁法　直結直流發電機

（一二）勵磁電壓　一一〇乃至一二五「ヴオルト」

（一三）界磁調整　手働式ニシテ主磁界回路及勵磁機界磁回路共何レモ充分ノ容量ヲ有スル抵抗器ヲ附シ圓滑ニ調整ナシ得ルモノ

（一四）瞬時過負荷　二五「パーセント」以上

（一五）溫度上昇　定格ノ電壓周波數、力率、廻轉數ニテ全負荷連續運轉ヲナシタル後寒暖計測定法ニヨル溫度上昇ハ周圍溫度四〇度（攝氏）ノ場合發電機、勵磁機ノ發電子及界磁線輪共攝氏五〇度以下整流子ハ六〇度攝氏以下

（一六）絕緣耐力　發電機發電子線輪、同界磁線輪、勵磁機發電子線輪、同界磁線輪等ト大地間ニ一、五〇〇「ヴオルト」ノ電壓ヲ加ヘタル場合一分間以上耐フルモノ但シ本試驗ハ溫度上昇試驗直後ニ行フモノトス

（一七）運轉方法　單獨運轉

ロ　淨水場用

（一）用途　送水喞筒、眞空喞筒、運轉用電動機及電燈ニ供給ス

（二）原動機　別項仕様ニ依ル重油機關ニ直結運轉ヲナスモノ

（三）型　開放橫軸廻轉磁界型制動捲線付同期發電機

（四）容量　七八「キロヴオルトアンペア」

（五）電壓　三、三〇〇「ヴオルト」

（六）相式　三相、三線式

（七）廻轉數　每分四〇〇

（八）周波數　六〇「サイクル」

（九）力率　遲レ八〇「パーセント」

（一〇）能率　八八「パーセント」以上　（力率一〇〇「パーセント」ノ場合、

(十一) 勵磁法　直結直流發電機
(十二) 勵磁電壓　一一〇乃至一二五「ヴォルト」
(十三) 界磁調整　手働式ニシテ主界磁回路及勵磁機界磁回路共何レモ充分ノ容量ヲ有スル抵抗器ヲ附シ圓滑ニ調整ナシ得ルモノ
(十四) 瞬時過負荷　二五「パーセント」以上
(十五) 溫度上昇　定格ノ電壓、周波數、力率廻轉數ニテ全負荷連續運轉ヲナシタル後寒暖計測定法ニヨル溫度上昇ハ周圍溫度攝氏四〇度ノ場合發電機勵磁機ノ發電子及界磁線輪共攝氏五〇度以下整流子ハ攝氏六〇度以下
(十六) 絶縁耐力　發電機發電子線輪――大地間　七、六〇〇「ヴォルト」發電機界磁線輪、勵磁機發電子線輪、同界磁線輪――大地間一、五〇〇「ヴォルト」ノ電壓ヲ加ヘタル場合一分間以上耐フルモノ但シ本試驗ハ溫度上昇後直ニ行フモノトス
(十七) 運轉方法　本機設置ハ單獨運轉ナルモ將來今壹臺ヲ增設シタル場合ハ竝列運轉ヲナス

第二十條　本機ハ何レモ前條ニ示ス各負荷ヲ運轉開始スルニ際シ電壓降下ヲ來シ爲ニ起動ヲ困難ナラシムル如キコトアルヘカラス

第二十一條　發電機ヨリ配電盤ニ至ル配線ハ既設シアルヲ以テ本工事者ハ終端函端子及勵磁回路用導線端子ヨリ本機ニ接續スルモノトス

第二十二條　本請負人ハ界磁回路用抵抗器及勵磁機界磁回路用抵抗器ヲ既設配電盤裏面本市係員ノ示ス個所ニ裝置スルモノトス但シ抵抗器用把手ハ既設シアルヲ以テ本請負人ハ之ニ適合スヘク一切ヲ具備シ運轉ヲ完全ニナシ得ルモノタルヘシ

第二十三條　本機ハ片軸承型式ニシテ重油機關ノ勢車ニ直結ナスヲ以テ別項勢車構造圖參照ノ上完全ニ取付クヘシ

第二十四條　本工事ハ周到ナル注意ノ下ニ施行シ電氣的機械的共ニ完全ナルハ勿論猶日本電氣工藝委員會ノ標準規格ニ則リ且ツ電氣工作物規程ニ適合ノモノタルヘシ

第二十五條　製作品ノ検査ハ一部製作工場ニ於テ行フコトアルモ其他ハ据付後指定會社ノ検査ヲ受ケ又ハ本市ノ試驗檢査ヲ受クルコトアルモ之ニ要スル一切ノ費用ハ本請負人ノ負擔トス但シ据付後試驗ニ要スル電動力ニ限リ本市之ヲ支給ス

第二十五條　運轉上必要ナル一切ノ附屬品ヲ具備セシムルハ勿論猶炭素刷子同用「スプリング」等其他此ニ類スル消耗品一揃ヲ豫備トシテ同時ニ納入スルモノトス

第二十六條　本請負人ハ遞信省落成檢査ニ合格スヘク施行ナシ同檢査ニハ立會ナスモノトス

第二十七條　本發電機ハ左ノ工場ノ製品トス
一、芝浦製作所

第三章　重油機關

第二十八條　購買竝ニ設置スヘキ重油機關ハ左ノ通リトス
(イ) 水源用
(一) 用途　別項仕樣ニ依ル發電機直結運轉用
(二) 常用軸馬力　六五馬力
(三) 毎分廻轉數　四〇〇廻轉
(四) 氣筒數　貳氣筒
(五) 連續過負荷　四「パーセント」以上
(六) 一時的〃　一〇「パーセント」以上
(七) 燃料消費量一時間一軸馬力當リ　全負荷一八五瓦以下
(八) 〃　$\frac{3}{4}$負荷一九五瓦以下
(九) 〃　$\frac{1}{2}$負荷二一〇瓦以下
(十) 潤活油消費量一時間一軸馬力當リ三、〇〇瓦以下
燃料ノ消費量ハ一瓩當リ熱量ハ一〇、〇〇〇「カロリー」ヲ基準トス
(ロ) 淨水場用
(一) 用途　別項仕樣ニ依ル發電機直結運轉用
(二) 常用軸馬力　一〇〇馬力
(三) 毎分廻轉數　四〇〇廻轉
(四) 氣筒數　參氣筒
(五) 連續過負荷　四「パーセント」
(六) 一時的〃　一〇「パーセント」
(七) 燃料消費量一時間一軸馬力當リ　全負荷一八五瓦以下
(八) 〃　$\frac{3}{4}$負荷一九〇瓦以下
(九) 〃　$\frac{1}{2}$負荷二〇〇瓦以下
(十) 潤活油消費量一時間一軸馬力當リ　三、〇〇瓦以下

燃料ノ消費量ハ一瓩當リ熱量一〇、〇〇〇「カロリー」ヲ基準トス

第二十九條　本機關ハ陸用直立單動四衝程無氣噴油式冷始動重油機關ニシテ發電機ノ運轉ニ適シ外側軸承ナキ型式トス

第三十條　機關ハ基礎「コンクリート」上ニ据付ケ充分安定ヲ保チ振動ナク圓滑靜音ナル運轉ヲ行フモノニシテ燃料ハ内地市場ニ於ケル普通重油ヲ使用シ得ルモノトス

第三十一條　始動ノ際ハ發電機ヲ連結シタル上何等ノ準備ヲ要セス壓縮空氣ニ依リ確實ナル起動ヲ行ヒ負荷ノ如何ニ拘ラス完全ナル燃燒ヲナスモノトス

第三十二條　氣筒及氣筒蓋竝ニ水衣壁ハ別個ノ製作トシ緻密強靱ナル高力鑄鐵製ニテ精密ナル仕上ニ依リ喞子ノ運動圓滑ナルモノトシ不正ナル磨滅不平等ノ膨脹收縮等ナカラシメ外箭ハ冷却水ノ循環良好ナラシムル樣ナスモノトス

第三十三條　氣筒蓋ニハ特種高級ナル製作ニ依ル各種ノ弁及必要ナル器具ノ取付ヲ行ヒ冷却水ノ循環ヲ行ハシムルモノトス

第三十四條　架構及床盤ハ堅固ナル鑄鐵製ニシテ箱型密閉式トシ潤滑油ノ外部ニ漏洩ナキモノトス其ノ前後扉ハ内部ノ點檢分解等ニ便ナルモノトス

第三十五條　喞子ハ堅牢ニシテ燃燒瓦斯ニ依リ異狀ヲ生セサル高力鑄鐵製トシ嚴密ナル仕上ケヲ施シ數個ノ喞子環ヲ嵌入レ氣密ナラシムルモノニシテ常ニ適度ニ潤滑油ヲ保持セシムルモノトス

第三十六條　連接桿及曲柄軸竝ニ喞子栓ハ高級鍛鋼製ニシテ磨擦部ハ特ニ精密ナル仕上ヲ施シ喞子栓ハ表面燒入トシ各軸承ハ良質合金ノ裏金ヲ附シ緻密ナル摺合セヲナスモノトス

第三十七條　注油裝置ハ主機關ニ聯動スル注油喞筒ヲ設ケ運轉中絕エス軸承面ニ强壓注油ヲ施シ再ヒ油槽ニ歸環スル循環式トシ其ノ途中ニ油濾過器及冷却器ヲ備ヘ又始動ノ際ハ手働ニテ注油ヲ行フニ便ナル喞筒ヲ併置ナスモノトス

第三十八條　調速機ハ主軸ヨリ連動セシメ機關ノ運轉中回轉ニ不同ヲ生セシメサル樣嚴密鋭敏ナル自働調速機ヲ設ケ尙機關ノ回轉速度ヲ正規ノ場合ノ一割迄適宜變更セシメ得ルモノトシ運轉中ニ於テモ手働ニ依リ最モ簡便ニ操作ナシ得ル裝置トス

第三十九條　燃料噴射瓣ハ製造者ニ於テ特別ナル研究考案ニ依ル優良ナルモノヲ附スルモノトス

第四十條　燃料喞筒ハ無負荷ヨリ最大負荷迄如何ナル運轉ニ於テモ常ニ安全確實ナル給油ヲ行ヒ給油量ハ負荷ノ變動ニ應シ卽時自働的ニ調整シ得ルモノトス

第四十一條　勢車ハ本機連結ノ發電機運轉ニ適應シ廻轉速度ヲ整一ナラシメルニ足ル充分ナル大サノモノトシ速度變化率ハ全負荷ヨリ突然無負荷トナシタル場合及之ト反對ノ場合ニ瞬時五「パーセント」以内整定後三「パーセント」以内トス外側ニハ手動「ターニング」裝置ヲ附シ輪周ハ磨キ仕上ケトナシ角度分割線ヲ施シ發電機ト直結スヘキ部分ハ發電機ノ機構ヲ考慮シ之ニ適合セシムルモノトス又周圍ニハ磨キ手摺ヲ附スルモノトス

第四十二條　機關ニハ其ノ廻轉度ヲ表示スルタメノ見易キ位置ニ確實ナル廻轉計ヲ取付ケ又注油喞筒及冷却水喞筒其他必要ナル壓力計竝ニ各部ノ溫度計等ヲ取付ケ又氣筒毎ニ「インディケーター」ノ機構ヲ設クルモノトス「インディケーター」ハ壹組ヲ附屬セシメ記錄紙ハ三〇〇枚ヲ附シ各種「スプリング」及「スケール」「プラニメーター」其他必要品一式備ヘタルモノトス

第四十三條　淨水場用機關ノ冷却水ハ送水鐵管ヨリ分岐給水セシムルモノト既設喞筒井ヨリ主機關附屬「プランヂヤーポンプ」ニ依リ給水セラル、モノトノ二種トシ任意切換使用ニ便ナラシメ排水管ハ既設排水土管内ニ導クモノトス但シ喞筒井壁ニハ本市ニ於テ七五粍鑄鐵管ヲ一部埋設シアルヲ以テ納入者ニ於テ之ト適當ニ連絡セシメ送水管分岐箇所ニハ本市ニ於テ穿孔ヲナスモノトス

第四十四條　水源用機關ノ冷却水ハ送水鐵管ヨリ分岐シタル既設五〇粍瓦斯管ト連絡シ主機關附屬「プランヂヤーポンプ」ニ依リ給水セシムルモノト既設屋外水槽ヨリ給水セシムルモノトノ二種トシ猶水槽ヘモ同喞筒ニ依リ揚水セシメ得ル任意切換使用ニ便ナラシメ排水管ハ既設排水土管内ニ導クモノトス凡テ之等ニ使用スル瓦斯管ハ亞鉛引ニシテ接手ハ8印トス

第四十五條　燃料油槽ハ屋上ニ設置シ約二十四時間分ノ貯油量ヲ有スル矩形槽ニシテ防濕耐水製ニシテ排氣「オバーフロー」「ドレーン」竝ニ給油管等ノ設備ヲナシ手押喞筒ヲ設ケ之ニ依リ「ドラム」罐ヨリ油槽ニ押上クルモノトシ尙油槽竝ニ喞筒室内ニ油表面ヲ指示スル裝置ヲ設クヘシ但シ油槽ノ寸法ハ本市ノ指定ニ依ルモノナルモ凡ソ一米角ノ鐵板製ニシテ槽ノ上端ニハ緣「アングル」ヲ附シ鐵蓋ヲ「ボールト」締付シ得ル構造ニシテ指示ヲ受ケ原寸圖ヲ提出シ承認ヲ受クヘシ

第四十六條　給油管ハ機關ニ入ル前ニ於テ完全ナル濾過器ヲ附シ二組以上ヲ以テ途中運轉中ニ於テモ自由ニ切換使用シ竝ニ容易ニ取出シ掃除ナシ得ルモノトス但シ油槽ハ機關ノ直屋上ニ在ルモノトス之ヲ他ニ變更ノ爲メ輸管ニ延長ヲ來ス場合其ノ延長ニ對シテハ市ノ負擔トス

第四十七條　排氣管ハ床面下ニ埋設室外ニ導クモノニシテ充分ナル容量ノ消音器ヲ設ケ騷音ヲ沈靜セシメ更ニ鐵管ニテ屋上迄テ導クモノニシテ必要個所ニハ支ヘ金物及伸縮接手ヲ設ケ適當ナル冷却及防護裝置ヲ施シ床面竝ニ消音器室上部ハ縞鋼板ヲ以テ覆ヲ施スモノトス

第四十八條　始動用壓縮空氣溜ハ機關毎ニ貳個宛備ヘ切換ヘ使用ナスモノニシテ空氣壓ハ常用約二十五氣壓ニテ使用ナスモノトス壹個ノ空氣溜ニテ參回以上始動ヲ確實ナラシメル容量ノモノトシ鋼材鋲打製ニシテ各個毎ニ壓力計安全弁塞止弁其他必要ナル附屬品一式具備セシムルモノトス壓縮空氣ハ主機ヨリ詰込ムモノトシ猶別項豫備空氣壓縮機ヨリ補給シ得ル樣配管ナスモノトス

第四十九條　機關ハ別ニ左ノ豫備品ヲ附屬セシメ同種ノモノハ何レモ共通使用ナシ得ルモノトス

	名稱	水源	淨水場
(一)	「ピストンリング」	全氣筒分	全氣筒分
(二)	吸氣弁及發條弁座竝包函	壹氣筒分	貳氣筒分
(三)	排氣弁及發條弁座竝包函	全氣筒分	全氣筒分
(四)	燃料油噴射弁「ライナー」發條及包函	同前	同前
(五)	同噴射口金	同前	同前
(六)	燃料「ポンプ」用「プランジャー」及「プッシュ」弁竝發條	同前	同前
(七)	同壓力管	同前	同前
(八)	潤滑油唧筒弁及「プランジャー」發條	壹式	壹式
(九)	燃料油濾過網	全數	全數
(十)	潤活油濾過網	同前	同前
(十一)	始動弁及唧座發條竝包函	壹氣筒分	貳氣筒分
(十二)	唧子栓及「ブッシュ」	同前	同前
(十三)	連結桿軸承及「ボールト」	同前	同前
(十四)	曲枝軸承裏金及「ボールト」	同前	同前
(十五)	始動壓縮空氣溜「バルブヘッド」	壹組	壹組
(十六)	各「パッキング」及「ピン」類	壹式	壹式
(十七)	「スパナー」「レンチ」「ドライバー」油差其他工具	同前	同前
(十八)	燃料噴射口試驗用「ポンプ」竝ニ壓力計其他	同前	同前
(十九)	其他機關ノ整式ニ依リ必要ト認ムルモノ	同前	同前

第五十條　主機關竝ニ附屬品ニ至ル迄嚴密ナル注意ヲ拂ヒ堅牢ナル構成トナシ長時日ノ連續運轉ニ於テ異狀ヲ生セス優秀ナル機能ヲ備ヘタルモノトス

第五十一條　機關ノ壓力受クル部分本市吏員立會ノ上水壓試驗ヲ行フモノトス其ノ合格品ハ適當ナル個所ニ試驗水壓力ノ數字ヲ刻入スヘキモノニシテ水壓試驗ハ左記ノ基準ニ依ルモノトス

(イ)	氣筒	每平方糎	七〇瓩以上
(ロ)	水衣	同	三瓩以上
(ハ)	弁類及唧筒	使用最高壓力ノ二倍以上	
(ニ)	壓縮空氣溜	每平方糎	五〇瓩以上
(ホ)	排氣管及消音器	每平方糎	六瓩以上

第四章　空氣壓縮機竝石油發動機

第五十二條　本機ハ別項主機關始動用空氣壓縮機竝ニ石油發動機ニシテ水源竝ニ淨水場發電機室内ニ各壹臺宛設置スルモノトス

第五十三條　空氣壓縮機ハ二馬力發動機ニ依リ共通床盤上ニ於テ「フリクション」接手ニ依リ直結運轉セラレ空氣管冷却氣管排水管等附屬品一切ヲ具備シ每平方糎二五瓩以上ノ送氣ニ充分耐ヘ容量大ナルモノニシテ主機關始動ニ適スル堅牢ニシテ圓滑ナル運轉ヲナス優良品トス

第五十四條　發動機ハ出力二馬力「ロータリー」式高壓「マグネット」付ニシテ前記壓縮機運轉ニ適シ勢車ヲ有シ一人ニテ容易ニ始動ナシ得ルモノトシ油槽ヲ具ヘ消音器排氣管油管等一式完備セシムルモノニシテ圓滑靜音ナル運轉ヲ行ヒ耐久力ニ富ム優良品トス

第五十五條　本機關ハ指名工場又ハ次ノ製作工場ノ製品トス

一、久保田鐵工所　一、山岡鐵工所　一、戸畑鐵工所　一、門田鐵工所

第五章　附則

第五十六條　現場試運轉終了後運轉操作打合セノタメ七日以上熟練セル技術員ヲ機關室ニ派遣スルモノトス

第五十七條　機關納入ト同時ニ優良ナル次ノ物品ヲ容器ト共ニ水源竝ニ淨水場ニ分納ナスモノトス

重油	一、八〇〇立	潤滑油	三六〇立
グリース	三〇瓩	石油	七二立
マシン油	一〇八立	揮發油	三六立

但シ現場試運轉ノ際ハ一部使用シ得ルモノトス

第五十八條　既設建築物ノ關係上機械据付ハ出來得ル限リ面積縮少ヲ要スルモノトス之カ爲機關及發電機ノ兩端ニ突出スル軸端等ヲ合セ長サ水源三・三米淨水場三・九米ノ範圍ニ納ムル樣各部ノ間隔ヲ時ニ考慮シテ設計スヘシ

第五十九條　本工事ニ依リ設置サルル發電機及重油機關ハ各壹臺宛ナルモ淨水場ハ將來今壹臺增設シタル場合竝列運轉ヲナスヲ以テ特ニ此ノ點ニ留意シ發電機ノ電壓變動率重油機關ノ速度變化率等凡テ竝列運轉ニ關聯シ必要ナル諸條件ヲ具備シ安全圓滑ニ運

轉ヲナシ得ルモノタルヘシ
但シ本條ニ關スル諸特性ノ曲線ヲ納入前提出スルモノトス
第六十條　重油機關ハ本市檢査ノ外各部重要材料ノ檢査及工作性能能率其他試運轉迄一切ニ付帝國海事協會ノ試驗合格證明書ヲ提出スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ凡テ納入者ノ負擔トス

變壓器購買竝据付工事仕様書

第一章　總　則

第一條　本變壓器ハ葉栗郡淺井町大字極樂寺地内本市水源地内ニ設置シ東邦電力株式會社ヨリ高壓受電々力ヲ水道喞筒運轉用電動機ニ適合スル樣變壓スルモノニシテ猶之カ爲ニ要スル屋外變電設備ヲ併セテ施行スルモノトス
第二條　材料ハ凡テ精選シ製作据付共誠實叮寧ニナシ長時間ノ連續使用ニ何等ノ支障ナキ優秀ナルモノトシ本仕様書ニ適合スルハ勿論猶本仕様書及別紙圖面ニ明記ナキモノト雖モ本設備ニ必要ナルモノハ之ヲ凡テ本仕様書ニ依リ附屬完備セシムルモノトス
第三條　設置ニ當リ現場ノ都合ニ依リ導線等ニ些少ノ變更ヲ要スル場合ハ納入者ニ於テ本市係員ノ指示ニ從ヒ異議ナク無償ヲ以テ之ニ應シ完備セシムルモノトス
第四條　納入スヘキ器具類ハ設置後各種試驗檢査ヲ行ヒ合格ノ上受渡ヲ行フモノニシテ檢査終了迄ノ費用ハ總テ請負人ノ負擔トス
但シ現場試驗ノ電力ニ限リ本市ノ負擔トス
第五條　製作据付等ハ總テ日本電氣工藝委員會標準規格ニ則リ且ツ電氣工作物規程ニ適合セシメ猶本市工事執行規定ニ基キ施行ナシ遞信省落成檢査ニ合格スルモノタルヘク同檢査ニ立會ヲナスモノトス
第六條　竣工期間ハ　月　日トシ猶構造圖配置圖竝ニ基礎其他重要部分ノ圖面ヲ契約後十五日間ニ提出シ本市ノ承認ヲ受クヘシ
第七條　試驗ノ方法及結果ニ對シテ納入者ハ一切異議ノ申立ヲナササルモノトス
第八條　圖面仕様書其他不明ノ點ニ對シテハ入札書提出前本市係員ニ付キ説明ヲ求メ熟ト了解スヘキモノトス
第九條　圖面仕様書其他ニ疑義ヲ生シタル場合ハ凡テ本市ノ解釋ニ從フモノトス

第二章　變　壓　器

第十條　納入スヘキ變壓器ハ左記ノ如キモノタルヘシ
(一)型　油入自冷式單相變壓器
(二)容　量　二五「キロヴオルトアンペア」
(三)一次電壓　三、三〇〇、三、一五〇、三、〇〇〇、二、八五〇「ウオルト」
(四)二次電壓　二二〇　二〇〇「ウオルト」
(五)周　波　數　六〇「サイクル」
(六)個　數　參個（貳個V結線　壹個豫備）
(七)能　率　全負荷　力率一〇〇%場合　九八%以上
(八)變　動　率　全負荷　力率一〇〇%ノ場合　三%以下
第十一條　本器ハ全負荷ヲ以テ二十四時間連續運轉ナシタル後寒暖計法ニヨリ測定シタルトキ溫度上昇ハ周圍溫度攝氏四〇度ノ場合五〇度以下猶引續キ二五「パーセント」ノ過負荷運轉二時間ナシタル場合五五度以下タルヘシ
第十二條　第一次線輪ト鐵心、第二次線輪及外函トノ間ニ七、六〇〇Vノ交番電壓ヲ加ヘタル場合ニ一分間第二次線輪ト鐵心及外函ニ一、五〇〇Vノ交番電壓ヲ加ヘタル場合一分間耐エ得ルモノタルヘシ
第十三條　本器ニハ變壓器油、端子、油量計、油出栓寒暖計可熔片付開閉器等其他一切ノ附屬品ヲ具備シ猶變壓器油ハ壹個分以上適量容器付及可熔片付開閉器ハ壹揃ヲ豫備トシテ同時ニ納入スヘシ
第十四條　本器設置ニ際シテ第二次側ニ第二種地線工事及外函ニハ第壹種地線工事ヲ施シ完全ニ接地スヘシ
第十五條　溫度上昇試驗絕緣耐力試驗其他能率變動率試驗等ノ工場試驗ニ本市係員立會セサルトキハ東邦電力株式會社ノ試驗ヲ受ケ其ノ合格證ヲ提出スヘシ

第三章　屋外電氣設備

第十六條　本設備ハ65粍×65粍×6粍角鐵ヲ以テ別紙圖ノ如ク組立ツルモノニシテ其ノ接手ハ「ガセツト」繼トシ堅牢ナルモノトシ下部二米ノ周圍ハ金網ヲ張リ體裁ヨク之ヲ支持セシメ外觀美ヲ保ツ樣工作部分ニハ仕上ヲナスモノトス
第十七條　屋外變電設備ノ基礎混凝土ハ本市ニ於テ施行ナスト雖モ取付上加工ヲ要スル場合ハ納入者之ヲ施行ナスモノトス猶本設備ニハ別途契約ニ依リテ納入セル屋外誘導電壓調整器ヲ据付ス積算電力計用變壓器及變流器ヲ装置スルモノナルヲ以テ本納入者ハ之ト充分連絡ヲ取リ打合セヲナシ本設備ヲシテ遺漏ナカラシムルモノトス
第十八條　本設備ニ要スル金網ハ本市ノ指示ニ依リ見本ヲ提出シ承認ヲ受ケタル後取付クヘシ
第十九條　別紙圖ニ示ス如ク電壓調整器ノ制禦函ノ表面扉ヲ自由ニ開閉セシメ又本設備内諸器具ノ操作點檢ノタメ出入ナシ得ル樣金網張ノ兩開キ扉ヲ装置スヘシ而シテ金網ハ前條ニ依ルモノトシ蝶番ハ堅固ナルモノタルヘシ
第二十條　枠組ハ充分ノ容量ヲ有スル導線ヲ以テ完全ニ接地スヘシ

第二十一條　本設備ニハ左記ノモノヲ同時ニ納入シ設置スルモノトス

(一)　屋外用三極單投手働油入開閉器　四、五〇〇V　一〇〇A　壹　個
(二)　屋外用單極單投切斷開閉器　四、五〇〇V　一〇〇A　六　個
(三)　寒流線輪　四、五〇〇V　一〇〇A　參　個
(四)　避雷器　三、三〇〇V　參　個
(五)　靜電式漏電計　三相式　三、三〇〇V　壹　個

第二十二條　前條ノ諸器具ハ何レモ操作便ニシテ且ツ安全ナルハ勿論猶第十六條ニ示ス外觀美モ亦充分考慮シテ施行スヘシ

第二十三條　靜電式漏電計ハ屋外電氣設備上ニ取付クルモノニシテ防濕耐水ノ鐵板製函內ニ納メ表面ハ硝子板ヲ用ヒ外部ヨリ容易ニ讀ミ得ルモノトシ猶必要ニ應シ內部ヲ開キ得ル裝置トナスヘシ

第二十四條　本工事者ハ東邦電力株式會社ノ裝置セル柱上開閉器ノ二次側ヨリ別途契約ニヨリ納入セル電壓調整器ニ至ル間一切ノ配線及裝置ノ凡テヲ施行スルモノトス

第二十五條　本納入者ハ附帶トシテ低壓二〇〇V三相用「ランプ」式漏電計一式ヲ同時ニ納入ナシ屋內配電盤裏面ノ側壁上ニ裝置スヘシ而シテ之ニ要スル大理石盤ハ別紙圖ニ示ス如キモノニシテ本器ヲ取付クルニ適當ナル大サヲ有シ猶取付金具ヲ附屬セシムヘシ

第二十六條　前條漏電計ヲ變電母線及發電母線ヲ切換ヘ檢シ得ル樣三極双投開閉器ヲ具備シ之カ配線ヲナスヘシ但シ施行ニ際シテハ別途契約ニ依ル電氣工事者ト充分連絡ヲ取リ打合ヲナスヘシ

第四章　附　則

第二十七條　本仕様書ニ依ル物品ノ納入及工事施行ノ期限ヲ左記ノ通リトシ納入品發送ハ本市ノ承認ヲ受ケタル上之ヲナスモノトス

(一)　變壓器、油入開閉器、切斷開閉器、屋外電氣設備枠組、寒流線輪等主幹線ニ屬スルモノ及之ノ配線竝ニ設置ハ　月　日
(二)　靜電式漏電計、ランプ式漏電計、避雷器等及之ニ屬セルモノノ配線設置ハ　月　日

水銀式「ヴェンチユリーメーター」購入仕様書

一、「ヴェンチユリーメーター」ハ本市水道送水鐵管ニ取付ケ流量測定ニ用ユル水銀式ノモノ一組ニシテ指示器、記錄計、積算計其他必要ナル附屬器具一式ヲ完備シ正確ナル動作ヲナスモノトス

一、設置箇所ハ葉栗村大字佐千原淨水場構內ニシテ「ヴェンチユリー」管ハ喞筒排出側主送水鐵管ニ取付計器一切ハ喞筒室內別紙圖面ノ位置ニ設置スルモノトス

一、本器ハ左ノ要項ニ適スルモノタルヘシ

(イ)　「ヴェンチユリーチユーブ」ヲ取付クヘキ鐵管ノ口徑　四五〇粍
(ロ)　「ヴェンチユリーチユーブ」ノ中心ニ於ケル最高靜水頭　約四〇米
(ハ)　「ヴェンチユーブノ」中心ニ於ケル最低靜水頭　約六米
(ニ)　毎時流量記錄範圍　自一、〇〇〇立方米　至　六六立方米
(ホ)　最大最小間ニ於ケル實量ト指示量ノ差　二%　以內
(ヘ)　「ヴェンチユリーチユーブ」ノ入口ヨリ出口ニ至ル損失水頭〇、七米以下タルヲ要ス
(ト)　記錄紙ノ回轉度　一週間ニ一回轉
(チ)　「スロート」中心ヨリ記錄器迄ノ距離　約四一米
(リ)　時計仕掛　八日卷
(ヌ)　「スロート」中心ヨリ床面迄ノ高サ　約二米

一、「ヴェンチユリーチユーブ」ハ鑄鐵製ニシテ「スロート」ニハ砲金又ハ之ト同等以上ノ「ブッシユ」ヲ挿入シ上流ヘ承口下流

ハ挿口付キニシテ其ノ寸法ハ上水道高級鑄鐵管規格ニ依リ製作ナスモノトス「スロート」部ニハ外周ニ壓力銅管取付ト同様工作ヲ二ケ以上ナシ砲金製「プラッグ」ヲ捻込ミ置クモノトス
壓力導管ハ銅製ニシテ兩端ハ「ユニオン」接手及弁ヲ設ケ充分ナル大サヲ有スルモノトス「ヴェンチュリーチューブ」ノ出口、入口ノ圓錐管端ニハ壓力計及「コック」竝ニ取付「パイプ」ヲ設クルモノトス但シ出口ハ現場ニ於テ本市指定ノ場所ニ取付ナスモノトス

一、記錄器ハ正確ナル時計仕掛ニヨリ回轉シ刻々ノ流量ヲ記錄スルモノニシテ記錄器ハ直線等距離式目盛ヲ有シ其ノ「スケール」ハ成ル可ク大ナルモノニシテ最小目盛約二〇立方米トス記錄紙ニハ英文ニテ一宮市水道其他必要ナル文字ヲ記入シ記錄始メハ月曜日午前八時トス

一、指示器及積算計ハ記錄器ニ關連シテ動作ナスモノニシテ硝子張同一箱中ニ納メ外部ヨリ讀ミ得ル様ナシ且ツ扉ニハ鎖錠シ得ルモノタルヘシ
積算計ハ最小目盛約一立方米ヨリ最大一〇〇萬立方米以上ニ至ルモノトス記錄紙ハ記錄スヘキ「ペン」ノ進行長一一〇粍以上ニシテ「ドラム」直徑一五四粍以上トス本器ハ納入ノ際製作工場ニ於ケル試驗表ヲ添附シ實量ト指示量トノ誤差ノ關係ヲ明示スヘキモノトス

一、機構ハ凡テ精緻ナル工作ニ依リ確實ナル動作ヲナスモノニシテ耐久力ニ富ミ體裁良キ構造ニシテ鑄鐵製臺脚ヲ具備スルモノトス

一、本機ニハ左ノ附屬品ヲ附スルモノトス

イ、記　錄　紙	五年分
ロ、水　　　銀	一　式
ハ、摩 擦 部 油	一　式
ニ、特別製「インキ」	拾　瓶
ホ、豫　備「ペ　ン」	拾　本
ヘ、「スパナーレンチ」	一　式
ト、其他必要ナルモノ	一　式

一、納入者ハ契約後三十日以内ニ組立圖竝ニ各部設計詳細圖及据付ニ要スル基礎圖等一切ヲ提出係員ノ承認ヲ受クヘキモノトス

一、納期ハ契約後百八十日以内ニ本市梅ケ枝通リ水道課檢査所ニ持込ミ水壓（毎平方糎一七、五瓩）其他ノ試驗檢査ヲ受ケ合格品ヲ淨水場構内指定ノ場所ニ持込ムモノトス据付ハ本市ニ於テ行フモ請負者ハ本市ノ求メニ應シ熟練セル技術員ヲ立會ハシメ据付運轉ノ責ニ任スルモノトス

一、受渡シハ現場据付試運轉後合格ノ上行フモノニシテ本市ニ於テ不合格ト認メタルモノハ取替又ハ擯却ヲ命スルコトアルモノトス受渡後ト雖モ當市給水開始後一ケ年内ニ故ナク故障ヲ生シタル時ハ請負者ハ無償ニテ直ニ補修又ハ取替ヲ行フモノトス之カ保證ノタメ請負契約保證金ヲ留保スルモノトス

一、本仕様書其他ニ疑義ヲ生シタルトキハ凡テ本市ノ意見ニ依ルモノトス

一、本機ハ商工省ノ檢定ヲ受クル場合ハ凡テ納入者ノ負擔トス

鹽素滅菌機購入仕様書

一、購入スヘキ鹽素滅菌機ハ手働調節ニ依リ鹽素ノ水溶液ヲ注入スル事ヲ得ルモノニシテ其ノ調節範圍ハ鹽素注入量毎時最小一〇瓦ヨリ最大五〇〇瓦迄任意且正確ニ調節シ得ル製作堅牢ニシテ左記各條項ニ適合シ本機使用ニ要スル一切ノ附屬品ヲ具備セシメタルモノ貳臺ヲ愛知縣葉栗郡葉栗村大字佐千原本市水道淨水場構内鹽素滅菌機室内指定ノ場所ニ設置スルモノトス

一、本機ハ各壹臺毎ニ必要ナル左記各部分ヲ高一・八米ノ鐵枠ニ取付タル二枚ノ大理石盤ニ配置スルモノニシテ機能完全ナルモノタルヘシ

一、鹽素瓦斯濾過裝置	壹　個
一、壓力計（鹽素瓦斯用）	貳　個
一、誘導弁	壹　個
一、鹽素注加量計器（指壓器式）	壹　個
一、鹽素瓦斯調節弁	壹　個
一、同　　上放出弁	壹　個
一、同　　上不歸弁	壹　個
一、鹽素瓦斯ト淸水トノ溶融裝置	壹　組
一、鹽素瓦斯溶融水濾過裝置	壹　組
一、鹽素瓦斯溶融水壓力計	壹　個
一、同　　上調節弁	壹　個
一、右合項相互間接續管	壹　式

一、鹽素瓦斯又ハ瓦斯溶液注入管　壹　組
　但同管ハ長年月ノ使用ニ於テ鹽素ニ侵サレサル特種金屬管トス
一、本機ニハ左記ヲ附屬スヘシ
一、液體鹽素約三〇瓩鋼鐵製圓筒容器入　貳　本
一、分解用小道具
一、鹽素ノ水溶液ハ同液體ニ侵サレサル特殊金屬管ヲ以テ約七米ヲ距レタル量水擬溢流箇所ニ導キ數箇所ノ噴出口ヨリ噴出セシムル裝置トナスヘシ
　但シ水溶液ト溢流箇所トノ高低差ハ約一米トス
一、納入者ハ契約後三十日間ニ据付ニ要スル詳細圖及組立圖竝ニ之ニ附屬スル給水配管圖等ヲ提出シ本市係員ノ承認ヲ受クルモノトス
一、本機据付組立ニ際シテハ納入者ニ於テ經驗アル技術者ヲ現場ヘ派遣シ之カ組立据付ヲ行ヒ試運轉ニ立會セシメ其ノ責ニ任スルモノトス
一、本機ハ契約締結後四ケ月間以内ニ前記場所ニ納入据付ヲナスモノトス
一、受渡ハ据付終了後現場ニ於テ實施試驗ヲナシ合格ノ上行フモノニシテ不良部ハ直ニ手直シ又ハ取替ヲ行フモノトス
一、本仕様書其他ニ疑義ヲ生シタル時ハ凡テ本市ノ意見ニ依ルモノトス

第三節　主要材料購入

各種工事材料は主として市内竝に本市近郊當業者より購入したりしも特殊品又は緊急止むを得ざりしものは之を他より求めたり左に主要材料購入一覽表を示すへし。

主要材料購入一覽表

品目	形質	單位	數量	金額	納入者
鉛塊	米國産 タグナック印	瓩	一〇八・〇五五	圓 三五、八一九・〇七	大阪市 佐渡島伊兵衞
〃	〃 〃	〃	六九・九六六	一四、九六三・四四	〃 山中直七
マニラ麻		瓩	三、七三五・〇〇〇	一、六〇三・七八	名古屋市 淺野物産株式會社名古屋支店
〃		〃	六五〇・〇〇〇	三四〇・二〇	〃 遠藤龜吉外一名
セメント	小野田 五〇瓩入	袋	三一、三一七・〇〇〇	三二、八八二・八五	名古屋市 三井物産株式會社名古屋支店
〃	〃 〃	〃	一九、四〇四・〇〇〇	二一、五八二・〇〇	一宮市 林彦次郎
〃	〃 〃	〃	一九一・〇〇〇	二二五・三四	〃 加藤澤藏外二名
砂利及砂		立方米	一、九〇二・七九〇	二、九四六・九五	〃 赤塚貞嘉
〃		〃	三〇七・〇八〇	六七五・四七	市外北方村 二宮藤市郎
砂利		〃	二四九、〇〇〇	六二三・二五	〃宮田町 尾關重三郎
〃		〃	一八四、〇三八	四七五・四三	〃北方村 木曾川物産株式會社
砂		〃	二〇〇・〇〇〇	四二三・〇〇	岐阜縣笠松町 山田吉次郎
砂利		〃	一五六・七八〇	四一八・〇七	〃穂積村 昭和工業株式會社
〃		〃	一六五・四八〇	四一九・二一	市外宮田町 栗本繁信

砂利及砂		立方米	一六〇・〇〇〇	三一八・〇〇	岐阜縣川島村 野田制
鐵筋	自九粍至二二粍各種	瓩	六三、四〇三・〇〇〇	一一、六八〇・〇〇	名古屋市 岡谷合資會社
同	一六粍及一九粍	〃	一、二〇〇・〇〇〇	二六二・九〇	一宮市 金源商店
鐵線	十番	〃	三、二五〇・〇〇〇	八五八・五〇	同人
〃	〃	〃	一、〇〇〇・〇〇〇	二四〇・〇〇	〃 油傳商店
丸太材		本	三四三	七三〇・七九	〃 森幾松
枕木外九品			九一八	五四二・〇〇	〃 淺野謹之亟外一名
玄光塗料	一八立入	罐	四三	七一八・五〇	東京市 村岡源七
電纜及終端函		米 個	二七〇 八	九二七・五〇	一宮市 トモエ電機株式會社
電纜		米	六〇〇	一八六・四〇	〃 一宮電機商會
量水器室鐵蓋外四品		組	一二	五四七・〇〇	〃 トモエ電機株式會社
人孔鐵蓋		〃	一六	三六一・〇〇	名古屋市 石原製作所
〃		〃	一〇	一六七・五〇	一宮市 山田富次郎
〃		〃	七	二六一・八〇	〃 中島清次郎
弁類及消火栓鐵蓋		〃	五八八	三、一四八・〇二	大阪市 辻常吉
消火栓鐵蓋		〃	四〇	二六八・八〇	一宮市 中島清次郎
制水弁鐵蓋		〃	二五	一二五・〇〇	〃 山田富次郎
消火栓根元接手	地上及地下式	〃	四五四	三、〇四一・八〇	東京市 ジョイント商會
配水塔水槽支持桁		瓲	四三・四五二	七、四四〇・〇〇	大阪市 日本橋梁株式會社
外燈用電柱		本	一八	六八四・〇〇	一宮市 山田富次郎
亞鉛鍍鋼管	自一三粍至二五粍各種	米	四、〇五〇	三、一九〇・三五	一宮市 金源商店
〃	自四〇粍至一五〇粍各種	〃	二三八	五三九・七八	〃 油傳商店外二名
〃 外四四品			一、五六五	五六五・六四	〃 同人
平板、「ブロック」外一八品			三、六三五	一、四九〇・七四	名古屋市 日本コンクリート土木建築株式會社

備考　本表ハ同一品目ノ集計五〇〇圓以上ノモノニシテ一箇一〇〇圓以上ノモノヲ抄錄セリ

鉛塊購買仕樣書

第一條　購買スヘキ鉛塊ノ記號員數ハ左ノ通トス

一鉛塊　　瓲　第一號濠洲産BHAS印、第二號米國産タダナック印、第三號印度産BM印

第二條　鉛塊ハ再度溶解セサル純鉛ニシテ一本ノ重量三十五瓩以上六十瓩ヲ越エサル生子形ノモノトス

第三條　鉛塊ハ純鉛ナル軟質ノモノニシテ溶解ノ結果殘滓重量ハ原重量ノ四十分ノ一未滿ノモノトス

第四條　鉛塊ノ供給者ハ本市ノ執行スル試驗檢査ノ方法又ハ不合格ノ決定等ニ付キ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五條　檢査ノ結果不合格ト決定シタル鉛塊ハ本市ノ指定スル期間內ニ供給者ノ費用ヲ以テ搬出スルモノトス

第六條　納入場所本市梅ヶ枝通一丁目八番地一宮市水道課檢査所
第七條　納期及數量
　第一回　契約ノ日ヨリ十日間以内ニ於テ　　　　　　瓲
　第二回昭和　年　月　自日至日　間ニ於テ　　　　　瓲
第八條　本仕様書其ノ他ニ付キ疑義アル場合ハ總テ本市ノ解釋スル所ニ依ルモノトス

「ポートランド・セメント」購買仕様書

（以下單ニ「セメント」ト稱ス）

第一條　納入スヘキ「セメント」ハ品質優良ニシテ第二條ノ試驗及第三條ノ試驗ニ合格シタルモノニ限ル
第二條　「セメント」其ノ納付場所ニ着荷シタル時ハ係員ト供給者立會ノ上包装秤量濕氣等ニ關スル檢査ヲナシ異狀ナシト認ムルモノニ限リ倉入ヲ許可ス
「セメント」ハ總テ中味五拾瓩以上ノ紙袋入トシ納付スヘシ但シ袋用紙ハ濕氣ヲ防ク爲メニ充分ナル特殊紙質ヲ三枚以上重ネトシ袋毎ニ必ス製造所又ハ商標ヲ印刷シタルモノトス
第三條　前條ノ檢査ニ於テ異狀ナシト認メタルモノニ限リ係員ニ於テ供試標本四拾袋迄ヲ壹口トシ若干量ノ「セメント」ヲ取出シ標本毎ニ商工省告示第四十一號「セメント」規格ニ準據シ品質試驗ヲ執行スヘシ而シテ該標本中其ノ成績同試驗法ノ各條ニ合格セサル時ハ其ノ本標中ニ屬スルモノハ不合格ト定ム但シ本市ノ都合ニヨリ試驗法中耐壓力試驗及化學試驗ヲ省略スルコトアルヘシ
第四條　「セメント」供給者若クハ其ノ正當代理人ハ第二條及第三條ノ檢査ニ立會スヘシ供給者若ハ其ノ代理人出頭セサルモ試驗ノ結果ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
第五條　納入場所及數量ハ左記ノ通リニシテ其ノ納期ハ昭和　年　月　ヨリ　年　月　日迄ノ間ニ於テ本市ヨリ要求ニヨリ其數量ヲ三日以内ニ納入スルモノトス

第四節　鐵管類弁類消火栓竝物品材料檢査

一、鐵管類弁類竝消火栓檢査

工事用竝各種施設に要する材料の試驗及檢收は最も嚴正にして周密を旨とし夫々專門者をして之を行はしめたり就中鐵管類弁類竝に消火栓の檢査は極めて重要なるのみならず其の量も亦多き爲め之が受渡より檢査竝に搬出の方法如何に依りては徒に費用と時間を浪費することとなるを以て本市に於ては之が試驗檢收の爲最大直徑六〇〇粍迄の直管竝に異形管の水壓試驗を行ひ得る設備を始め弁類消火栓竝其他給水用諸材料に至る迄各般の試驗用施設を備へ主任技手を置き專ら檢査の重任に當らしめたり猶之が檢査成績表左の如し。

鐵管類弁類竝消火栓檢査成績表

種別	單位	契約數	試驗數	合格數	不合格數	百分率 合格率	百分率 不合格率	摘要
高級鑄鐵直管	本	三四、五八六	三五、四八八	三四、五八六	九〇二	九七・四六	二・五四	
高級鑄鐵異形管	個	四、六五四	五、三一六	四、六五四	六六二	八七・五五	一二・四五	
ベル型鋼管	本	一八五	一八五	一八五	—	—	—	本品ハ本市係員工場出張檢査セリ
制水弁	個	三一二	三七一	三一二	五九	八四・一〇	一五・九〇	

排氣弁	〃	二五	三八	二五	一三	六五・七九	三四・二一
消火栓	〃	四五〇	六三九	四五〇	一八九	七〇・四二	二九・五八

二、セメント竝其他物品材料檢査

本工事に使用したるセメントは總て支給品とし約五一、〇〇〇袋に達し各工事現場に於て工事請負人に倉庫を建設せしめ市の契約業者をして之に搬入せしむることとし納入に際し包裝秤量濕氣等に付嚴密なる檢査を行ひ異狀なきものに限り倉入をなさしめたる後拔檢査に依り納入數の一割に付商工省告示第四十一號「セメント」規格に據り粉末凝結膨脹性龜裂强度に就き正確なる試驗を施行し之に合格せしものを受領することとし工事施工上に萬遺漏なきを期せり其他の物品に就ても搬入に際しては當該仕樣書に基き精密且嚴格なる檢査を施行し合格決定をなせり。

第六章　資金調達

第一節　起債許可稟請竝許可

水道施設費起債に付昭和九年三月十二日左の如く之が許可方を內務、大藏兩大臣宛稟請、同年九月十日附を以て許可されたり。

一第一四一八號

昭和九年三月十二日

愛知縣一宮市長代理助役　前島次郎㊞

內務大臣　男爵　山本達雄殿

大藏大臣　高橋是清殿

水道布設費起債ノ件許可稟請

水道布設費起債ノ件別紙議決書ノ通御許可相成度此段及稟請候也

添付書類

一、水道公債條例(省略)

一、昭和九年度特別會計水道布設費歳入出豫算(省略)
一、水道布設目論見書(省略)
一、水道布設費繼續年期及支出方法(省略)
一、工事計畫說明及工事費豫算(省略)
一、水道經營收支豫算(省略)
一、水道給水條例(省略)
一、水道布設費財政計畫(省略)
一、水道布設平面圖(省略)
一、一般會計財政計畫(省略)
一、市稅賦課率表(省略)
一、諸稅負擔調(省略)
一、基本財產調書(省略)
一、納稅成績表(省略)
一、下水道築造費繼續年期及支出方法(省略)
一、都市計畫街路新設擴築事業費繼續年期及支出方法(省略)
一、國道改築費負擔金繼續年期及支出方法(省略)
一、負債償還一覽表(省略)
一、負債ニ關スル調書(省略)
一、運用金ニ關スル調書(省略)

一、昭和九年度一宮市歳入出豫算(省略)

内務省愛地第四六號

愛知縣一宮市

昭和九年三月十二日一第一四一八號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス

昭和九年九月十日

内務大臣　後藤文夫　印
大藏大臣　藤井眞信　印

記

一、第二條中但シ書ヲ左ノ通改ム
但シ每年度ノ起債額ハ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ起債年度間ニ於テ繰下借入スルコトヲ得
一、第十九條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
短起債ヲ起ス場合ト雖別表償還年次表ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

地第七九七號

昭和九年九月十七日

愛知縣内務部長　印

一宮市長殿

起債ノ件依命通牒

本年三月十二日付一第一四一八號ヲ以テ稟請ニ係ル標記ノ件本日別途更正許可相成候處該工事費ハ稍々多額ニ失スル嫌アリト被認候モ事業計畫上止ムヲ得サルモノトシテ此ノ儘詮議相成リタル趣ニ付工事ノ實施ニ當リ極力節約ヲ圖リ以テ起債ノ減額又ハ繰上償還ノ資ニ充當セシムルハ勿論一般會計ヨリ繰入計畫ヲ實施スルニ當リテモ支障ヲ來ササル樣篤ト注意相成度

追テ昭和十年度以降ノ分ニ付テハ借入ノ際本省ノ承認ヲ受ケラレ度爲念申添候

第二節 資金調達

水道布設資金は總て公債發行に依り借入るることに起債許可を得たり然れども政府の低利資金を借入るるは財政上有利なるを慮り專ら之が借入に努めたる結果起債總額百五十萬圓の內四十六萬四千圓を借入るることを得たり而して其後債券發行に關しては利率の點に稍不利なるものあり、仍て昭和十年度分起債に對しては之が發行を取止め日本生命保險株式會社より借入れることになすと同時に前年度發行額に對しても之を全額償還のため同社より借用せり。

猶工事中は各方面に亘り極力經費の節減を計りたるを以て昭和十一年度に至り起債額三十五萬圓を幾分減額せしむるも工事上支障を來ささるものと認めたるを以て三十二萬圓に減額することとせり左に之が內譯を示すへし。

內譯

借入先	借入年月日	借入額	年利率	摘要
大藏省預金部	昭和十年二月八日	一一九、〇〇〇圓	三分二厘	
公債發行	同 年四月二十五日	四六一、〇〇〇	四分三厘	昭和十一年九月一日償還
大藏省預金部	同 十一年五月十七日	一七〇、〇〇〇	三分二厘	
日本生命保險株式會社	同 年八月三十一日	四六一、〇〇〇	四分	此分公債繰上償還ノタメ借入
同	同	四〇〇、〇〇〇	四分	
大藏省預金部	同 十二年四月二十日	一七五、〇〇〇	三分二厘	
日本生命保險株式會社	同 年五月十日	一四五、〇〇〇	四分	
合計		一、四七〇、〇〇〇		

一、大藏省預金部資金借入

大藏省預金部資金借入總額は四六四、〇〇〇圓にして之が借入經過左の如し。

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名　昭和九年度公共團體普通事業資金
一、金額　金五拾八萬圓也
一、資金ノ用途　水道布設事業
一、償還方法　年賦
一、期限　五年据置昭和二十九年三月迄ニ償還
一、資金ヲ必要トスル時期　昭和九年十月

右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

昭和九年三月十七日

借入申込者　愛知縣一宮市長代理助役　前島次郎 印

內務大臣　男爵 山本達雄 殿

大藏大臣　高橋是清殿

添付書類

一、市稅賦課率（省略）
一、昭和九年度諸稅負擔一覽表（省略）
一、水道布設費起債方法及償還年次表（省略）
一、同　繼續年期及收支計算表（省略）
一、水道布設工事計畫說明書（省略）
一、昭和九年度特別會計水道布設費歲入出豫算書（省略）
一、同年度一宮市歲入出豫算書（省略）

地第二五八號
昭和九年八月二十三日

愛知縣內務部長印

一宮市長殿

昭和九年度公共團體普通事業資金ニ關スル件照會

標記資金曩ニ借入申込書提出相成候上水道費充當五八〇、〇〇〇圓ニ對シ調査上必要ニ付左記事項御取調ノ上來ル九月五日迄ニ必ス到達スル樣無遲滯正副二通提出相成度

追テ借入申込書提出後事業計畫ノ變更又ハ本年度事業着手ノ見込ナキ爲資金不要ト認メラルル向ニ付テハ其ノ旨申出相成度

記

一、事業施行ヲ要スル理由竝緩急ノ程度
二、起債ノ必要トスル理由書
三、事業計畫ノ大要調
四、事業費及財源調
五、財政計畫書
六、起債年度ヨリ償還完了年度迄ノ市町村稅賦課率及其ノ標準額稅額調
七、償還財源中稅以外ノ收入調詳細
八、基本財産現在高及管理方法
九、負債未償還額調（起債目的別、借入先別ニ記載シ合計ニ於テ預金部資金ト其他ニ區分ノコト）
一〇、現住戶數及人口
一一、起債許可年月日及番號若シ未許可ナラバ其ノ進捗狀況
一二、最近五ケ年度納稅成績調、滯納金アル場合ハ之ガ措置方法調添付

庶第四二〇一號
昭和九年九月四日

愛知縣一宮市長　森林右工門印

愛知縣內務部長殿

水道布設費借入申込ニ關スル件

八月二十三日付地第二五八號ヲ以テ標記ノ件ニ關シ御照會ノ件別紙ノ通及回答候也

添付書類

一、水道事業施行ヲ要スル理由並緩急ノ程度（省略）
二、起債ノ必要トスル理由（省略）
三、一宮市水道布設工事計畫說明書（省略）
四、事業費及財源（省略）
五、一般財政計畫（省略）
六、自昭和九年度至同二十八年度市稅賦課率及標準額稅額調（省略）
七、稅以外ノ收入調（省略）
八、基本財產現在高及管理方法（省略）
九、負債未償還額調（昭和九年八月末日現在）（省略）
一〇、現住戶數及人口（省略）
一一、起債許可稟請中ノ進捗狀況（省略）
一二、納稅成績表（省略）

預第四〇號

昭和九年十二月二十七日

預金部名古屋支部　一宮出張所㊞

一宮市長殿

預金部資金割當通知ノ件

曩ニ借入申込相成候預金部資金昭和九年度公共團體普通事業資金水道布設事業費ニ對シ別紙ノ通割當相成候條御了知相成度右及通知候也

預名第四六七二號

昭和九年十二月二十六日

預金部名古屋支部長㊞

一宮市長殿

昭和九年度公共團體普通事業資金割當通知ノ件

曩ニ昭和九年度公共團體普通事業資金五八〇、〇〇〇圓借入申込有之候處右ニ對シ金一一九、〇〇〇圓割當相成候條左記事項御了知ノ上處理相成度候也

記

一、融通利率　年三分二厘　但シ電氣、瓦斯、軌道及自動車事業ニ付テハ年四分二厘
二、資金ノ用途　上水道
三、元利支拂期日　八月一日、二月一日

四、償還期限　二十ケ年以内（五ケ年以内ノ据置期間ヲ含ム）但シ一口ノ金額三千圓以下ノモノノ元利償還期限ハ成ルヘク据置期間ヲ加ヘ十年以内トスルコト

五、本資金ノ割當ハ之ニ對スル起債ノ詮議ヲ豫メ是認セラレタル義ニハ無之ニ付此點篤ト了知アリタキコト

六、事業施行ノ關係、起債不許可其他ノ理由ニ依リ資金ノ借入不要トナリタルトキ又ハ事業計畫ヲ變更セルトキハ其ノ變更計畫ヲ直ニ預金部支部出張所ニ申出ツルコト

七、資金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ預金部資金供給稟請書ノ提出ヲ省略シ直ニ別紙様式甲號ニ依ル資金交付申請書ニ起債決議書寫起債許可書寫及償還年次表ヲ添付シ資金借入豫定日ヨリ二十日以上ノ餘日ヲ存シ出張所ヲ經由シ預金部支部ニ提出スルコト、但資金交付申請書竝關係書類ハ各二通提出ノコト

右ニ對シ預金部支部ニ於テ交付申請書記載ノ「資金ノ交付ヲ受クヘキ日」ニ資金ノ交付ヲ爲スモ支障ナシト認メタル場合ハ別紙様式乙號ニ依リ預金部資金交付決定方通知可致ニ付資金借入ノ當日、日本銀行ノ店ニテ借入ノ手續ヲ爲スコト

當借用證書ハ別紙様式丙號ニ據リ作成スルコト

八、本資金ヨリ數口ノ割當ヲ受ケ之ヲ一口ニ集中シ交付ヲ受ケントスルハ支障ナキモ此ノ場合ハ資金ノ交付ヲ受ケサル口ノ事業モ計畫通遂行スルコトヲ必要條件トス、而シテ此ノ場合ニ於テハ交付ヲ受ケサル事業ニ對シテハ再ヒ割當ヲ爲ササルモノトス

九、前項ノ場合ニ於テハ資金交付申請書ニ記載スヘキ資金ノ用途ハ集中シテ交付ヲ受ケントスル用途ヲ記載シ之ニ添付スヘキ起債決議書及起債許可書ノ寫ハ集中シテ交付ヲ受ケントスル用途ニ對スルモノノ外被集中割當額ニ對スルモノヲモ添付スルコト

一〇、本回ノ割當ハ借入申込ノ際ノ事業計畫ヲ基礎トシ割當額ヲ決定セルモノナルヲ以テ事業計畫ノ内容ヲ變更セル場合ハ資金ノ交付ニ當リ減額セラルルコトアルヘキコト

一一、預金部ノ市町村ニ對スル現金ノ交付ハ昭和十年五月三十一日ヲ以テ打切ラルヘキコト

一二、本資金ノ使途其他ニ付不都合アリト認メタルトキハ期限内ト雖モ何時ニテモ全部又ハ一部ノ償還ヲ命スルコトアルヘキコト

（様式省略）

預金部資金交付申請書

一、資金年度及資金名　昭和九年度公共團體普通事業資金
一、金額　金拾壹萬九千圓
一、資金ノ用途　水道布設事業費
一、利率　年參分貳厘
一、資金ノ交付ヲ受クヘキ年月日　昭和拾年貳月八日
一、資金ノ交付ヲ受クヘキ店名　日本銀行愛知縣一宮代理店
一、据置期限　昭和十四年二月一日
一、償還期限　昭和二十九年二月一日
一、引換提供スヘキ借用證書ノ記號番號　第六號

右御交付相成度別紙起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表相添ヘ此段及申請候也

追而資金御交付ノ上ハ本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徴セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スベク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セザルガ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命ゼラルルモ異存無之候

昭和十年一月十六日

資金交付申請者　愛知縣一宮市長　森　林右工門　㊞

預金部名古屋支部長　西村淳一郎殿

添付書類

償還年次表　（三分二厘）（省略）
起債許可書寫　（省略）
市債借入承認ノ件寫　（省略）
一宮市水道公債條例　（省略）

預金部資金決定通知書

日本銀行愛知縣一宮代理店扱

一金拾壹萬九千圓也
資金名　昭和九年度公共團體普通事業資金　貸付年月日　昭和拾年貳月八日
右及通知候也
追テ裏面參照相成度
昭和十年一月三十日

預金部名古屋支部長　㊞

一宮市長殿

（裏面記事省略）

第六號

借用證書

一金拾壹萬九千圓也
右金額ヲ本預金部ヨリ左記條件ヲ以テ借用仕候
就而借入條件ヲ堅ク遵守ノ上元利金ハ期日ニ相違無支拂可致候也
追而本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スヘク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セサルカ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命セラルルモ異存無之候尙本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證券ニ引換可申候

記

一、資金ノ用途　水道布設事業
一、利率　年參分貳厘
一、元利金支拂方法及時期　別紙償還年次表ノ通償還スルモノトス
借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス
一、元利金支拂ノ場所　日本銀行愛知縣一宮代理店

昭和十年二月八日

借受人　愛知縣一宮市長　森林右エ門　㊞

大藏大臣　高橋是清殿

償還年次表

（年利三分二厘）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計

		圓	圓	圓	圓
昭和十年度	八月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、八三〇・三六	一、八三〇・三六
	二月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
同十一年度	八月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
	二月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
同十二年度	八月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
	二月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
同十三年度	八月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
	二月一日	一一九、〇〇〇・〇〇	—	一、九〇四・〇〇	一、九〇四・〇〇
同十四年度	八月一日	一一五、八七八・四一	三、一二一・五九	一、九〇四・〇〇	五、〇二五・五九
	二月一日	一一二、七〇六・八八	三、一七一・五三	一、八五四・〇六	五、〇二五・五九
同十五年度	八月一日	一〇九、四八四・六〇	三、二二二・二八	一、八〇三・三一	五、〇二五・五九
	二月一日	一〇六、二一〇・七六	三、二七三・八四	一、七五一・七五	五、〇二五・五九
同十六年度	八月一日	一〇二、八八四・五四	三、三二六・二二	一、六九九・三七	五、〇二五・五九
	二月一日	九九、五〇五・一〇	三、三七九・四四	一、六四六・一五	五、〇二五・五九
同十七年度	八月一日	九六、〇七一・五九	三、四三三・五一	一、五九二・〇八	五、〇二五・五九
	二月一日	九二、五八三・一五	三、四八八・四四	一、五三七・一五	五、〇二五・五九
同十八年度	八月一日	八九、〇三八・八九	三、五四四・二六	一、四八一・三三	五、〇二五・五九
	二月一日	八五、四三七・九二	三、六〇〇・九七	一、四二四・六二	五、〇二五・五九
同十九年度	八月一日	八一、七七九・三四	三、六五八・五八	一、三六七・〇一	五、〇二五・五九
	二月一日	七八、〇六二・二二	三、七一七・一二	一、三〇八・四七	五、〇二五・五九
同二十年度	八月一日	七四、二八五・六三	三、七七六・五九	一、二四九・〇〇	五、〇二五・五九
	二月一日	七〇、四四八・六一	三、八三七・〇二	一、一八八・五七	五、〇二五・五九
同二十一年度	八月一日	六六、五五〇・二〇	三、八九八・四一	一、一二七・一八	五、〇二五・五九
	二月一日	六二、五八九・四一	三、九六〇・七九	一、〇六四・八〇	五、〇二五・五九
同二十二年度	八月一日	五八、五六五・二五	四、〇二四・一六	一、〇〇一・四三	五、〇二五・五九
	二月一日	五四、四七六・七一	四、〇八八・五四	九三七・〇五	五、〇二五・五九
同二十三年度	八月一日	五〇、三二二・七五	四、一五三・九六	八七一・六三	五、〇二五・五九
	二月一日	四六、一〇二・三三	四、二二〇・四二	八〇五・一七	五、〇二五・五九
同二十四年度	八月一日	四一、八一四・三八	四、二八七・九五	七三七・六四	五、〇二五・五九
	二月一日	三七、四五七・八二	四、三五六・五六	六六九・〇三	五、〇二五・五九
同二十五年度	八月一日	三三、〇三一・五六	四、四二六・二六	五九九・三三	五、〇二五・五九
	二月一日	二八、五三四・四八	四、四九七・〇八	五二八・五一	五、〇二五・五九
同二十六年度	八月一日	二三、九六五・四四	四、五六九・〇四	四五六・五五	五、〇二五・五九
	二月一日	一九、三二三・三〇	四、六四二・一四	三八三・四五	五、〇二五・五九
同二十七年度	八月一日	一四、六〇六・八八	四、七一六・四二	三〇九・一七	五、〇二五・五九
	二月一日	九、八一五・〇〇	四、七九一・八八	二三三・七一	五、〇二五・五九
同二十八年度	八月一日	四、九四六・四五	四、八六八・五五	一五七・〇四	五、〇二五・五九
	二月一日	—	四、九四六・四五	七九・一四	五、〇二五・五九
合計			一一九、〇〇〇・〇〇	四六、九二六・〇六	一六五、九二六・〇六

水第一四六一號

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名　昭和十年度公共團體普通事業資金

一、金　　額　金五拾七萬圓也

一、資金ノ用途　水道布設事業

一、償還方法　年賦

一、期　　限　四年据置昭和二十九年三月迄ニ償還

右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

昭和十年三月二十三日

借入申込者　愛知縣一宮市長　森　林右工門㊞

內務大臣　後藤文夫殿
大藏大臣　高橋是清殿

（添付書類省略）

預名第二八六一號

昭和十年八月二十日

預金部名古屋支部長㊞

一宮市長殿

昭和十年度公共團體普通事業資金割當通知ノ件

曩ニ昭和十年度公共團體普通事業資金借入申込有之候處右ニ對シ左記ノ通リ割當相成候條別記事項御了知ノ上處理相成度候也

記

資金名	用途	借入申込額	割當額	備考
		圓	圓	
昭和十年度公共團體普通事業資金	小學校	三四、〇〇〇	三四、〇〇〇	
同	上水道	五七〇、〇〇〇	一七〇、〇〇〇	
同	下水道	一九八、〇〇〇	五九、三〇〇	
同	傳染病院	八、九〇〇	三、四〇〇	

（別記省略）

豫金部資金交付申請書

一、資金年度及資金名　昭和十年度公共團體普通事業資金

一、金　　額　金拾七萬圓

一、資金ノ用途　水道布設事業費

一、利　　率　年參分貳厘

一、資金ノ交付ヲ受クヘキ年月日　昭和拾壹年五月拾五日

一、資金ノ交付ヲ受クヘキ店名　日本銀行愛知縣一宮代理店

一、据置期限　昭和拾四年貳月壹日

一、償還期限　昭和貳拾九年貳月壹日

一、引換提供スヘキ借用證書ノ記號番號　第拾壹號

右御交付相成度別紙起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表相添ヘ此段及申請候也

追而資金御交付ノ上ハ本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スヘク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又借入後長期ニ亘リ使用セサルカ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命セラルルモ異存無之候

昭和拾壹年四月二十七日

資金交付申請者　愛知縣一宮市長　森　林右工門㊞

預金部名古屋支部長　西村淳一郎殿

（添付書類省略）

預金部資金交付決定通知書

日本銀行愛知縣一宮代理店扱

一金拾七萬圓也

資金名　昭和拾年度公共團體普通事業資金　貸付年月日　昭和拾壹年五月拾五日

右及通知候也

追テ裏面參照相成度

昭和拾壹年五月九日

預金部名古屋支部長㊞

一宮市長殿

（裏面記事省略）

第拾壹號

借用證書

一金拾七萬圓也

右金額ヲ本日預金部ヨリ左記條件ヲ以テ借用仕候

就而借入條件ヲ堅ク遵守ノ上元利金ハ期日ニ相違無支拂可致候也

追而本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徵セラルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スヘク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セサルカ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命セラルルモ異存無之候

尙本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證券ニ引換可申候

記

一、資金ノ目的　水道布設事業

一、利　率　年參分貳厘

一、元利金支拂方法及時期　別紙償還年次表ノ通償還スルモノトス

借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス

一、元利金支拂ノ場所　日本銀行愛知縣一宮代理店

昭和拾壹年五月拾五日

借受人　愛知縣一宮市長　森　林右工門㊞

大藏大臣　馬場鍈一殿

償還年次表

（年利三分二厘）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計
昭和十一年度	八月一日	圓 一七〇、〇〇〇・〇〇	圓 —	圓 一、一六五・七一	圓 一、一六五・七一
	二月一日	一七〇、〇〇〇・〇〇	—	二、七二〇・〇〇	二、七二〇・〇〇

		圓	圓	圓	圓
昭和十二年度	八月一日	一七〇、〇〇〇・〇〇	—	二、七二〇・〇〇	二、七二〇・〇〇
	二月一日	一七〇、〇〇〇・〇〇	—	二、七二〇・〇〇	二、七二〇・〇〇
同　十三年度	八月一日	一七〇、〇〇〇・〇〇	—	二、七二〇・〇〇	二、七二〇・〇〇
	二月一日	一七〇、〇〇〇・〇〇	—	二、七二〇・〇〇	二、七二〇・〇〇
同　十四年度	八月一日	一六五、五四〇・五九	四、四五九・四一	二、七二〇・〇〇	七、一七九・四一
	二月一日	一六一、〇〇九・八三	四、五三〇・七六	二、六四八・六五	七、一七九・四一
同　十五年度	八月一日	一五六、四〇六・五七	四、六〇三・二六	二、五七六・一五	七、一七九・四一
	二月一日	一五一、七二九・六六	四、六七六・九一	二、五〇二・五〇	七、一七九・四一
同　十六年度	八月一日	一四六、九七七・九二	四、七五一・七四	二、四二七・六七	七、一七九・四一
	二月一日	一四二、一五〇・一五	四、八二七・七七	二、三五一・六四	七、一七九・四一
同　十七年度	八月一日	一三七、二四五・一四	四、九〇五・〇一	二、二七四・四〇	七、一七九・四一
	二月一日	一三二、二六一・六五	四、九八三・四九	二、一九五・九二	七、一七九・四一
同　十八年度	八月一日	一二七、一九八・四二	五、〇六三・二三	二、一一六・一八	七、一七九・四一
	二月一日	一二二、〇五四・一八	五、一四四・二四	二、〇三五・一七	七、一七九・四一
同　十九年度	八月一日	一一六、八二七・六三	五、二二六・五五	一、九五二・八六	七、一七九・四一
	二月一日	一一一、五一七・四六	五、三一〇・一七	一、八六九・二四	七、一七九・四一
同　二十年度	八月一日	一〇六、一二二・三三	五、三九五・一三	一、七八四・二八	七、一七九・四一
	二月一日	一〇〇、六四〇・八七	五、四八一・四六	一、六九七・九五	七、一七九・四一
同二十一年度	八月一日	九五、〇七一・七一	五、五六九・一六	一、六一〇・二五	七、一七九・四一
	二月一日	八九、四一三・四四	五、六五八・二七	一、五二一・一四	七、一七九・四一
同二十二年度	八月一日	八三、六六四・六四	五、七四八・八〇	一、四三〇・六一	七、一七九・四一
	二月一日	七七、八二三・八六	五、八四〇・七八	一、三三八・六三	七、一七九・四一
同二十三年度	八月一日	七一、八八九・六三	五、九三四・二三	一、二四五・一八	七、一七九・四一
	二月一日	六五、八六〇・四五	六、〇二九・一八	一、一五〇・二三	七、一七九・四一
同二十四年度	八月一日	五九、七三四・八一	六、一二五・六四	一、〇五三・七七	七、一七九・四一
	二月一日	五三、五一一・一六	六、二二三・六五	九五五・七六	七、一七九・四一
同二十五年度	八月一日	四七、一八七・九三	六、三二三・二三	八五六・一八	七、一七九・四一
	二月一日	四〇、七六三・五三	六、四二四・四〇	七五五・〇一	七、一七九・四一
同二十六年度	八月一日	三四、二三六・三三	六、五二七・二〇	六五二・二一	七、一七九・四一
	二月一日	二七、六〇四・七〇	六、六三一・六三	五四七・七八	七、一七九・四一
同二十七年度	八月一日	二〇、八六六・九六	六、七三七・七四	四四一・六七	七、一七九・四一
	二月一日	一四、〇二一・四二	六、八四五・五四	三三三・八七	七、一七九・四一
同二十八年度	八月一日	七、〇六六・三五	六、九五五・〇七	二二四・三四	七、一七九・四一
	二月一日	—	七、〇六六・三五	一一三・〇六	七、一七九・四一
計			一七〇、〇〇〇・〇〇	六〇、一四八・〇一	二三〇、一四八・〇一

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名　昭和十一年度公共團體普通事業資金

一、金　額　金參拾五萬圓也

一、資金ノ用途　水道布設事業

一、償還方法　年賦

一、期　限　三年据置昭和二十九年三月迄ニ償還

右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

昭和十一年三月二十八日

借入申込者　愛知縣一宮市長　森　林右工門㊞

內務大臣　潮　惠之輔殿

大藏大臣　馬場鍈一殿

（添付書類省略）

預名第三〇六九號

昭和十一年九月八日

預金部名古屋支部長 印

一宮市長殿

昭和十一年度公共團體普通事業資金割當通知ノ件

曩ニ昭和十一年度公共團體普通事業資金借入申込有之候處右ニ對シ左記ノ通リ割當相成候條別記事項御了知ノ上處理相成度候也

記

資金名	用途	借入申込額	割當額	備考
公共團體普通事業資金	上水道	三五〇、〇〇〇圓	一七五、〇〇〇圓	

（別記省略）

預金部資金交付申請書

一、資金年度及資金名　昭和十一年度公共團體普通事業資金

一、金額　金拾七萬五千圓也

一、資金ノ用途　水道布設事業費

一、利率　年參分貳厘

一、資金ノ交付ヲ受クヘキ年月日　昭和拾貳年四月貳拾日

一、資金ノ交付ヲ受クヘキ店名　日本銀行愛知縣一宮代理店

一、据置期限　昭和拾四年貳月壹日

一、償還期限　昭和貳拾九年貳月壹日

一、引換提供スヘキ借用證書ノ記號番號　第拾參號

右御交付相成度別紙起債決議書寫、起債許可書寫及償還年次表相添ヘ此段及申請候也

追而資金御交付ノ上ハ本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徴セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用致スヘク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セサルカ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命セラルルモ異存無之候

昭和拾貳年參月參拾壹日

資金交付申請者　愛知縣一宮市長　森林右エ門 印

預金部名古屋支部長　西村淳一郎殿

（添付書類省略）

預金部資金決定通知書

日本銀行愛知縣一宮代理店扱

一金拾七萬五千圓也

資金名　昭和拾壹年度公共團體普通事業資金　貸付年月日　昭和拾貳年四月貳拾日

右及通知候也

追テ裏面參照相成度

昭和拾貳年四月七日

預金部名古屋支部長㊞

一宮市長殿

（裏面記事省略）

第拾參號

借用證書

一金拾七萬五千圓也

右金額ヲ本日預金部ヨリ左記條件ヲ以テ借用仕候就而借入條件ヲ堅ク遵守ノ上元利金ハ期日ニ相違無支拂可致候也

追而本資金ニ關シ預金部ヨリ隨時調査ヲ受ケ又ハ報告ヲ徴セラルルモ何等異議無之ハ勿論本資金ハ速ニ資金供給ノ目的ノタメニ使用致スヘク萬一右目的以外ニ之ヲ使用シ又ハ借入後長期ニ亘リ使用セサルカ如キコトアル場合ハ直ニ繰上償還ヲ命セラルルモ異存無之候尙本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證劵ニ引換可申候

記

一、資金ノ用途　水道布設事業費

一、利率　年參分貳厘

一、元利金支拂方法及時期　別紙償還年次表ノ通償還スルモノトス

借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿チサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス

一、元利金支拂ノ場所　日本銀行愛知縣一宮代理店

昭和拾貳年四月貳拾日

借受人　愛知縣一宮市長　森林右エ門㊞

大藏大臣　結城豐太郎殿

償還年次表

（年利三分二厘）

年度	元利支拂期日	未償還元金 圓	償還元金 圓	利子 圓	合計 圓
昭和十二年度	八月一日	一七五、〇〇〇・〇〇	—	一、五九三・三七	一、五九三・三七
	二月一日	一七五、〇〇〇・〇〇	—	二、八〇〇・〇〇	二、八〇〇・〇〇
同　十三年度	八月一日	一七五、〇〇〇・〇〇	—	二、八〇〇・〇〇	二、八〇〇・〇〇
	二月一日	一七五、〇〇〇・〇〇	—	二、八〇〇・〇〇	二、八〇〇・〇〇
同　十四年度	八月一日	一七〇、四〇九・四三	四、五九〇・五七	二、八〇〇・〇〇	七、三九〇・五七
	二月一日	一六五、七四五・四一	四、六六四・〇二	二、七二六・五五	七、三九〇・五七
同　十五年度	八月一日	一六一、〇〇六・七六	四、七三八・六五	二、六五一・九二	七、三九〇・五七
	二月一日	一五六、一九二・二九	四、八一四・四七	二、五七六・一〇	七、三九〇・五七
同　十六年度	八月一日	一五一、三〇〇・七九	四、八九一・五〇	二、四九九・〇七	七、三九〇・五七
	二月一日	一四六、三三一・〇三	四、九六九・七六	二、四二〇・八一	七、三九〇・五七
同　十七年度	八月一日	一四一、二八一・七五	五、〇四九・二八	二、三四一・二九	七、三九〇・五七
	二月一日	一三六、一五一・六九	五、一三〇・〇六	二、二六〇・五一	七、三九〇・五七
同　十八年度	八月一日	一三〇、九三九・五四	五、二一二・一五	二、一七八・四二	七、三九〇・五七
	二月一日	一二五、六四四・〇〇	五、二九五・五四	二、〇九五・〇三	七、三九〇・五七

		圓	圓	圓	圓
昭和十九年度	八月一日	一三〇、二六三・七三	五、三八〇・二七	二、〇一〇・三〇	七、三九〇・五七
	二月一日	一一四、七九七・三八	五、四六六・三五	一、九二四・二二	七、三九〇・五七
同　二十年度	八月一日	一〇九、二四三・五七	五、五五三・八一	一、八三六・七六	七、三九〇・五七
	二月一日	一〇三、六〇〇・九〇	五、六四二・六七	一、七四七・九〇	七、三九〇・五七
同　二十一年度	八月一日	九七、八六七・九四	五、七三二・九六	一、六五七・六一	七、三九〇・五七
	二月一日	九二、〇四三・二六	五、八二四・六八	一、五六五・八九	七、三九〇・五七
同　二十二年度	八月一日	八六、一二五・三八	五、九一七・八八	一、四七二・六九	七、三九〇・五七
	二月一日	八〇、一一二・八一	六、〇一二・五七	一、三七八・〇〇	七、三九〇・五七
同　二十三年度	八月一日	七四、〇〇四・〇四	六、一〇八・七七	一、二八一・八〇	七、三九〇・五七
	二月一日	六七、七九七・五三	六、二〇六・五一	一、一八四・〇六	七、三九〇・五七
同　二十四年度	八月一日	六一、四九一・七二	六、三〇五・八一	一、〇八四・七六	七、三九〇・五七
	二月一日	五五、〇八五・〇二	六、四〇六・七〇	九八三・八七	七、三九〇・五七
同　二十五年度	八月一日	四八、五七五・八一	六、五〇九・一二	八八一・三六	七、三九〇・五七
	二月一日	四一、九六二・四五	六、六一三・三六	七七七・二一	七、三九〇・五七
同　二十六年度	八月一日	三五、二四三・二八	六、七一九・一七	六七一・四〇	七、三九〇・五七
	二月一日	二八、四一六・六〇	六、八二六・六八	五六三・八九	七、三九〇・五七
同　二十七年度	八月一日	二一、四八〇・六九	六、九三五・九一	四五四・六六	七、三九〇・五七
	二月一日	一四、四三三・八一	七、〇四六・八八	三四三・六九	七、三九〇・五七
同　二十八年度	八月一日	七、二七四・一八	七、一五九・六三	二三〇・九四	七、三九〇・五七
	二月一日	—	七、二七四・一八	一一六・三九	七、三九〇・五七
合計		—	一七五、〇〇〇・〇〇	五六、七一〇・四七	二三一、七一〇・四七

二、公債發行並借替償還

本節の冒頭に於て記述せる如く水道布設資金は公債發行に依り調達をなすこととし之が水道公債條例を設定し昭和九年度起債額の內四六一、〇〇〇圓の債券發行に關し藤本ビルブローカー證券株式會社に對し引受方を折衝の結果協議調ひたるを以て昭和十年三月六日債券發行の件稟請同年四月二十二日承認を得るところとなりたり仍て直に同社と契約を了し借入るることを得たり然るに其の後金融界の情勢に依り之を普通貸借に變更するを有利と認め翌十一年九月一日借替償還をなせり左に之が關係文書を記すへし。

庶第一一四一號

昭和十年三月六日

愛知縣一宮市長　森　林右エ門　印

內務大臣　後藤文夫殿
大藏大臣　高橋是清殿

債券發行承認ノ件稟請

本市債左記要項ニ依リ債券發行致度候條御承認相成度此段及稟請候也

發行要項

一、發行總額　金四拾六萬壹千圓也
二、發行價格　額面百圓ニ付百圓
三、利率　年四分參厘
四、最終利廻　年四分參厘參毛參絲
五、發行手數料　額面百圓ニ付金四拾五錢
六、發行豫定期日　昭和十年四月二十五日

七、引　受　先　　藤本ビルブローカー證券株式會社
八、引受先トノ契約書寫　　別紙ノ通リ
九、起債竝ニ償還方法　　別紙ノ通リ
十、起債許可年月日及番號　　昭和九年九月十日　内務省愛地第四六號

（別紙省略）

地第六五一號

昭和十年四月二十二日

愛知縣總務部長印

一宮市長殿

債券發行承認ノ件

客月六日付庶第一一四一號ヲ以テ稟請ニ係ル標記ノ件債券ハ現金ト引換ニ交付スルモノト認メ本月十三日付ヲ以テ承認相成候條御了知相成度

一宮市水道公債條例

昭和九年九月二十六日　條例第一號
昭和十年三月二十九日　條例第二號改正
昭和十年三月二十九日　條例第三號改正

第一條　本公債ハ水道布設費ニ充當スル爲之ヲ發行スルモノトス

第二條　本公債ノ總額ハ百五拾萬圓以内トシ昭和九年度ニ五拾八萬圓昭和十年度ニ五拾七萬圓昭和十一年度ニ參拾五萬圓ヲ發行スルモノトス但シ毎年度ノ起債額ハ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ起債年度間ニ於テ繰下ケ借入ヲナスコトヲ得

第三條　本公債ハ銀行其ノ他ノ引受ケニ依リ發行ス但シ公募スルコトアルヘシ前項但シ書ニ依ル場合ニ於テ募集上必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第四條　本公債ノ發行價格ハ額面壹百圓ニ付壹百圓トス

第五條　本公債ニ對シテ發行スル證書ハ無記名利札附トシ債券ノ種類及其ノ形式ハ市長之ヲ定ム

第六條　本公債ノ利率ハ壹箇年百分ノ五以内トシ毎年三月九月ノ二回ニ前六箇月分ヲ支拂フモノトス但シ公債發行ノ月ニ在リテハ證書發行ノ翌日ヨリ償還ノ月ニ在リテハ支拂ノ日迄日割ヲ以テ利子ヲ支拂フモノトス

第七條　本公債ノ元金ハ昭和十三年度迄之ヲ据置キ昭和十四年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル十五箇年度間ニ毎年三月九月ノ二回ニ抽籤ノ方法ニ依リ別紙償還年次表ノ定額ヲ償還スルモノトス

募集金額減少シタルトキハ前項年割償還額ヲ減少ス

市財政ノ都合ニ依リ据置期間中ト雖モ繰上償還ヲ爲シ若クハ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトアルヘシ

第八條　本公債ノ元金及利子ハ水道經濟ニ屬スル收入及市一般歲入ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス

第九條　本公債ノ元利金ハ證書又ハ利札引換ニ支拂フモノトス

第十條　本公債證書若ハ利札水火災等ニ依リ消滅シタルトキハ市長ニ屆出代證書若ハ代利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ市長ハ其ノ消滅ノ證跡明確ナリト認ムルトキハ直ニ代證書又ハ代利札ヲ交付スヘシ

第十一條　本公債證書又ハ利札ヲ紛失シタルトキハ其ノ旨市長ニ屆出ツヘシ其ノ發見ノトキ亦同シ

前項紛失ノ屆出アリタルトキハ之ヲ公告シ滿壹箇年ヲ經テ代證書又ハ代利札ヲ交付ス但シ故障ノ申立アリタルトキハ裁判所ノ確定判決アルニアラサレハ交付セス

第十二條　本公債又ハ利札ヲ汚染毀損シタルトキハ代證書又ハ代利札ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ眞僞判別シ難キモノハ紛失證書ノ例ニ準シ汚染毀損ノ證跡明確ナルモノハ直ニ代證書又ハ代利札ヲ交付ス

第十三條　代證書又ハ代利札ノ交付ニ關スル一切ノ費用ハ請求者ノ負擔トス

第十四條　第十條乃至第十二條ノ場合ニ於テハ代證書又ハ代利札ノ交付ヲ了スル迄之カ元利金ノ支拂ヲ停止ス

第十五條　代證書又ハ代利札ヲ交付シタルトキハ前ノ證書又ハ利札ハ無効トス

第十六條　本公債ノ元金ハ其ノ償還期日以後滿十箇年利子ハ其ノ支拂期日以後滿五箇年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條　本公債ノ元金ヲ償還スル場合ニ於テ其ノ證書ニ附屬スル利札中不足スルモノアルトキハ之ニ相當スル金額ヲ元金ノ内ヨリ控除ス但シ既ニ利子支拂期ノ開始シタル利札ニ付テハ此ノ限リニ在ラス

前項ノ利札所持人ハ後日其ノ利札ヲ提出シテ控除金額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

第十八條　本公債ハ證書發行ノ方法ニ依ラス大藏省預金部其ノ他ヨリ借入ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル元金償還ノ方法ハ第七條ニ定ムル別紙償還年次表ノ範圍ニ於テ貸主ト協定スルモノトス

前項借入ノ際本公債ニシテ未タ發行セサルモノアルトキハ募集豫定額中ヨリ前項借入金ヲ控除シタル殘額ヲ發行シ其ノ既ニ發行濟ナルトキハ第七條第三項ニ依リ借入金ト同額ノ償還ヲ行フモノトス

第十九條　經濟界ノ狀況其ノ他ノ事由ニ因リ必要アルトキハ五箇年以内ニ償還スヘキ年利五分以内ノ短期債ヲ起シ一時本公債ノ發行ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條ノ發行期限ハ其償還終期迄延長ス

前項ニ依リ起債シタル短期債ノ元金ハ本公債條例ニ依リ發行シタル金額ヲ以テ之ヲ支辨ス短期債ヲ起ス場合ト雖モ別表償還年次表ヲ延長シ又ハ定額ヲ繰越スコトヲ得ス

第二十條　本條例ノ施行方法ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十年三月二十九日條例第二號）

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（昭和十年三月二十九日條例第三號）

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（償還年次表省略）

債券ノ樣式

一、名　稱　一宮市第一回水道公債

二、額面種類枚數番號

五千圓券　四拾枚　自第壹號――至第四拾號
壹千圓券　貳百五拾貳枚　自第壹號――至第貳百五拾貳號
壹百圓券　九拾枚　自第壹號――至第九拾號
計　參百八拾貳枚

三、印刷紙質形狀注文ノ通

四、附着利札（公債壹枚ニ付）

昭和十年九月一日渡　壹枚（端數利札）
自昭和十一年三月一日
至同二十九年三月一日　渡　參拾七枚
計　參拾八枚

五、利札面金額　利率　年四分參厘

五千圓券一枚ニ付
昭和十年九月一日渡　端數利札金七拾五圓九拾五錢
自同十一年三月一日
至同二十九年三月一日　渡　一期毎ノ利札金壹百七圓五拾錢

壹千圓券一枚ニ付
昭和十年九月一日渡　端數利札金拾五圓拾九錢
自同十一年三月一日
至同二十九年三月一日　渡　一期毎ノ利札金貳拾壹圓五拾錢

壹百圓券一枚ニ付
昭和十年九月一日渡　端數利札金壹圓五拾壹錢
自同十一年三月一日
至同二十九年三月一日　渡　一期毎ノ利札金貳圓拾五錢

六、券面條項

本公債ノ要件

一、本公債證書ハ一宮市水道公債條例ニ依リ發行ス
二、本公債ノ發行總額ハ額面金額四拾六萬壹千圓也トス
三、本公債ノ利率ハ年四分參厘トス
四、本公債ハ無記名利札附ニシテ百圓券千圓券五千圓券ノ三種トス
五、本公債ノ利子ハ毎年參月壹日及九月壹日ニ於テ各其ノ日迄六ケ月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ一期ニ滿チサル端數利子ハ發行ノ際ニ在リテハ發行ノ日ヨリ償還ノ際ニ在リテハ償還ノ日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス
六、本公債ハ昭和十三年迄之ヲ据置キ昭和十四年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル期間内ニ別ニ定ムル償還額ヲ毎年參月壹日及九月壹日ノ貳回ニ抽籤ノ方法ニ依リ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ据置期間中ト雖モ繰上償還ヲ爲シ若ハ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトアルヘシ
七、當選シタル公債證書ノ種類記號及番號ハ之ヲ公告ス
八、本公債ノ元金及利子ハ藤本ビルブローカー證券株式會社本支店ニ於テ支拂フモノトス
九、本公債ノ消滅時效ハ元金ニアリテハ償還期日以後滿拾箇年、利子ニアリテハ支拂期日以後滿五箇年ヲ以テ完成ス

昭和十年四月二十五日

一宮市長　森　林右工門

第一回水道公債代理事務契約書

一宮市第一回水道公債

右元金支拂代理事務取扱ニ付一宮市ヲ甲トシ藤本ビルブローカー證券株式會社ヲ乙トシ左記ノ各項ヲ約定ス

一、甲ハ取扱ニ必要ナル債券見本及資金、書類用紙ヲ乙ニ豫託スルコト
二、甲ガ本市債ノ元金償還ヲ爲ス場合ハ其ノ償還セラルヘキ債券ノ記號番號表ヲ作成シ乙ニ交付スルコト
三、甲ハ本市債ノ元利金支拂資金ヲ其ノ期日ノ壹日前ニ乙ニ交付スルコト但シ當日休日ニ相當スルトキハ其ノ前日ニ交付スルコト
四、乙ガ本市債ノ元利支拂ノ際ハ債券、記號番號ノ正否及附屬利札ノ當否ヲ檢シ之ト引換ニ支拂ヲナス此ノ場合若シ利札ニ欠缺アルトキハ償還金額ヨリ其欠缺利札ニ該當スル金額ヲ控除シ其殘額ヲ支拂フコト
五、本市債償還ノ場合端數利子ヲ生シタルトキハ其金額ハ各券面別ニ甲ヨリ乙ニ通知スルコト
六、償還セラルヘキ債券ニ就テハ償還期日以後ノ利子ハ支拂ハサルコト
七、利札ニ對スル所得税資本利子税ハ利札金額ヨリ控除スルコト
八、所得税及資本利子税ヲ課セラレサル法人ヨリ利札支拂ノ請求アリタルトキハ所得税及資本利子税免除ニ關スル申告書貳通ヲ徵シ壹通ヲ甲ニ交付スルコト
九、紛失、滅失若ハ汚損ノ爲債券又ハ利札ノ交換或ハ交付ノ請求アリタルトキ及代リ債券又ハ利札ヲ交付シタルトキハ甲ニ於テ其ノ記號番號ヲ直チニ乙ニ通知スルコト
前項通知到着前ニ於テ乙ノ善意ニ依リ爲シタル支拂ニ因リ生シタル損害ハ總テ甲ノ負擔トス
十、乙ニ於テ元利金ヲ支拂ヒタルトキハ支拂濟ノ債券又ハ利札ニ消印ノ上支拂報告書ヲ添ヘ各月末毎ニ本支店分ヲ取纏メ名古屋市支店ヨリ翌月五日迄ニ必ズ甲ニ交付スルコト
十一、本公債ノ元金ニ付テハ償還期日後滿十ケ年利子ニ付テハ支拂期日後滿五ケ年ヲ經過シタルトキハ之カ請求ヲ爲スモ支拂ヲ爲サルコト

乙ニ於テ前項該當ニ對シ支拂ヲ爲シタルトキハ乙ノ負擔トス

十二、甲ハ十項支拂報告ヲ受ケ次第左ノ割合ヲ以テ取扱手數料ヲ乙ニ支拂フコト

イ、元金支拂ノ場合ハ其取扱額ノ千分ノ一

ロ、利札支拂ノ場合ハ其取扱額ノ千分ノ二

前項取扱手數料ハ第十項ノ支拂報告書ニ基キ之ヲ計算シ翌月甲ヨリ乙ニ支拂フモノトス

十三、甲ノ豫託スル支拂基金ハ無利息ナルコト

支拂基金不足シ乙ヨリ請求アリタルトキ甲ハ遲滯ナク回金ヲナスコト萬一乙ニ於テ立替拂ヲナシタル場合ハ立替日數ニ應ジ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ノ利息ヲ甲ヨリ乙ニ支拂フコト

甲ノ都合ニヨリ乙ノ保有スル支拂資金ヲ甲ニ回金スル必要生セシ場合ハ乙ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日迄ニ之ヲ送付スルコト、此ノ場合乙ニ於テ回金遲滯セル場合ハ其ノ日數ニ應シ百圓ニ付日歩參錢ノ利息ヲ乙ヨリ甲ニ支拂フモノトス

十四、代理事務取扱ニ要スル郵稅及其ノ他ノ實費ハ乙ニ於テ隨意支拂ヒ甲ノ豫託セル基金中ヨリ控除スルコト

十五、本市債ノ元利金支拂ノ取扱ハ乙ノ東京、大阪、名古屋ニ於ケル本支店ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ルモノタルコト

十六、最終ノ償還期限滿了後一ケ年ヲ經過シ尙元利金ノ支拂請求ナキモノニ對シテハ之ヲ甲ニ引繼キ乙ニ於テ取扱ヲ爲ササルコト

右契約ノ證トジテ本證書貳通ヲ作成シ各自署名捺印ノ上其ノ壹通ヲ保存ス

昭和十年四月二十五日

愛知縣一宮市長　森　林右工門　印

名古屋市西區御幸本町通六丁目十八番地

藤本ビルブローカー證券株式會社名古屋支店

支配人　坪内鍵一　印

償還年次表

（年利四分三厘）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計
昭和十年度	三月一日	圓 四六一、〇〇〇・〇〇	—	圓 七、〇〇二・九八	圓 七、〇〇二・九八
	九月一日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、九一一・五〇	九、九一一・五〇
同十一年度	九月一日	—	圓 四六一、〇〇〇・〇〇	九、九一一・五〇	四七〇、九一一・五〇
合計			四六一、〇〇〇・〇〇	二六、八二五・九八	四八七、八二五・九八

備考　一、本借入金ハ昭和十一年九月一日附繰上償還セリ

三、遞信省簡易保險積立金借入申込

昭和十年度起債額五七〇、〇〇〇圓の內四〇〇、〇〇〇圓に對しては昭和十一年六月五日遞信省簡易保險積立金の借入申込をなしたるところ同年八月三日名保第九二七〇號を以て措置期間を可成短縮することを條件として貸付內定の趣通達あり然れども本市の都合に依り之が借入を見合すこととなり同年八月十三日總第四二八八號を以て此の旨回答せり。

四、日本生命保險株式會社より借入

水道布設費資金は前述の如く大藏省預金部資金の借入及公債發行に依り之が調達する方針を以て旣に昭和九年度起債額五八〇、〇〇〇圓の全額借入を了したり然るに其の後金融界の情勢は一般低金利となり之が借入に對しても有利に轉回することとなりたるを以て曩に公債發行に依り借入れたる四六一、〇〇〇圓は普通貸借を意圖し昭和十年度起

債額五七〇、〇〇〇圓の內四〇〇、〇〇〇圓と共に下水道築造資金及其他資金の貸借關係にある日本生命保險株式會社より借入れることとせり猶翌十一年度起債額三五〇、〇〇〇圓の內一四五、〇〇〇圓も亦同社より借入れたるを以て借入總額は一、〇〇六、〇〇〇圓となれり左に之が借入に關する經過を記すべし。

昭和十一年八月十一日

愛知縣一宮市長 森 林右工門 ㊞

日本生命保險株式會社 御中

假契約ニ關スル件

本市水道布設事業資金借入ニ關シ別紙ノ通リ假契約書御送附申上候條可然御取計相成度御依賴申上候

假 契 約 書

今回一宮市ガ市債計金八拾六萬壹千圓ヲ日本生命保險株式會社ヨリ借入候ニ就テハ右假契約スルコト左ノ如シ

記

一金四拾六萬壹千圓也

費　　途　水道布設費借替資金

利　　率　年四分

借入豫定時期　昭和十一年八月末日

手 數 料　元金壹百圓ニ付金貳拾錢也

償還方法　昭和拾參年度迄据置昭和拾四年度ヨリ昭和貳拾八年度迄ニ半年賦不均等償還、但シ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ据置期間中ト雖モ繰上償還ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

繰上償還違約金元金壹百圓ニ付金五拾錢也

一金四拾萬圓也

費　　途　水道布設費

利　　率　年四分

借入豫定時期　昭和拾壹年八月末日

手 數 料　元金壹百圓ニ付金貳拾錢也

償還方法　昭和拾參年度迄据置昭和拾四年度ヨリ昭和貳拾八年度迄ニ半年賦元利均等償還

但シ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ据置期間中ト雖繰上償還ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

繰上償還違約金元金壹百圓ニ付金五拾錢也

一、此ノ契約書ハ市會ノ議決ヲ經タル上本契約ヲナスモノトス

右契約ノ證トシテ本證書差入候也

昭和十一年八月十日

一宮市長 森 林右工門 ㊞

参錢

引 受 書

今般御起債ノ貴市債左記ノ通リ御貸上方正ニ御引受仕候也

昭和拾壹年八月拾貳日

日本生命保險株式會社
財務係長　倉石治七郎㊞

一宮市長　森林右エ門殿

記

一、金參萬七千六百圓也　小學校建築費

期限　昭和十八年度
利率　年四分
手數料　百圓ニ付拾錢

二、金七千參百圓也　塵芥燒却所斜傾道設置費

期限　昭和十九年度
利率　年四分
手數料　百圓ニ付拾錢

三、金四拾六萬壹千圓也　水道布設費借替資金

期限　昭和二十八年度
利率　年四分
手數料　百圓ニ付貳拾錢

四、金四拾萬圓也　水道布設費

期限　昭和二十八年度
利率　年四分
手數料　百圓ニ付貳拾錢

以上四口共形式ハ從來ノ金錢借用證書ノ形式ニ準スル證書貸借トナスコト

但シ繰上償還違約金ハ元金壹百圓ニ付金五拾錢ノ割合トスルコト

取引豫定　昭和拾壹年八月末日

以上

金錢借用證書

金四拾六萬壹千圓也

右金額昭和九年貳月貳拾七日議案第拾號市會議決昭和九年九月拾日内務省愛地第四六號内務大藏兩大臣ノ更正許可ヲ經タル當市水道公債條例ニ基キ水道布設費借替ノ爲左記條項ノ通リヲ以テ正ニ借用候也

昭和拾壹年八月參拾壹日

愛知縣一宮市長　森林右エ門㊞

日本生命保險株式會社　御中

記

第一條　元金ノ償還期限ハ左ノ通リトス

償還金額	償還期日
金四百圓也	昭和拾四年九月末日
金四百圓也	昭和拾五年參月末日
金八百圓也	昭和拾五年九月末日
金八百圓也	昭和拾六年參月末日

金壹千圓也　昭和拾六年九月末日
金壹千圓也　昭和拾七年參月末日
金壹千圓也　昭和拾七年九月末日
金壹千圓也　昭和拾八年參月末日
金壹千圓也　昭和拾八年九月末日
金壹千圓也　昭和拾九年參月末日
金參千圓也　昭和拾九年九月末日
金參千圓也　昭和貳拾年參月末日
金壹萬八千圓也　昭和貳拾年九月末日
金壹萬八千圓也　昭和貳拾壹年參月末日
金壹萬八千八百圓也　昭和貳拾壹年九月末日
金壹萬八千八百圓也　昭和貳拾貳年參月末日
金貳萬貳千參百圓也　昭和貳拾貳年九月末日
金貳萬貳千參百圓也　昭和貳拾參年參月末日
金貳萬四千六百圓也　昭和貳拾參年九月末日
金貳萬四千六百圓也　昭和貳拾四年參月末日
金貳萬四千六百圓也　昭和貳拾四年九月末日
金貳萬四千六百圓也　昭和貳拾五年參月末日
金貳萬七千圓也　昭和貳拾五年九月末日
金貳萬七千圓也　昭和貳拾六年參月末日
金參萬貳千貳百圓也　昭和貳拾六年九月末日
金參萬貳千貳百圓也　昭和貳拾七年參月末日
金參萬六千五百圓也　昭和貳拾七年九月末日
金參萬六千五百圓也　昭和貳拾八年參月末日
金壹萬九千參百圓也　昭和貳拾八年九月末日

金壹萬九千參百圓也　昭和貳拾九年參月末日

前項ノ期限前ニ於テ元金ノ全部又ハ壹部ヲ辨濟セントスルトキハ辨濟元金壹百圓ニ付金五拾錢ノ割合ニ依ル違約金ヲ支拂フモノトス

第二條　利息ハ元金壹百圓ニ付壹ケ年金四圓也ノ割合トシ現金授受ノ當日ヨリ辨濟當日迄ノ間毎年三月、九月ノ各末日ニ各其ノ當日迄ノ分ヲ支拂フモノトス、但シ六ケ月ニ滿タサルモノハ日割計算ニ依リ又元金辨濟ノ時ハ支拂期日ニ拘ハラス辨濟元金ト共ニ支拂フモノトス

第三條　前二條ノ支拂期日カ一般休日ニ該當スルトキハ其ノ前日ヲ以テ支拂期日トス

第四條　元金又ハ利息金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ遲滯金壹百圓ニ付壹日金四錢ノ割合ニ依ル遲延利息金ヲ支拂フモノトス

第五條　左記各號ノ壹ニ該當シタルトキハ本契約期限ノ利益ヲ失ヒ貴會社ノ請求ニ依リ何時ニテモ元金及利息金ヲ辨濟スヘク且第一條第二項ノ違約金ヲ支拂フモノトス

一、本契約條項ノ壹ニ違背シタルトキ

二、起債ノ手續ニ缺陷アルコトヲ發見シタルトキ

三、他ノ債務ノ爲メ强制執行又ハ債權保全行爲ヲ受ケタルトキ

第六條　本契約ニ依ル債務ノ履行ハ總テ貴會社ノ本店營業所ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第七條　本契約ニ關シ他日爭ヲ生シタルトキハ貴會社ノ住所ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ管轄裁判ト爲スコトニ豫メ同意ス

償還年次表

（年利四分）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計
		圓	圓	圓	圓
昭和十一年度	九月三十日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	一、五六一・八五	一、五六一・八五
	三月三十一日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、二二〇・〇〇	九、二二〇・〇〇
同　十二年度	九月三十日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、二二〇・〇〇	九、二二〇・〇〇
	三月三十一日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、二二〇・〇〇	九、二二〇・〇〇
同　十三年度	九月三十日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、二二〇・〇〇	九、二二〇・〇〇
	三月三十一日	四六一、〇〇〇・〇〇	—	九、二二〇・〇〇	九、二二〇・〇〇

		圓	圓	圓	圓
同　十四年度	九月三十日	四六〇、六〇〇・〇〇	四〇〇・〇〇	九、二三〇・〇〇	九、六三〇・〇〇
	三月三十一日	四六〇、二〇〇・〇〇	四〇〇・〇〇	九、二二一・〇〇	九、六二一・〇〇
同　十五年度	九月三十日	四五九、四〇〇・〇〇	八〇〇・〇〇	九、二〇四・〇〇	一〇、〇〇四・〇〇
	三月三十一日	四五八、六〇〇・〇〇	八〇〇・〇〇	九、一八八・〇〇	九、九八八・〇〇
同　十六年度	九月三十日	四五七、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、一七二・〇〇	一〇、一七二・〇〇
	三月三十一日	四五六、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、一五二・〇〇	一〇、一五二・〇〇
同　十七年度	九月三十日	四五五、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、一三三・〇〇	一〇、一三三・〇〇
	三月三十一日	四五四、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、一一二・〇〇	一〇、一一二・〇〇
同　十八年度	九月三十日	四五三、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、〇九二・〇〇	一〇、〇九二・〇〇
	三月三十一日	四五二、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	九、〇七二・〇〇	一〇、〇七二・〇〇
同　十九年度	九月三十日	四四九、六〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	九、〇五二・〇〇	一二、〇五二・〇〇
	三月三十一日	四四六、六〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	八、九九二・〇〇	一一、九九二・〇〇
同　二十年度	九月三十日	四二八、六〇〇・〇〇	一八、〇〇〇・〇〇	八、九三二・〇〇	二六、九三二・〇〇
	三月三十一日	四一〇、六〇〇・〇〇	一八、〇〇〇・〇〇	八、五七二・〇〇	二六、五七二・〇〇
同　二十一年度	九月三十日	三九一、八〇〇・〇〇	一八、八〇〇・〇〇	八、二一二・〇〇	二七、〇一二・〇〇
	三月三十一日	三七三、〇〇〇・〇〇	一八、八〇〇・〇〇	七、八三六・〇〇	二六、六三六・〇〇
同　二十二年度	九月三十日	三五〇、七〇〇・〇〇	二二、三〇〇・〇〇	七、四六〇・〇〇	二九、七六〇・〇〇
	三月三十一日	三二八、四〇〇・〇〇	二二、三〇〇・〇〇	七、〇一四・〇〇	二九、三一四・〇〇
同　二十三年度	九月三十日	三〇三、八〇〇・〇〇	二四、六〇〇・〇〇	六、五六八・〇〇	三一、一六八・〇〇
	三月三十一日	二七九、二〇〇・〇〇	二四、六〇〇・〇〇	六、〇七六・〇〇	三〇、六七六・〇〇
同　二十四年度	九月三十日	二五四、六〇〇・〇〇	二四、六〇〇・〇〇	五、五八四・〇〇	三〇、一八四・〇〇
	三月三十一日	二三〇、〇〇〇・〇〇	二四、六〇〇・〇〇	五、〇九二・〇〇	二九、六九二・〇〇
同　二十五年度	九月三十日	二〇三、〇〇〇・〇〇	二七、〇〇〇・〇〇	四、六〇〇・〇〇	三一、六〇〇・〇〇
	三月三十一日	一七六、〇〇〇・〇〇	二七、〇〇〇・〇〇	四、〇六〇・〇〇	三一、〇六〇・〇〇
同　二十六年度	九月三十日	一四三、八〇〇・〇〇	三二、二〇〇・〇〇	三、五二〇・〇〇	三五、七二〇・〇〇
	三月三十一日	一一一、六〇〇・〇〇	三二、二〇〇・〇〇	二、八七六・〇〇	三五、〇七六・〇〇
同　二十七年度	九月三十日	七五、一〇〇・〇〇	三六、五〇〇・〇〇	二、二三二・〇〇	三八、七三二・〇〇
	三月三十一日	三八、六〇〇・〇〇	三六、五〇〇・〇〇	一、五〇二・〇〇	三八、〇〇二・〇〇
同　二十八年度	九月三十日	一九、三〇〇・〇〇	一九、三〇〇・〇〇	七七二・〇〇	二〇、〇七二・〇〇
	三月三十一日	—	一九、三〇〇・〇〇	三八六・〇〇	一九、六八六・〇〇
計		—	四六一、〇〇〇・〇〇	二四八、五五五・八五	七〇九、五五五・八五

金錢借用證書

金四拾萬圓也

右金額昭和九年貳月貳拾七日議案第拾號市會議決昭和九年九月拾日内務省愛地第四六號内務、大藏兩大臣ノ更正許可ヲ經タル當市水道公債條例ニ基キ水道布設費ニ充當ノ爲左記條項ノ通リヲ以テ正ニ借用候也

昭和拾壹年八月參拾壹日

愛知縣一宮市長　森　林右工門　印

日本生命保險株式會社　御中

記

第一條　元金ノ償還期限ハ左ノ通リトス

償還金額	償還期日
金九千八百五拾九圓九拾七錢也	昭和拾四年九月末日
金壹萬五拾七圓拾七錢也	昭和拾五年參月末日
金壹萬貳百五拾八圓參拾壹錢也	昭和拾五年九月末日
金壹萬四百六拾參圓四拾八錢也	昭和拾六年參月末日

金壹萬六百七拾貳圓七拾五錢也	昭和拾六年九月末日
金壹萬八百八拾六圓貳拾錢也	昭和拾七年參月末日
金壹萬壹千百參圓九拾參錢也	昭和拾七年九月末日
金壹萬壹千參百貳拾六圓壹錢也	昭和拾八年參月末日
金壹萬壹千五百五拾貳圓五拾參錢也	昭和拾八年九月末日
金壹萬壹千七百八拾參圓五拾八錢也	昭和拾九年參月末日
金壹萬貳千拾九圓貳拾五錢也	昭和拾九年九月末日
金壹萬貳千貳百五拾九圓六拾參錢也	昭和貳拾年參月末日
金壹萬貳千五百四圓八拾貳錢也	昭和貳拾年九月末日
金壹萬貳千七百五拾四圓九拾貳錢也	昭和貳拾壹年參月末日
金壹萬參千拾圓貳錢也	昭和貳拾壹年九月末日
金壹萬參千貳百七拾圓貳拾貳錢也	昭和貳拾貳年參月末日
金壹萬參千五百參拾五圓六拾貳錢也	昭和貳拾貳年九月末日
金壹萬參千八百六圓參拾四錢也	昭和貳拾參年參月末日
金壹萬四千八拾貳圓四拾六錢也	昭和貳拾參年九月末日
金壹萬四千參百六拾四圓四拾壹錢也	昭和貳拾四年參月末日
金壹萬四千六百五拾壹圓四拾錢也	昭和貳拾四年九月末日
金壹萬四千九百四拾四圓四拾貳錢也	昭和貳拾五年參月末日
金壹萬五千貳百四拾參圓參拾壹錢也	昭和貳拾五年九月末日
金壹萬五千五百四拾八圓八拾壹錢也	昭和貳拾六年參月末日
金壹萬五千八百五拾九圓四拾四錢也	昭和貳拾六年九月末日
金壹萬六千百七拾六圓參拾貳錢也	昭和貳拾七年參月末日
金壹萬六千四百九拾九圓八拾五錢也	昭和貳拾七年九月末日
金壹萬六千八百貳拾九圓八拾五錢也	昭和貳拾八年參月末日
金壹萬七千百六拾六圓四拾四錢也	昭和貳拾八年九月末日
金壹萬七千五百九圓七拾七錢也	昭和貳拾九年參月末日

前項ノ期限前ニ於テ元金ノ全部又ハ一部ヲ辨濟セントスルトキハ辨濟元金壹百圓ニ付金五拾錢ノ割合ニ依ル違約金ヲ支拂フモノトス

第二條　利息ハ元金壹百圓ニ付壹ヶ年金四圓也ノ割合トシ元金授受ノ當日ヨリ辨濟當日迄ノ間毎年三月九月ノ各末日ニ各其ノ當日迄ノ分ヲ支拂フモノトス但シ六ヶ月ニ滿チサルモノハ日割計算ニ依リ又元金辨濟ノ時ハ支拂期日ニ拘ハラス辨濟元金ト共ニ支拂フモノトス

第三條　前二條ノ支拂期日カ一般休日ニ該當スルトキハ其ノ前日ヲ以テ支拂期日トス

第四條　元金又ハ利息金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ遲滯金壹百圓ニ付壹日金四錢ノ割合ニ依ル遲延利息金ヲ支拂フモノトス

第五條　左記各號ノ壹ニ該當シタルトキハ本契約期限ノ利益ヲ失ヒ貴會社ノ請求ニ依リ何時ニテモ元金及利息金ヲ辨濟スヘク且第一條第二條ノ違約金ヲ支拂フモノトス

一、本契約條項ノ壹ニ違背シタルトキ
二、起債ノ手續ニ缺陷アルコトヲ發見シタルトキ
三、他ノ債務ノ爲强制執行又ハ債權保全行爲ヲ受ケタルトキ

第六條　本契約ニ依ル債務ノ履行ハ總テ貴會社ノ本店營業所ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第七條　本契約ニ關シ他日爭ヲ生シタルトキハ貴會社ノ住所ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スコトニ豫メ同意ス

償還年次表

（年利四分）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計
昭和十一年度	九月三十日	圓 四〇〇、〇〇〇・〇〇	圓 —	圓 一、三五五・一九	圓 一、三五五・一九
	三月三十一日	四〇〇、〇〇〇・〇〇	—	八、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇
同　十二年度	九月三十日	四〇〇、〇〇〇・〇〇	—	八、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇
	三月三十一日	四〇〇、〇〇〇・〇〇	—	八、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇
同　十三年度	九月三十日	四〇〇、〇〇〇・〇〇	—	八、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇
	三月三十一日	四〇〇、〇〇〇・〇〇	—	八、〇〇〇・〇〇	八、〇〇〇・〇〇

同十四年度	九月三十日	三九〇、一四〇・〇三圓	九、八五九・九七圓	八、〇〇〇・〇〇圓	一七、八五九・九七圓
	三月三十一日	三八〇、〇八二・八六	一〇、〇五七・一七	七、八〇二・八〇	一七、八五九・九七
同十五年度	九月三十日	三六九、八二四・五五	一〇、二五八・三一	七、六〇一・六六	一七、八五九・九七
	三月三十一日	三五九、三六一・〇七	一〇、四六三・四八	七、三九六・四九	一七、八五九・九七
同十六年度	九月三十日	三四八、六八八・三三	一〇、六七二・七五	七、一八七・二二	一七、八五九・九七
	三月三十一日	三三七、八〇二・一二	一〇、八八六・二〇	六、九七三・七七	一七、八五九・九七
同十七年度	九月三十日	三二六、六九八・一九	一一、一〇三・九三	六、七五六・〇四	一七、八五九・九七
	三月三十一日	三一五、三七二・一八	一一、三二六・〇一	六、五三三・九六	一七、八五九・九七
同十八年度	九月三十日	三〇三、八一九・六五	一一、五五二・五三	六、三〇七・四四	一七、八五九・九七
	三月三十一日	二九二、〇三六・〇七	一一、七八三・五八	六、〇七六・三九	一七、八五九・九七
同十九年度	九月三十日	二八〇、〇一六・八二	一二、〇一九・二五	五、八四〇・七二	一七、八五九・九七
	三月三十一日	二六七、七五七・一九	一二、二五九・六三	五、六〇〇・三四	一七、八五九・九七
同二十年度	九月三十日	二五五、二五二・三七	一二、五〇四・八二	五、三五五・一五	一七、八五九・九七
	三月三十一日	二四二、四九七・四五	一二、七五四・九二	五、一〇五・〇五	一七、八五九・九七
同二十一年度	九月三十日	二二九、四八七・四三	一三、〇一〇・〇二	四、八四九・九五	一七、八五九・九七
	三月三十一日	二一六、二一七・二一	一三、二七〇・二二	四、五八九・七五	一七、八五九・九七
同二十二年度	九月三十日	二〇二、六八一・五九	一三、五三五・六二	四、三二四・三五	一七、八五九・九七
	三月三十一日	一八八、八七五・二五	一三、八〇六・三四	四、〇五三・六三	一七、八五九・九七
同二十三年度	九月三十日	一七四、七九二・七九	一四、〇八二・四六	三、七七七・五一	一七、八五九・九七
	三月三十一日	一六〇、四二八・六八	一四、三六四・一一	三、四九五・八六	一七、八五九・九七
同二十四年度	九月三十日	一四五、七七七・二八	一四、六五一・四〇	三、二〇八・五七	一七、八五九・九七
	三月三十一日	一三〇、八三三・八六	一四、九四四・四二	二、九一五・五五	一七、八五九・九七
同二十五年度	九月三十日	一一五、五八九・五五	一五、二四三・三一	二、六一六・六六	一七、八五九・九七
	三月三十一日	一〇〇、〇四一・三七	一五、五四八・一八	二、三一一・七九	一七、八五九・九七

同二十六年度	九月三十日	八四、一八二・二三	一五、八五九・一四	二、〇〇〇・八三	一七、八五九・九七
	三月三十一日	六八、〇〇五・九一	一六、一七六・三三	一、六八三・六五	一七、八五九・九七
同二十七年度	九月三十日	五一、五〇六・〇六	一六、四九九・八五	一、三六〇・一二	一七、八五九・九七
	三月三十一日	三四、六七六・二一	一六、八二九・八五	一、〇三〇・一二	一七、八五九・九七
同二十八年度	九月三十日	一七、五〇九・七七	一七、一六六・四四	六九三・五三	一七、八五九・九七
	三月三十一日	—	一七、五〇九・七七	三五〇・二〇	一七、八五九・九七
計		—	四〇〇、〇〇〇・〇〇	一七七、一五四・二九	五七七、一五四・二九

念書

今回左記水道布設事業資金拾四萬五千圓也貴會社ヨリ借入可申候ニ付テハ右假契約ノ證トシテ本覺書差入候也

昭和十二年四月二十一日

一宮市長　森　林右エ門㊞

日本生命保險株式會社　御中

記

一金拾四萬五千圓也

費途　水道布設事業費

利率　年四分

手數料　元金百圓ニ付金九拾六錢

償還方法　昭和十四年三月三十一日迄据置昭和二十九年三月三十一日迄ニ半年賦元利不均等償還

繰上償還違約金元金百圓ニ付金五拾錢

借入年月日　昭和十二年五月十日

（添付書類省略）　　以上

金錢借用證書

金拾四萬五千圓也

右金額昭和九年貳月貳拾七日議案第拾號市會議決昭和九年九月拾日內務省愛地第四六號內務、大藏兩大臣ノ更正許可ヲ經タル當市水道公債條例ニ基キ水道布設費ニ充當ノ爲左記條項ノ通リヲ以テ正ニ借用候也

昭和拾貳年五月拾日

愛知縣一宮市長　森　林右エ門 印

日本生命保險株式會社　御中

記

第一條　元金ノ償還期限ハ左ノ通リトス

償還金額	償還期日
金貳百圓也	昭和拾四年九月末日
金貳百圓也	昭和拾五年參月末日
金貳百圓也	昭和拾五年九月末日
金貳百圓也	昭和拾六年參月末日
金參百圓也	昭和拾六年九月末日
金參百圓也	昭和拾七年參月末日
金五百圓也	昭和拾七年九月末日
金五百圓也	昭和拾八年參月末日
金壹千圓也	昭和拾八年九月末日
金壹千圓也	昭和拾九年參月末日
金參千參百圓也	昭和拾九年九月末日
金參千參百圓也	昭和貳拾年參月末日
金參千圓也	昭和貳拾年九月末日
金參千圓也	昭和貳拾壹年參月末日
金壹千圓也	昭和貳拾壹年九月末日
金壹千圓也	昭和貳拾貳年參月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾貳年九月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾參年參月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾參年九月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾四年參月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾四年九月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾五年參月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾五年九月末日
金壹萬參千圓也	昭和貳拾六年參月末日
金五百圓也	昭和貳拾六年九月末日
金五百圓也	昭和貳拾七年參月末日
金五百圓也	昭和貳拾七年九月末日
金五百圓也	昭和貳拾八年參月末日
金壹萬圓也	昭和貳拾八年九月末日
金壹萬圓也	昭和貳拾九年參月末日

前項ノ期限前ニ於テ元金ノ全部又ハ一部ヲ辨濟セントスルトキハ辨濟元金壹百圓ニ付金五拾錢ノ割合ニ依ル違約金ヲ支拂フモノトス

第二條　利息ハ元金壹百圓ニ付壹ケ年金四圓也ノ割合トシ元金授受ノ當日ヨリ辨濟當日迄ノ間毎年參月、九月ノ各末日ニ各其當日迄ノ分ヲ支拂フモノトス但シ六ケ月ニ滿チサルモノハ日割計算ニ依リ又元金辨濟ノ時ハ支拂期日ニ拘ハラス辨濟元金ト元ニ支拂

フモノトス

第三條　前二條ノ支拂期日カ一般休日ニ該當スルトキハ其前日ヲ以テ支拂期日トス

第四條　元金又ハ利息金ノ支拂ヲ遲延シタルトキハ遲滯金壹百圓ニ付壹日金四錢ノ割ニ依ル遲延利息金ヲ支拂フモノトス

第五條　左記各號ノ壹ニ該當シタルトキハ本契約期限ノ利益ヲ失ヒ貴會社ノ請求ニ依リ何時ニテモ元金及利息金ヲ辨濟スヘク且第一條第二項ノ違約金ヲ支拂フモノトス

一、本契約條項ノ壹ニ違背シタルトキ

二、起債ノ手續ニ缺陷アルコトヲ發見シタルトキ

三、他ノ債務ノ爲メ强制執行又ハ債權保全行爲ヲ受ケタルトキ

第六條　本契約ニ依ル債務ノ履行ハ總テ貴會社ノ本店營業所ニ於テ之ヲ爲スモノトス

第七條　本契約ニ關シ他日爭ヲ生シタルトキハ貴會社ノ住所ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ管轄裁判所ト爲スコトニ豫メ同意ス

償還年次表

（年利四分）

年度	元利支拂期日	未償還元金	償還元金	利子	合計
昭和十二年度	九月三十日	圓 一四五、〇〇〇・〇〇	圓 —	圓 二、二三八・二一	圓 二、二三八・二一
	三月三十一日	一四五、〇〇〇・〇〇	—	二、九〇〇・〇〇	二、九〇〇・〇〇
同　十三年度	九月三十日	一四五、〇〇〇・〇〇	—	二、九〇〇・〇〇	二、九〇〇・〇〇
	三月三十一日	一四五、〇〇〇・〇〇	—	二、九〇〇・〇〇	二、九〇〇・〇〇
同　十四年度	九月三十日	一四四、八〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二、九〇〇・〇〇	三、一〇〇・〇〇
	三月三十一日	一四四、六〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二、八九六・〇〇	三、〇九六・〇〇
同　十五年度	九月三十日	一四四、四〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二、八九二・〇〇	三、〇九二・〇〇
	三月三十一日	一四四、二〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	二、八八八・〇〇	三、〇八八・〇〇
同　十六年度	九月三十日	一四三、九〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	二、八八四・〇〇	三、一八四・〇〇
	三月三十一日	一四三、六〇〇・〇〇	三〇〇・〇〇	二、八七八・〇〇	三、一七八・〇〇
同　十七年度	九月三十日	一四三、一〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	二、八七二・〇〇	三、三七二・〇〇
	三月三十一日	一四二、六〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	二、八六二・〇〇	三、三六二・〇〇
同　十八年度	九月三十日	一四一、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	二、八五二・〇〇	三、八五二・〇〇
	三月三十一日	一四〇、六〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	二、八三二・〇〇	三、八三二・〇〇
同　十九年度	九月三十日	一三七、三〇〇・〇〇	三、三〇〇・〇〇	二、八一二・〇〇	六、一一二・〇〇
	三月三十一日	一三四、〇〇〇・〇〇	三、三〇〇・〇〇	二、七四六・〇〇	六、〇四六・〇〇
同　二十年度	九月三十日	一三一、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	二、六八〇・〇〇	五、六八〇・〇〇
	三月三十一日	一二八、〇〇〇・〇〇	三、〇〇〇・〇〇	二、六二〇・〇〇	五、六二〇・〇〇
同　二十一年度	九月三十日	一二七、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	二、五六〇・〇〇	三、五六〇・〇〇
	三月三十一日	一二六、〇〇〇・〇〇	一、〇〇〇・〇〇	二、五四〇・〇〇	三、五四〇・〇〇
同　二十二年度	九月三十日	一一三、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	二、五二〇・〇〇	一五、五二〇・〇〇
	三月三十一日	一〇〇、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	二、二六〇・〇〇	一五、二六〇・〇〇
同　二十三年度	九月三十日	八七、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	二、〇〇〇・〇〇	一五、〇〇〇・〇〇
	三月三十一日	七四、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一、七四〇・〇〇	一四、七四〇・〇〇
同　二十四年度	九月三十日	六一、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一、四八〇・〇〇	一四、四八〇・〇〇
	三月三十一日	四八、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	一、二二〇・〇〇	一四、二二〇・〇〇
同　二十五年度	九月三十日	三五、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	九六〇・〇〇	一三、九六〇・〇〇
	三月三十一日	二二、〇〇〇・〇〇	一三、〇〇〇・〇〇	七〇〇・〇〇	一三、七〇〇・〇〇
同　二十六年度	九月三十日	二一、五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	四四〇・〇〇	九四〇・〇〇
	三月三十一日	二一、〇〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	四三〇・〇〇	九三〇・〇〇
同　二十七年度	九月三十日	二〇、五〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	四二〇・〇〇	九二〇・〇〇
	三月三十一日	二〇、〇〇〇・〇〇	五〇〇・〇〇	四一〇・〇〇	九一〇・〇〇
同　二十八年度	九月三十日	一〇、〇〇〇・〇〇	一〇、〇〇〇・〇〇	四〇〇・〇〇	一〇、四〇〇・〇〇
	三月三十一日	—	一〇、〇〇〇・〇〇	二〇〇・〇〇	一〇、二〇〇・〇〇
計		—	一四五、〇〇〇・〇〇	七〇、八八二・二一	二一五、八八二・二一

第七章　國庫及縣費補助

第一節　國庫補助

昭和八年十月六日附水道布設許可申請をなし同月十四日別途國庫補助申請を內務大臣に提出せり、然るに政府に於ける緊縮方針の爲既に昭和九年度豫算に於ては是等事業に對する補助を廢止せられし際なるを以て本事業の前途に多大の危懼を感ずるに至れり、爰に於て財政上同樣苦衷に陷りたる全國二十五市町村相集り倶に之が復活の猛運動を起すこととなりたり、以下之が成果を得る迄の概略を記述せん。

一、國庫補助申請

六第八二〇號

一宮市水道布設國庫補助申請

本市ハ尾張平野ノ中央ニ位シ毛織工業ノ樞要地ニシテ附近町村ノ產額ト併セ本邦第一ノ毛織物產地トシテ名聲ヲ內外ニ博シ年ト共ニ殷盛ヲ極メ交通機關四通發達シ道路交通亦能ク啓ケ商取引ノ往來頗ル頻繁ナリ、近年毛織工業ノ振興ニ伴ヒ人口亦逐年增加シ現時人口四萬五千餘ヲ算ス既往年々人口ノ增加率ハ全國中屈指ノ高率ヲ示シ將來益發達セントスルノ狀勢ニアリ、サレバ市民ノ保健衞生ハ勿論產業ノ發達並ニ防火ノ施設ノ爲優良豐富ナル水ヲ要スルハ言ヲ俟タザルモノナリ

由來本市ノ飲料水並ニ工業用水ハ全部井水ニ俟ツモノニシテ其ノ大部分ハ褐色惡臭ヲ有シ或ハ混濁ヲナスアリ、甚シキニ至リテハ地層ノ關係上井戶ヲ掘鑿スルモ水ノ湧出セザル部分アリテ地方發展ヲ阻害スル甚シキモノアリ、剩ヘ近來下水工事ノ着々進行スルニ伴ヒ井水涸渇スルモノ多ク市民ハ衞生防火上更ニ驚異ヲ增シ水道ノ急施ヲ絕叫シテ歇マザル狀態ニアルヲ以テ今回水道布設ノ計畫ヲ確立シ其工事費總額金百五拾萬圓ヲ以テ昭和九年度ヨリ同十一年ニ至ル三箇年繼續事業トシテ施行ノ儀市會一致ノ議決ヲ經別途內務大臣ヘ水道布設認可申請仕候、然ルニ現下本市事業ノ主ナルモノニハ下水道築造費金百五拾萬圓都市計畫第一期街路事業費金貳百貳拾八萬五千圓其他國道十二號線改築費市負擔金四拾五萬五千餘圓等アリテ年々多額ノ支出ヲ要シ市稅賦課ノ現況ハ地租所得稅ノ附加稅ハ制限額ノ四割、國稅營業收益稅附加稅ハ三割三分ヲ超過シ縣稅營業稅及雜種稅ノ附加稅ハ殆ンド本稅額ト同一ニ近キ程度ニ課稅シ家屋稅附加稅ノ如キハ現在納稅人員一人當リ四拾四圓四拾壹錢餘ノ多額ニ上リ將來減少ノ見込ナク此ノ上財源ヲ市稅ニ需ムルハ到底負擔ニ堪ヘザル所ナルヲ以テ總事業ノ四分ノ一、金參拾七萬五千圓也別紙年度割ニ依リ國庫ノ補助ヲ仰ギ度事情御賢察ヲ賜リ願意御聽許相成度關係書類添付此段申請候

昭和八年十月十四日

愛知縣一宮市長　小島太左工門㊞

內務大臣　山本達雄殿

水道布設工事費國庫補助金年度割豫定表

一金百五拾萬圓也　水道布設工事費

一金參拾七萬五千圓也　此ノ四分ノ一　國庫補助申請額

內譯

金壹千圓也　（自昭和十年度／至昭和十一年度）　毎年度交附額
金貳萬圓也　（自昭和十二年度／至昭和二十九年度）　毎年度交附額
金壹萬參千圓也　昭和三十年度　交附額

工事期間

一、起工　昭和九年四月一日
一、竣工　昭和十二年三月三十一日

添付書類

一、議決書
(一)　第三八號一宮市水道布設目論見書（省略）
(二)　第三九號一宮市水道布設費繼續年期及支出方法（省略）
(三)　第四〇號起債方法償還年次表、起債償還一覽表（省略）
(四)　第四一號一宮市水道給水條例（省略）
(五)　第四二號一宮市水道布設費竝ニ維持費ノ收支ハ特別會計トスルノ件（省略）
二、水道布設工事費國庫補助年度割豫定表
三、水道布設費財政計畫表（省略）
四、水道事業收支概算書
(一)　各年度事業收入豫算關係書類（省略）
(二)　經常部各年度歲出豫定表（省略）

五、一宮市水道布設設計書
(一)　水道布設理由書（省略）
(二)　計畫說明書（省略）
(三)　工事方法書（省略）
(四)　工事費豫算書（省略）
(五)　一位代價表（省略）
(六)　一位代價內譯書（省略）
(七)　工事費支出年度割表（省略）
六、一宮市水道布設工事計畫圖　壹册（省略）
七、昭和八年度一宮市稅課率（省略）

二、國庫補助申請書中一部變更

一宮市水道布設國庫補助申請書中一部變更願

昭和八年十月十四日六第八二〇號ヲ以テ水道布設國庫補助申請仕候處當時本事業ノ工事費ハ全額起債ニ求メ利率年六分以內ニテ預金部遞信省又ハ銀行會社其他ヨリ普通借入ヲナスコトトシ据置期間ハ借入所屬年度ヨリ五ケ年度償還期限ハ据置期間經過後償還年次表ノ通十五年賦償還スルコトトセシモ其ノ後世態ノ狀勢及金利低下ニ鑑ミ今般利率年五分以內トシテ元金ハ昭和十三年度迄据置、昭和十四年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル十五箇年度間ニ毎年三月、九月ノ二回抽籤定額償還ノ方法ニ依ル市公債ヲ發行シ低利ニ資金ヲ得ルコトニ變更仕候間從テ水道布設費繼續年期支出方法、水道布設工事費、國庫補助年度割豫定竝ニ財政計畫ニ變更ヲ來シ候ニ付テハ關係書類相添水道布設國庫補助申請書中一部變更ノ儀此段及御願候

昭和九年三月七日

愛知縣一宮市長代理助役　前島次郎 印

內務大臣　山本達雄殿

水道布設工事費國庫補助金年度割豫定表

一金百五拾萬圓也　水道布設工事費

一金參拾七萬五千圓也　此ノ四分ノ一　國庫補助申請額

內譯

一金壹千圓也　自昭和十年度 至昭和十九年度　毎年度交附額

一金壹萬圓也　自昭和二十年度 至昭和二十一年度　毎年度交附額

一金四萬圓也　自昭和二十二年度 至昭和二十五年度　毎年度交附額

一金六萬圓也　自昭和二十六年度 至昭和二十七年度　毎年度交附額

一金六萬五千圓也　昭和二十八年度　交附額

添付書類

一、議決書

(一) 第一〇號一宮市水道公債條例及償還年次表ノ件(省略)

(二) 第一一號昭和八年十月四日市會第四〇號議案水道布設費起債方法中借入金利率、据置期間及償還年次表更正ノ件(省略)

(三) 第一二號自昭和九年度至昭和十一年度一宮市水道布設費繼續年期及支出方法變更ノ件(省略)

(四) 第三一號昭和九年度特別會計水道布設費歲出豫算(省略)

二、水道布設工事費國庫補助年度割豫定表

三、水道布設費財政計畫(省略)

四、自昭和九年度至昭和十一年度一宮市水道布設費繼續年期及支出方法(省略)

五、水道布設費起債內譯(省略)

六、償還年次表(省略)

七、昭和八年度一宮市稅課率(省略)

三、國庫補助復活陳情經過

上下水道事業に對する國庫補助は近年國家財政上の非常時を叫ばるゝの際として政府は專ら緊縮方針に則り是等事業に對する九年度の國庫補助を廢止するに至れり之れ國民保健衞生上の重大問題にして且地方自治體の財政を危殆に陷らしむるものとし昨年來關係市町村に於ては之が復活要求運動を繼續中なりしを以て本市は之に合流し機宜の措置を執らんとし待機せり同九年八月に入り內務省に於ては明年度豫算に本市外二十七市町に對し國庫補助を計上し省議決定大藏省に廻付されたり同省議の成行如何は將來に於ける我國上下水道の死活に係はるものとし同省に於て査定に着手の機會を捉へ昨年議會に於ける當局の言明竝に議會を通過せる陳情建議の趣意其他全國市長會、全國市會議長會等各會議決定の上申書の趣意等有力なる資料を携へ主張を貫徹すべく關係市町村相集り上下水道國庫補助期成同盟會

を組織し猛運動を實行すべく本年最初の協議會を八月二十五日內務省內に開催せり、本會の加盟は漸次增加し本日來會者は明石市長を始め十八市町村三十六名に達し、本市より足立水道課長外佐藤次郎氏富板淺吉氏伴利晴氏の各水道委員出席せり今回の會合に於て會長は昨年より引續運動の關係上上野町長田山氏を會長に推し一同二十五日より二十八日に亙り政務多忙なる內閣總理大臣（代理）を始め內務、大藏兩大臣竝に兩省の關係當局の寸暇を見計ひ各省或は官邸間を數回往復面接を求め上申書を提出し地方財政の窮狀を愬へ昨年來要望せる補助復活を陳情し萬遺憾なく極力運動を行ひ猶政友會、民政黨及國民同盟の各本部を歷訪し各幹事長に之が援助を懇請し又在京の關係地方選出衆院議員を訪問し是亦要望の成功に極力援助されんことを依賴せり引續き本市に於ては縣下貴衆兩院議員に叙上水道の必要と財政の悃情を述べ要望の達成に助力を懇請せり。

上申書

上下水道ノ設備ハ市町村ノ保健衞生施設ノ根幹ヲ成シ其ノ普及完備ハ焦眉ノ急ヲ要スルニ不拘財界不況ノ影響ヲ受ケ地方財政益窮乏ヲ極メ一般市町村負擔ニ於テ之ガ施設ヲ爲スコト至難ノ業ニ屬シ政府ノ助成奬勵ヲ俟ツニアラザレバ到底上下水道布設ノ普及及ビ完備ヲ期シ難ク延ヒテハ國民ノ保健衞生上寒心スベキ結果ヲ招來スルモノト思致サレ洵ニ憂慮ニ堪ヘザル次第ニ有之候伏シテ冀ハクハ右地方財政ノ現狀ヲ御洞察ノ上昭和十年度ヨリ本事業ニ對スル國庫補助ヲ復活存置シ將來之ヲ減額又ハ廢止セラルル事無之樣特ニ御詮議相仰度此段上申候也

昭和九年八月二十五日

大阪府濱寺町長　大阪府高石町長　神奈川縣小田原町長　兵庫縣住吉村長
栃木縣黑磯町長　山梨縣瑞穗村長　岩手縣一ノ關町長　島根縣濱田町長
和歌山縣高野町長　徳島縣池田町長　香川縣坂出町長　愛媛縣八幡濱町長
千葉縣知事　三重縣上野町長　熊本縣水俣町長　奈良縣高田町長
宮城縣古川町長　一宮市長　川崎市長　明石市長
高崎市長　豐橋市長　宮崎市長　山口縣岩國町長
八幡市長　岐阜市長

次で九月二十八日（市より不參）及十一月七、八、九日（横濱市主催水道協會及收用事務の用件を帶び足立技師出席）の兩回に亘り各關係市町村代表者相會し更に內閣總理大臣を始め內務、大藏兩省各關係當局に對し補助廢止に因り及ぼす地方財政の窮狀を具陳し飽迄素志貫徹の意氣を以て復活要望の猛運動を繼續し又政黨方面に對しても尙一層の助力を懇請せり、其の結果各派衆議院議員諸氏は能く之を諒し政黨政派を超越相一致し協力援助さるゝことゝなれり、斯くて十一月中旬に入り愈ゝ來年度豫算案審議閣議のあることを知り同月十六、十七、十八、十九の四日間に亘り凡ゆる工作を盡し奔走努力し以て其の成果を收めんとし期成同盟會の會合をなすことゝなり森市長外加藤源一氏、原田要市氏、坂川新吾氏の各水道委員上京せり、卽ち第一日は內務省に丹羽事務次官、廣瀨土木局長、新井道路課長、大藏省に津島事務次官、賀屋主計局長、廣瀨文書課長を歷訪親しく面接陳情懇請し又一方別動隊は前橋市の演習地にある後藤內務大臣代理橋本秘書官に面接上下水道國庫補助の復活に關する陳情書を提出し之が成否は其の及ぼす所の影響數百萬の市町村民の休戚に關する事情を縷々陳情せり、次で第二日は各政黨本部を歷訪し只管助力を懇請し又內務、大藏兩當局及總理大臣官邸に赴き福田秘書官に面會陳情の趣旨を總理大臣に傳達徹底方を依賴し尙吉田書記官長に面接同樣陳情をなせり、第三日は各市長村長各關係衆議院議員を訪問盡力方を依賴し專ら復活の工作に努めたり、而し

て第四日は政、民、國同三派衆議院議員諸氏の參集を願ひ同伴して後藤內務大臣に面接各衆議院議員諸氏より上下水道國庫補助に關する件は政黨政派を超越したる擧國一致の問題にて必須不可缺國民衞生施設なるを以て之か奬勵上一日も忽にすへからさるものなれば來る二十一日の閣議に於て大臣より之が復活提案方を要請せり大臣亦決意あるものの如く見受らる、斯くして昨年末昭和九年度に於ける上下水道國庫補助中止せられて以來約一箇年同志二十七市町村の熱烈なる運動は效を奏し漸く政府當局の容るゝ所となり十一月二十四日の閣議に於て本市及千葉縣營水道を除く二十六市町村の上下水道國庫補助復活を認めらるゝに至りたる趣都市研究會理事阿南常一氏より急報に接したり本市は此の意外なる報に非常なる衝動を受け關係當局一同憮然たり、顧れば本市は八月以來各都市と共に連繫をなし共同運動に從事し長期に亘り大に努めたるにも拘らず補助の部より省かれ悵然として悲歎其極に達し其の心情は實に言語に絕するものあり爰に於て卽夜七時緊急水道委員會を開催善後策を諮り委員會終了後森市長を始め足立水道課長、淺井藤三郎氏、富板淺吉氏、佐藤次郎氏、原田要市氏、加藤源一氏、中井代次郎氏、坂川新吾氏の各水道委員は補助復活の實現を期し急遽上京し十一月二十六日朝より京橋區春日館を本部とし先づ期成同盟會竝に水道協會本部都市研究會等に連絡を取り復活實現の大々的運動を起し之に專念邁進せり、卽ち森市長は衆議院議員瀧正雄氏を煩し專ら後藤內務大臣、赤木內務次官、廣瀨土木局長竝に賀屋主計局長を本省に或は官邸に訪問し復活陳情に努め各水道委員諸氏は夫々分擔し小山松壽氏、加藤鯛一氏、加藤鐐五郎氏、丹下茂十郎氏、前田房之助氏の各有力なる衆議院議員を訪問し本市に對する補助除外は本市水道の成否に關する重大問題にして寔に遺憾の極とする所にして且本市財政は決して餘裕あらざる旨を縷ゝ陳情し國庫の補助を俟つにあらざれば事業の成り難きを述べ之が實現に絕大の援助を與へられんことを懇願せり。

玆に於て唯獨り取漏されたる本市に對し各方面の同情を喚起し前記各衆議院議員諸氏の熱誠なる御援助を受くることとなり遂に政府に於ける關係當局を動かすことを得十二月十五日瀧衆議院議員より「スイドウデキタタキマサオ」の第一報に接し次で同月十八日小山衆議院議員より「ライネンド一センエン、コウネンドヨリ三六マンエンニテケツテイセリコヤマ」の報知に接し旣往の辛勞焦燥の跡を偲び此の希望達成を唯々感激せる次第なり、仍て此の欣びと感謝の禮電を直ちに關係各方面に發送せり、想へば去る八月二十五日國庫補助期成同盟會に馳せ參じたるより玆に半歲共間幾多の辛酸を嘗め一度は辛苦を俱にせる同志より取殘され切齒扼腕し或は焦慮の境に立ち本事業の前途多難を憂ひたりしも幸にして本市の衷情を容れられ爰に國庫補助三十六萬七千圓を下附のことに決定を見たるは偏に本市の爲熱烈なる御後援を與へられし各位の御盡力の賜にして玆に深甚の謝意を表する次第なり。

四、國庫補助聽許

河第九三三號

昭和十年五月三十一日

愛知縣土木部長印

一宮市長殿

水道布設費國庫補助ノ件

昭和八年十月四日附六第八二〇號ヲ以テ稟請ニ係ル標記ノ件ニ關シ別紙ノ通補助相成趣內務省土木局長ヨリ來牒ノ次第有之候條右年度割ノ通補助金受入ニ關スル市會ノ議決書添屬至急補助申請相成度

追テ本件事業ニ對シ別ニ失業救濟ノ爲國庫ヨリ補助セラルルモノアル場合ハ客年四月十三日土第一〇八號通牒(同日公報登載)ニ依リ處理セラレ候條右ニ該當スルモノニ付テハ本件補助申請ノ際昭和十年度迄ニ指令セラレタル毎年度失業救濟國庫補助額ヲ又該當ナキモノニ付テハ其旨上申相成度申添候

一宮市起業水道國庫補助調書

工事費　一、四六九、〇〇〇圓

國庫補助額　三六七、〇〇〇圓

國庫補助年度割

自昭和十年度 至同十九年度	毎年度各	一、〇〇〇圓
自昭和二十年度 至同二十七年度	毎年度各	三、〇〇〇圓
昭和二十八年度		五、〇〇〇圓
同　二十九年度		一七、〇〇〇圓
同　三十年度		四二、〇〇〇圓
昭和三十一年度		一〇二、〇〇〇圓
同　三十二年度		一六七、〇〇〇圓

以　上

水第一四三號

昭和十年八月二十三日

愛知縣一宮市長　森　林右工門㊞

內務大臣　後藤文夫殿

水道布設費國庫補助ノ件申請

昭和八年十月十四日附六第八二〇號ヲ以テ水道布設費ニ對シ國庫補助申請致シ置候處本年五月三十一日附ヲ以テ自昭和十年度至昭和三十二年度二十三ケ年度ニ涉リ總額金參拾六萬七千圓ノ補助內定ノ御通牒ニ接シ候ニ付テハ之ガ受入ニ關シ別紙ノ通リ市會ノ議決ヲ經候條御補助相成度及申請候也

(別紙省略)

內務省八愛土第一六七號

愛知縣一宮市

昭和十年八月二十三日一宮市役所水第一四三號ノ申請水道布設費國庫補助ノ件聽屆ケ金參拾六萬七千圓ヲ別記年度割ノ通交附ス

但左記ノ通心得ベシ

昭和十年十月三十日

內務大臣　後藤文夫㊞

一、補助ハ其ノ市水道布設費金百四拾六萬九千六百參拾五圓七拾八錢ニ對シ補助スルモノトス

二、工事落成シタルトキハ本大臣ニ屆出デ完了認定ヲ申請スベシ

三、工費ニ剩餘アリタルトキハ第一項補助ノ割合ニ依リ之ヲ返還セシムルコトアルベシ

工事用材料ニ剩餘アリタルトキハ時價ニ換算シ之ヲ剩餘ト看做ス

四、市ハ剩餘ヲ生ジタル工費若ハ工事用材料ヲ處分セムトスルトキハ其ノ處分ヲ定メ本大臣ニ稟伺スベシ

五、工事豫定ノ通進行セザルトキ又ハ期限ヲ過ギ落成ノ見込ナキモノト認ムルトキハ補助金ノ交附ヲ中止シ又ハ補助ヲ取消シ既ニ交附シタル補助金ハ之ヲ返還セシムルコトアルベシ

六、補助ヲナシタル水道設備ノ廢止又ハ變更ニ因リテ生ジタル不用土地、物件アリタルトキハ之ヲ時價ニ換算シ第一項補助ノ割合ニ依リ補助金ヲ返還セシムルコトアルベシ

別　記

一金壹　千　圓　（自昭和十年度 至同十九年度）每年度交附額
一金參　千　圓　（自昭和二十年度 至同二十七年度）每年度交附額
一金五　千　圓　昭和二十八年度交附額
一金壹萬七千圓　昭和二十九年度交附額
一金四萬貳千圓　昭和三十年度交附額
一金拾萬貳千圓　昭和三十一年度交附額
一金拾六萬七千圓　昭和三十二年度交附額

計金參拾六萬七千圓

河第九三三號

昭和十年十一月十四日

愛知縣土木部長㊞

一宮市長殿

水道布設費國庫補助ノ件

八月二十三日水第一四三號ヲ以テ申請ニ係ル標記ノ件別紙ノ通指令相成候條及送付候也

追テ國庫補助ノ條件第二號ニ依リ工事完了認定申請ノ場合ハ別紙樣式ニ倣ヒ調製シタル精算一覽表、精算內譯書、殘餘材料調書竝竣工明細圖（平面圖、縱斷面圖、各種構造物出來形明細圖）提出相成度尙補助基本額ニ付テハ昭和九年九月十日內務省愛衞第二四六號ヲ以テ布設認可ニ係ル工事費豫算額金百五拾萬圓ヨリ左記金額ヲ控除シ相定メラレタル趣ニ候條御了知相成度申添候

記

一金壹萬八千百八拾參圓　配水工事費中公道部分給水管布設工費
一金八百八拾四圓　用地買收賠償費中公舍用地買收費
一金七百八拾八圓拾錢　用地買收賠償費中水源倉庫及公舍用地買收費
一金壹千五拾圓　建築費中淨水場事務所建築費ノ半額
一金壹千參百四拾九圓四錢　建築費中水源地公舍建築費
一金貳千六百九拾八圓八錢　建築費中淨水場公舍建築費
一金貳千九百貳拾參圓貳拾錢　建築費中淨水場傭人公舍建築費
一金壹千九百四拾八圓八拾錢　建築費中水源地傭人公舍建築費
一金五百四拾圓　事務費中費用辨償費

計金參萬參百六拾四圓貳拾貳錢

（別紙樣式省略）

第二節　縣費補助

一、縣費補助申請

昭和八年十月十四日國庫補助申請をなすと共に一方縣費補助に關しても同日附を以て左の通り之が申請をなしたり。

六第八一九號

一宮市水道布設縣費補助申請

本市ハ尾張平野ノ中央ニ位シ毛織工業ノ樞要地ニシテ附近町村ノ産額ト併セ本邦第一ノ毛織物産地トシテ名聲ヲ内外ニ博シ年ト共ニ殷盛ヲ極メ交通機關四通發達シ道路交通亦能ク啓ケ商取引ノ往來頗ル頻繁ナリ近年毛織工業ノ振興ニ伴ヒ人口亦逐年增加シ現時人口四萬五千餘ヲ算ス既往年々人口ノ增加率ハ全國中屈指ノ高率ヲ示シ將來益發達セントスルノ狀勢ニアリサレバ市民ノ保健衞生ハ勿論產業發達竝ニ防火ノ施設ノ爲優良豐富ナル水ヲ要スルハ言ヲ俟タザルモノナリ由來本市ノ飲料水竝ニ工業用水ハ全部井水ニ俟ツモノニシテ其大部分ハ褐色惡臭ヲ有シ或ハ混濁ヲナスアリ甚シキニ至リテハ地層ノ關係上井戸ヲ掘鑿スルモ水ノ湧出セザル部分アリテ地方發展ヲ阻害スル甚シキモノアリ剩ヘ近來下水工事ノ着々進行スルニ伴ヒ井水涸渇スルモノ多ク市民ハ衞生防火上更ニ驚異ヲ增シ水道ノ急施ヲ絶叫シテ歇マザル狀態ニアルヲ以テ今回水道布設計畫ヲ確立シ其工事費總額金百五拾萬圓ヲ以テ昭和九年度ヨリ同十一年度ニ至ル三箇年繼續事業トシテ施行ノ儀市會一致ノ議決ヲ經別途内務大臣ヘ水道布設認可申請仕候然ルニ現下本市事業ノ主ナルモノニハ下水道築造費金百五拾萬圓都市計畫第一期街路事業費金貳百貳拾八萬五千圓其他國道十二號線改築費市負擔金四拾五萬五千餘圓等アリテ年々多額ノ支出ヲ要シ市税賦課ノ現況ハ地租所得税ノ附加税ハ制限額ノ四割、國税營業收益税附加税ハ三割三分ヲ超過シ縣税營業税及雜種税ノ附加税ハ殆ンド本税額ト同一ニ近キ程度ニ課税シ家屋税附加税ノ如キハ現在納税人員一人當リ金四拾四圓四拾壹錢餘ノ多額ニ上リ將來減少ノ見込ナク此上財源ヲ市税ニ需ムルハ到底負擔ニ堪ヘザル所ナルヲ以テ總事業ノ七分ノ一金貳拾壹萬四千貳百八拾五圓也別紙年度割ニ依リ縣費ノ補助ヲ仰ギ度事情御賢察ヲ賜リ願意御聽許相成度關係書類添付此段申請候

昭和八年十月十四日

愛知縣一宮市長　小　島　太　左　工　門 印

愛知縣知事　三　邊　長　治殿

水道布設工事費縣費補助金年度割豫定表

一金百五拾萬圓也　　水道布設工事費

此ノ七分ノ一

一金貳拾壹萬四千貳百八拾五圓也　　縣費補助申請額

内　譯

金壹　千　圓　也　（自昭和十年度／至昭和十一年度）　每年度交付額

金貳　萬　圓　也　（自昭和十二年度／至昭和十五年度）　每年度交付額

金參萬五千圓也　（自昭和十六年度／至昭和十八年度）　每年度交付額

金貳萬七千貳百八十五圓也　　昭和十九年度　交　付　額

工事期間

一、起　工　　昭和九年四月一日

一、竣工　昭和十二年三月三十一日

添付書類

一、議決書

（一）第三八號一宮市水道布設目論見書（省略）

（二）第三九號一宮市水道布設費繼續年期及支出方法（省略）

（三）第四〇號起債方法償還年次表起債償還一覽表（省略）

（四）第四一號一宮市水道給水條例（省略）

（五）第四二號一宮市水道布設費竝ニ維持費ノ收支ハ特別會計トスルノ件（省略）

二、水道布設工事費縣費補助年度割豫定表

三、水道布設費財政計畫表（省略）

四、水道事業收支概算書

（一）各年度事業收入豫算關係書類（省略）

（二）經常部各年度歳出豫定表（省略）

五、一宮市水道布設設計書

（一）水道布設理由書（省略）

（二）計畫說明書（省略）

（三）工事方法書（省略）

（四）工事費豫算書（省略）

（五）一位代價表（省略）

（六）一位代價內譯書（省略）

（七）工事費支出年度割表（省略）

六、一宮市水道布設工事計畫圖　壹冊（省略）

七、昭和八年度一宮市稅課率（省略）

次で財政計畫に於て一部變更を來したるため本補助申請書中一部變更の件を左記案文に依り縣知事宛提出せり。

六第八一九號ノ一

一宮市水道布設縣費補助申請書中一部變更願

昭和八年十月十四日六第八二〇號ヲ以テ水道布設縣費補助申請仕候處當時本事業ノ工事費ハ全額起債ニ求メ利率年六分以內ニテ預金部遞信省又ハ銀行會社其他ヨリ普通借入ヲナスコトトシ据置期間ハ借入所屬年度ヨリ五ヶ年度償還期限ハ据置期間經過後償還年次表ノ通十五年賦償還スルコトトセシモ其後世態ノ狀勢及金利低下ニ鑑ミ今般利率年五分以內トシテ元金ハ昭和十三年度迄据置昭和十四年度ヨリ昭和二十八年度ニ至ル十五箇年度間ニ毎年三月、九月ノ二回抽籤定額償還ノ方法ニ依ル市公債ヲ發行シ低利ニ資金ヲ得ルコトニ變更仕候間從テ水道布設費繼續年期支出方法、水道布設工事費縣費補助年度割豫定竝ニ財政計畫ニ變更ヲ來シ候ニ付テハ關係書類相添水道布設縣費補助申請書中一部變更ノ儀此段及御願候

昭和九年三月七日

愛知縣一宮市長代理助役　前島次郎㊞

愛知縣知事　三邊長治殿

水道布設工事費縣費補助金年度割豫定表

一金百五拾萬圓也　水道布設工事費

此七分ノ一

一金貳拾壹萬四千貳百八拾五圓也　縣費補助申請額

内　譯

一金壹千圓也　自昭和十年度 至昭和十一年度　毎年度交付額

一金壹萬圓也　自昭和十二年度 至昭和二十一年度　毎年度交付額

一金壹萬五千圓也　自昭和二十二年度 至昭和二十七年度　毎年度交付額

一金貳萬貳千貳百八拾五圓也　昭和二十八年度　交付額

添付書類

一、議決書

(一) 第一〇號一宮市水道公債條例及償還年次表ノ件(省略)

(二) 第一一號昭和八年十月四日市會第四〇號議案水道布設費起債方法中借入金利率据置期間及償還年次表更正ノ件(省略)

(三) 第一二號自昭和九年度至同十一年度一宮市水道布設費繼續年期及支出方法變更ノ件(省略)

(四) 第三一號昭和九年度特別會計水道布設費歳出豫算(省略)

二、水道布設工事費國庫補助年度割豫定表

三、水道布設費財政計畫(省略)

四、自昭和九年度至昭和十一年度一宮市水道布設費繼續年期及支出方法(省略)

五、水道布設費起債内譯(省略)

六、償還年次表(省略)

二、縣費補助陳情經過

本縣に於ては市町村の上下水道設備に對し保健衞生上最も緊要なるものとし之が助成奬勵の見地より從來既設のものに多額の縣費補助あり本市又今回の水道布設に際しても財政計畫上之が收入に期待をなしたる所時偶々政府の緊縮方針は是等事業に對する國庫補助を廢止せらるゝに及び縣當局も亦之と同一方針の下に昭和十年度豫算に於ては本市竝に豐橋市に對する縣費補助の計上を見ず財政上二重の危機に瀕せり然れども本縣會議員各位に於ては本市の爲常に熱誠なる後援を續けられ縣當局に對し屢々諒解を求めらる所ありたり。

昭和九年十二月通常縣會開會中に際しては郡部選出全縣會議員一致を以て本市竝に豐橋市に對する左記の如き最有効なる意見書を提出され大に本問題の爲に盡力されたるは本市として感激措く態はさる所なり。

意　見　書

上下水道ノ設備ハ市町村ノ保健衞生上施設ノ根幹ヲ成シ其ノ普及及完備ハ焦眉ノ急ヲ要スルニ不拘不況ノ影響ヲ受ケ市町村財政益々窮乏ヲ極メ一般市町村負擔ニ於テ之ガ施設ヲ爲スコト至難ノ業ニ屬シ政府竝縣ノ助成奬勵ヲ俟ツニアラザレバ到底上下水道布設ノ普及完備ヲ期シ難シ然ルニ本縣ニ於テハ思ヲ玆ニ致サレ夙ニ縣費補助ノ途ヲ設ケ之ガ助成奬勵ヲ努メ既設上下水道ニ對シ夫々多額ノ補助ヲ與ヘラレツツアルハ慶賀ノ至リニ不堪然ル處一宮市上水道及豐橋市下水道擴築工事費ニ對スル縣費補助ニ關ス

ル豫算昭和十年度ニ計上ナキハ甚ダ遺憾トスル所ナリ仄聞スル所ニ依レバ本補助費ハ國庫補助ノ決定ヲ俟ツテ追加セラルヽヤニ候モ國庫補助ノ如何ニ不拘進デ御發案相成度若シ夫レ國庫補助ナキ場合ハ寧ロ現補助率以上ニ補助ヲ增シ上下水道助成奨勵ニ一段ノ力ヲ致サレンコト切望ニ不堪何卒前陳ノ理由御諒察ヲ賜リ速ニ追加豫算及之ニ關聯スル繼續費御發案相成候様御高配相仰度

尙右追加豫算及繼續費御發案ノ場合ハ之ガ議決權ヲ郡部參事會ニ委任ス

右府縣制第四十四條ニ依リ意見書及提出候也

昭和九年十二月　日

愛知縣郡部會議長　本　多　綱　治

愛知縣知事　篠　原　英　太　郎　殿

三、縣費補助指令

斯くて各縣會議員諸氏竝に各方面の熱誠なる援助に依り昭和十年八月十三日縣費補助二十萬九千八百五十七圓の指令を受くることゝなり曩の國庫補助決定と共に玆に全く本事業の達成を確立せり。

土第三五五一號

昭和十年八月十三日

愛　知　縣　土　木　部　長　㊞

一　宮　市　長殿

水道布設費縣費補助ノ件依命通牒

昭和八年十月十四日附六第八一九號ヲ以テ申請ニ係ル標記ノ件右ハ査定工費金百四拾六萬九千圓ニ對シ金貳拾萬九千八百五拾七圓ヲ別紙年度割ノ通補助スルコトニ內定候條土木費支辨規則竝ニ土木費補助細則及左記事項ニ依リ御取扱相成度

記

一、工事ハ昭和十二年三月三十一日限リ竣工スベシ
二、補助申請書ハ每年度四月末日迄（本年度ニ限リ昭和十年十月三十一日限リ）ニ豫算決議書ヲ添付シ差出スベシ
三、補助金ハ豫算ノ範圍內ニ於テ當該年度迄ノ精算額ニ對シ交付スルモノトス
四、第二年度以降ノ補助申請書ニハ前年度迄ニ交付ヲ受ケタル補助金及其ノ基本工費ヲ明カニスベシ
五、工事竣工迄ハ每年三月三十一日ノ現況ニ依リ工程報告書（圖面添付）ヲ調製シ五月三十一日迄ニ提出スベシ

一宮市水道布設費縣費補助年度割表

年度	補助額 圓	備考	年度	補助額 圓	備考
自昭和十年度 至昭和十一年度每年	五〇〇		自昭和二十四年度 至昭和二十七年度每年	一五、〇〇〇	
自昭和十二年度 至昭和十五年度每年	一、〇〇〇		自昭和二十八年度 至昭和二十九年度每年	一八、〇〇〇	
昭和十六年度	五、〇〇〇		昭和三十年度	二〇、〇〇〇	
自昭和十七年度 至昭和十九年度每年	八、〇〇〇		昭和三十一年度	一五、八五七	
自昭和二十年度 至昭和二十一年度每年	一〇、〇〇〇		計	二〇九、八五七	査定工費一、四六九、〇〇〇圓ノ七分ノ一
自昭和二十二年度 至昭和二十三年度每年	一二、〇〇〇				

第八章 施工機關

第一節 組織

昭和七年九月水道布設調査に着手し越て翌八年十月四日布設の件市會に於て議決せらるゝや數名の職員を任命し市役所樓上の一室を事務所に宛て順次諸規程の設定職員の任命をなし一方臨時水道委員規程を設け水道布設に關する主要事項の調査處理に任する等着々工事の進捗を圖ることゝなれり。

第二節 水道委員會

一、臨時水道委員規程

臨時水道委員規程　昭和八年第五〇號議決

第一條　本市水道布設事務處辨ノ爲市制第八十三條ニ依リ臨時委員ヲ置ク

第二條　委員ハ九名トシ市會議員中ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

二、水道委員設置規定

水道委員設置規程　昭和十二年十月十三日告示第九十二號

第一條　本市上下水道事務處辨ノ爲市制第八十三條ニ依リ委員ヲ置ク

第二條　委員ハ九名トシ市會議員中ヨリ市長ノ推薦ニ依リ市會之ヲ定ム

附則

本規程ハ昭和十二年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

臨時水道委員設置規程及臨時下水道委員設置規程ハ之ヲ廢止ス

三、臨時竝經常に屬する水道委員會記錄要項

水道布設調査に關しては臨時上下水道委員會に諮問をなし審議を行ひたりしも昭和八年九月調査完了し愈々工事施行の運びに至りたるを以て同年十一月二十一日臨時上下水道委員會を廢止し水道事業執行に關し改めて臨時水道委員會を置く規定を設置せられたり委員は何れも市會議員中より市長の推薦に依り市會之を定むることとされ九名を以て組織し水道布設に關し市長の諮問機關たる制度なれども事業遂行に當りては萬般の事項に付常に絕大の援助指導に任ぜられたりされば最も難關とせられたる用地問題に或は莫大の費用を要する鐵管購入に或は工事材料主要機械購入に或は布設認可起債許可促進に將又國庫竝に縣費補助問題等に至る迄總て圓滿順調に處理し得たりしは誠に感謝感激に堪へざる所なり左に昭和九年四月以降昭和十四年六月迄に開催せられたる委員會の經過概略を記し各委員の熱誠を永く錄す。

開會年月日	出席者 委員	出席者 理事者	議事大要
昭和九年四月二十三日	九名	三名	理事者ヨリ水道布設認可、起債許可及其他提出願書ニ關シ事務的進捗ノ經過報告

			ヲナシ之ガ促進方竝ニ國庫補助、縣費補助問題資金調達問題等ニ付協議シ先ヅ以テ國庫補助ニ付テハ理事者上京促進運動ヲナスコトニ決定セリ
昭和九年五月二十一日	八名	四名	理事者ヨリ水道布設認可促進運動經過報告及起債利率ハ年四分五厘ニテ纒メ得ル旨報告次デ國庫補助問題ニ關シ森市長及淺井氏、加藤氏、中井氏ノ各委員上京主務省ニ陳情スルコトニ決定セリ
同　年六月十八日	九名	五名	森市長及上京セラレタル各委員ヨリ國庫補助問題ニ關シ經過報告アリ加ヘテ本問題ノ前途洵ニ多難ナル旨附言前島助役ヨリ認可問題ハ順調ニ進行中ナルコトヲ報告、最後ニ理事者ヨリ萬一國庫補助ナキ場合ニ於ケル本事業ノ成否ヲ諮リ全員一致萬難ヲ廢シ所期ノ計畫ヲ遂行スルコトニ決定尙縣費補助ニ關シ曩ニ上京セラレタル淺井氏、加藤氏、中井氏ノ三委員出縣陳情スルコトニ決定セリ
同　年八月二十二日	七名	四名	理事者ヨリ起債許可ノ經過ヲ報告シ次デ國庫補助問題ニ關聯シ全國關係市町村ヨリ成ル水道國庫補助復活運動ニ加盟ノ件ヲ諮リ加盟ニ決定次デ足立水道課長及富板氏、佐藤氏、伴氏ノ三委員上京運動ニ加ハルコトニ決定又縣ヘモ小濱助役、淺井氏、加藤氏、中井氏ノ三委員陳情スルコトニ決定セリ
同　年九月三日	七名	四名	足立水道課長及上京セラレタル委員佐藤氏ヨリ國庫補助復活運動ノ經過報告アリ次デ地元代議士及本縣々會議員ニ補助問題ニ關シ援助方ヲ公文ヲ以テ依賴スルコトニ決定セリ
同　年九月二十日	八名	四名	米元顧問陪席　理事者ヨリ水道布設認可及起債許可指令ノ接受報告アリ次デ鐵管購入ニ關シ諮問シ購入方法ヲ決定足立水道課長ヨリ用地問題ニ付報告アリ殊ニ難

			澁トサレル水源用地地主ニ對シテハ水道委員中井代次郎氏ニ仲介ノ勞ヲ依賴スルコトニ決定同日午後出席セラレタル委員全員出縣縣費補助ニ關シ陳情スルコトニ決定セリ
同　年十月一日	七名	四名	水源用地買收問題ニ付森市長及委員中井氏ヨリ交渉經過ノ報告アリ結局同村八幡神社ノ改築費トシテ金參千圓交付シ買收交渉ヲ進捗セシムルコトニシ中井氏ニ一任セリ
同　年十月二十三日	六名	四名	鐵管購入豫定價格諮問及鐵管購買入札ノ開札ヲナス鐵管入札ハ豫算超過ニ付最低者栗本鐵工所ニ折衝隨意契約ヲナスコトニ決定次デ水道施設研究ノタメ他都市ノ水道施設ヲ視察スルコトニ決定セリ
同　年十一月五日	八名	三名	制水弁購買入札、鐵管檢査所建築工事請負入札ノ開札シ落札決定ス
同　年十一月十四日	七名	四名	鐵管試驗用喞筒及鐵管水壓試驗機購買入札ノ開札何レモ豫算超過ノタメ再入札ニ決定次デ小濱助役ヨリ國庫補助復活運動經過ニ關シ報告アリ猶最後ノ運動トシテ森市長ヲ始メ二三委員上京運動スルコトニ決定セリ
同　年十一月二十二日	七名	四名	鐵管水壓試驗機購買再入札ノ開札シ落札決定次デ森市長及加藤氏、原田氏ノ兩委員ヨリ國庫補助復活ノ爲上京陳情運動ヲナシタリシ經過ヲ詳細ニ報告アリ協議ノ上本件ハ暫ク運動ノ結果ヲ待ツコトトセリ次ニ市長ヨリ縣費補助ニ關シ其後ノ經過ヲ報告シ猶國庫補助ノ際ハ速ニ縣參事會ニ於テ縣費補助ノ決議ヲ成シ得ル樣本縣會ニ建議案提出方實現ニ努ムベシトノ意見ノ開陳アリタリ
同　年十一月二十五日	七名	四名	午後七時緊急委員會ヲ開催シ森市長ヨリ全國ノ國庫補助申請中ニアル二十八件ノ

内縣市郎チ千葉縣及本市ヲ除ク二十六件ノ補助ガ認メラレタル旨報告アリ仍テ直ニ瀧正雄氏、加藤鯛一氏、小山松壽氏、床次竹次郎氏、前田房之助氏ノ各代議士ニ國庫補助ノ件ニ付助力ヲ願フ旨ノ依頼電報ヲ發シ猶郎夜森市長、足立水道課長竝ニ當夜出席ノ淺井氏、富板氏、佐藤氏、原田氏、加藤氏、中井氏、坂川氏ノ各委員上京運動スルコトニ決定セリ

昭和九年十二月二日　八名　四名　喞筒購買及鐵管布設工具購買ノ入札ヲ開札シ落札ニ決定次デ國庫補助期成同盟會ヨリ今般補助決定サレタルニ依リ關係方面ノ御禮廻リ竝ニ本市ノ善後策ニ關シ協議ノタメ十二月四日上京方依頼越アリタルニ付諮リタルトコロ本市ニ於テモ此際國庫補助陳情ノ猛運動ヲナス必要アリトシ森市長及淺井氏、加藤氏、中井氏ノ各委員上京スルコトニ決定猶縣費補助ニ關シテハ十二月三日全員出縣當局ニ陳情シ一方豐橋市ト提携シ關係縣會議員諸氏ニ對シ建議案提出方ヲ依頼スルコトニ決定セリ

同　年十二月十八日　九名　四名　森市長ヨリ本市ノ國庫補助ヲ認メラレタル件竝ニ其經過ヲ報告シ次デ足立水道課長ヨリ水源用地買收ハ極メテ難澁ナル旨報告シ協議ノ結果今一度委員中井氏ニ折衝ヲ依頼シ然ル後善處スルコトニ決定ス次ニ消火栓購入ニ關シ諮問之ガ購入ニ際シテハ委員加藤氏ニ相談ヲナスコトニ決定セリ

同　十年一月十一日　八名　三名　水源用地買收ニ關シ諮問シ猶折衝ヲ加藤氏、中井氏ノ兩委員ニ一任スルコトニセリ次デ豐橋市ヨリ鐵管讓受ノ件ヲ決定シ森市長ヨリ國庫補助ニ關シ御禮廻リヲナシタル旨報告セリ

同　年一月十九日　八名　四名　鉛塊及ヤーン購買入札ノ開札シ落札決定ス

同　年二月七日　九名　四名　昭和十一年度水道布設費豫算案内示及水源、送水、配水ノ各工事請負及セメント購買等ノ入札ヲ開札ス、水源竝ニ送水ノ各工事ハ豫算超過ニ付郎刻再入札ヲ行ヒタルモ落札セズ依テ豫算範圍內ニテ當局ニ於テ折衝隨意契約ヲナスコトトシ配水工事請負及セメント購買ハ何レモ落札決定セリ

同　年三月四日　六名　四名　鐵蓋購買入札ヲ開札シ落札決定、終了後各工事現場視察セリ

同　年三月二十八日　八名　四名　水道起工式擧行日時決定ノ件諮問各方面ニ支障ナキ限リ四月二十日擧行スルコトニ決定セリ

同　年四月八日　八名　四名　淨水場竝ニ附帶工事、第二區配水竝運搬工事、第三區配水竝運搬工事、專用電話架設工事及電話機、セメントノ各購買入札ヲ開札ス淨水場竝附帶工事、第三區配水竝ニ運搬工事、電話機購買ハ何レモ落札決定ス、第二區配水竝運搬工事ハ豫算超過ノ爲最低者ト交涉ノ上委員會ニ諮ルコトトシ專用電話架設工事竝ニセメント購買ハ豫算超過ノ爲最低者ト交涉ノ件理事者ニ一任スルコトニ決定ス委員會終了後工事現場ヲ視察ス

同　年五月二十三日　九名　四名　地上式消火栓購買淨水場周圍土墻築造工事入札及喞筒購買竝ニ据付工事見積等ヲ開札ス地上式消火栓購買及淨水場周圍土墻築造工事ハ落札決定ス喞筒購買竝ニ据付工事見積ハ猶一ケ所見積ヲ徵シ委員會ニ諮ルコトトシ第二區配水竝運搬工事ハ指定價格ノ範圍內ニ於テ理事者ヨリ請負人ニ交涉スルコトニ決定委員會終了後各工事現場ヲ視察ス

昭和十年六月六日	六名	四名	鉛塊及ヤーン購買ノ入札ヲ開札シ落札決定
同　年七月一日	八名	四名	足立水道課長ヨリ水源地水害問題ニ付報告、喞筒購入ニ關シ諮問シ次デ電力契約案報告散會後水害狀況ヲ全員視察セリ
同　年八月十五日	八名	四名	小濱助役ヨリ縣費補助確定ノ報告後鐵管布設入札ノ開札及其レニ關聯シ市內鐵管布設ニ關シ意見交換アリ次デ足立水道課長ヨリ電力契約ニ關シ東邦電力株式會社ヨリ本市ニ不利ナルガ如キ申入レアリタル旨報告アリ仍テ全員ニテ會社ニ折衝スルコトニ決定ス
同　年十月七日	五名	五名	第四區配水工事淨水場着水井及門工事及鉛塊ノ購買等ノ入札ヲ開札ス淨水場着水井及門工事ノミ豫算超過ノタメ未決其他ノ二件ハ決定ス次デ電力契約ニ關シ討議後同社一宮支店長出席アリ折衝シタルモ具體的進展ヲ見ズ散會後淨水場及水源工事現場ヲ視察セリ
同　年十一月十二日	八名	五名	配水幹線布設工事請負入札ノ開札、電力使用量及料金ニ關シ諮問次デ淨水場用地變更買收ノ件諮問セリ
同　年十二月九日	六名	五名	電力料金ニ關シ諮問散會後工事現場視察ス
同　年十二月二十七日	八名	五名	配水塔築造工事請負入札ノ開札ニ關シ足立水道課長ヨリ其構造ヲ説明シタル後開札ス豫算超過トナリ再入札セシムルコトトシ次デ淨水場事務所建築工事入札ヲ開札決定次デセメント購買ニ關シ諮問セリ
同　十一年一月二十七日	九名	六名	配水管布設工事請負、鹽素滅菌機購買、配水塔鋼鐵桁購買ディーゼル機關購買ノ入札及配水塔築造工事請負再入札等諸件ヲ開札シ配水塔築造工事ハ最低者ト價格ニ付折衝ディーゼル機關ハ比較研究スルコトニシ其他ハ落札決定
同　年二月七日	六名	五名	ディーゼル機關購買ニ關シ比較研究ノ結果ヲ理事者ヨリ報告シ結局優秀ト認メラルル新潟鐵工所ニ一應交渉スルコトニ決定次デ明年度豫算案ヲ內示ス
同　年二月二十九日	六名	六名	ディーゼル機關購買ニ關シ愼重審議シ實際ニ付製造工場其他製品ヲ調査スルコトニ決定次デ配水塔水槽及屋根トラス工事ノ入札ヲ開札ス同額入札二名アリ再入札ノ上當局一任ニ決定
同　年三月六日	九名	六名	ディーゼル機關購入ニ關シ實地調査ノ結果ヲ討議シ條件ヲ附シ當局ニ購入方一任次デ電力料問題及給水工費ニ關シ諮問ス
同　年三月十八日	六名	四名	ディーゼル機關購入契約ノ件報告アリ次デ第七區配水鐵管布設工事及鉛塊購買等ノ入札ヲ開札シ決定後配水塔掘鑿現場ヲ視察セリ
同　年四月十三日	四名	四名	配水塔前道路改修ノ件ヲ諮問シ擴張スルコトニ決定給水工費市費負擔範圍ノ件諮問次デ電力料問題ニ關シ諮問ス本件ハ解決速進ノ爲全員名古屋市ニ出張東邦電力株式會社名古屋支店長ニ直接交渉スルコトニ決定猶翌十四日工事現場ヲ視察スルコトニ決定シ散會セリ
同　年五月三日	五名	二名	森市長ハ足立水道課長ヲ帶同水道委員後藤氏、富板氏、加藤氏、坂川氏、伴氏等ト共ニ東邦電力株式會社名古屋支店ニ同支店長ヲ訪レ交渉中ノ電力料金ノ件ヲ解決セリ
同　年五月五日	六名	三名	第八區配水鐵管布設工事請負入札ヲ開札ス豫算超過ノタメ再入札ヲナシ其ノ結果落札決定

第二節　水道委員會

昭和十一年五月八日	七名	三名	足立水道課長ヨリ前回ノ第八區配水鐵管布設工事落札者森組ヨリ請負辭退ノ申出アリタル旨報告依テ委員會ノ豫定價格ノ範圍內ニテ次ノ最低者ニ交渉スルコトニ決定次ニ同課長ヨリ電力料問題ニ付報告シ其レニ依リ契約スルコトニ決定
同　年五月二十三日	六名	三名	淨水場公舍建築工事請負入札ヲ開札シ落札決定
同　年六月二十七日	六名	六名	水栓柱購買入札ヲ開札シ落札決定、水栓類購買入札ヲ開札最低者二三名ヨリ見本品ヲ提出セシメ優秀品ヲ撰定シ契約スルコトニ決定量水器筐及止水栓筐購買入札ノ開札最低者ヨリ見本品ヲ提出セシメ決定スルコトニシ次ニ量水器購買ノ入札ヲ開札シタルトコロ殆ンド同値ノタメ今少シ研究スルコトトシ未決定トナル後工事現場ヲ視察ス
同　年七月十日	七名	六名	水道條例許可促進ノ爲上京セル小濱助役ヨリ其ノ經過ヲ報告ス次デ給水栓見本品提示ニ依リ協和水道工業株式會社ノモノヲ優秀ト認メ隨意契約ニ依リ購買スルコトニ決定次ニ量水器及同筐購買ヲ決定次ニ昭和十一年度特別會計水道費歳入出豫算案內示竝ニ給水條例施行細則及給水普及ニ關スル暫行特例ヲ諮リ暫行特例ハ猶克ク研究スルコトトシ散會セリ
同　年七月十七日	六名	六名	給水ニ關スル暫行特例ノ件諮問ス
同　年九月三日	五名	四名	純鉛管購買入札開札ヲナシ落札決定、次デ足立水道課長ヨリ淨水場ノ構內ニ濾過池築造ノ必要ヲ說明シ諒解ヲ求ム、次ニ給水申込戶數一、六五三件アリタル旨報告ス
同　年九月七日	七名	四名	給水工事用材料及工率ノ件諮問ス
同　年十月十日	七名	四名	鋼管使用ニ關シ諮問次デ濾過池築造竝ニ其他事業進行ニ關シ協議セリ次ニ給水申込戶數一、九〇〇件ニ達シタル旨報告アリ終了後各工事現場視察セリ
同　年十月十九日	九名	四名	給水開始ニ際シ水神祭執行ノ件諮問ス
同　年十一月十三日	八名	四名	配水塔用地買收ニ關シ諮問當局ニ價格其他一任次デ給水料集金方法ニ關シ諮リタル結果消防組員ヨリ成ル溫交會ニ委託集金セシムルコトニ決定
同　年十一月二十一日	六名	五名	給水材料單價改正ノ件諮問セリ
同　年十二月八日	七名	五名	給水料徵收方委託契約ニ關シ諮問次デ水源地內架橋ニ關シ諮問セリ
同　年十二月二十二日	六名	五名	昭和十一年度起債承認申請ノ件諮問セリ
同　十二年一月二十九日	七名	六名	濾過池築造工事請負入札ノ開札ノ結果豫定價格以上ノタメ再入札スルコトトシ次デ給水用具購買入札ノ開札シ落札決定、猶曩ニ再入札セル濾過地築造工事ノ開札ヲナシ落札決定、次ニ給水用鉛管購買ノ入札ノ開札シ落札決定、次ニセメント竝ニ鐵筋購買ニ關シテハ當局ニ一任トナリタリ、尙給水材料單價値上ノ件、給水特典付再募集ノ件諮問次デ昭和十二年度豫算案內示ス
同　年三月九日	七名	三名	水道通水式擧行ニ關シ諮問ノ結果四月二十五日擧行ニ決定次デ水源架橋ハ取止メノコトニシ代リニ鐵舟二艘位造ルコトニ決定猶通水式ニ關シ小委員ヲ設クルコトトシ淺井氏、加藤氏、中井氏ノ三氏ニ決定ス
同　年三月二十六日	六名	五名	水道布設計畫年度變更ニ伴フ豫算變更ノ件諮問シ次ニ通水式ヲ五月一日ニ變更ノ件及式擧行ニ關スル件竝特典付給水募集ニ關スル暫行特例ノ件、鉛管單價改正ノ件等ヲ諮リ次デ四月一日現場視察ノ件決定ス

昭和十二年四月十日	七名	四名	通水式擧行日五月一日ハ衆議院議員選擧開票日ノタメ五月九日ニ變更ノ件諮問ス
同　年四月二十六日	四名	四名	濾過池防水工事請負入札ヲ開札シ落札決定、水源道路擴張用地水道事務所用地買收ノ件ヲ諮リ次デ用地買收其他臨時事務囑託者ノ解囑ニ伴ヒ謝禮ノ件ヲ諮リタル結果委員中井氏及當局ニ一任シ次ニ通水式ニ關シ諮問セリ
同　年六月三日	九名	五名	給水普及ノ爲特典付募集ノ件、公設消火栓使用ニ關スル件水道事務所用地々上物件移轉補償ニ關スル件等諮問ス
同　年九月十三日	九名	四名	出動將士遺家族ニ對シ給水料減免ニ關スル件ヲ諮リ軍事扶助法ニヨリ扶助ヲ受クル者及之ニ準ズル者ヲ全免スルコトニ決定、次デ公認神社佛閣ニ關スル給水料減免ノ件及水道料未納轉居或ハ借家人夜逃ニ依ル料金滯納ノ處理方法ニ付諮問セリ
同　年十月八日	五名	四名	本市下水道築造事務處辨ノ爲臨時下水道委員ヲ又水道布設事務處辨ノ爲臨時水道委員ヲ設置ノ制度ナリシトコロ第一期下水事業ハ完成シ水道事業亦殆ンド竣工シ各委員ノ任務モ大略終了シタルヲ以テ上下水道ヲ併セ更メテ上下水道事務處辨ノ爲常設水道委員ヲ設置スル件ニ關シ諮問ス
同　十三年二月四日	九名	六名	昭和十三年度特別會計水道費歲入歲出豫算案内示ス
同　年三月二十九日	六名	五名	水道布設繼續費繰越使用ノ件、給水工事費市費負擔ノ件水道事務所用地々上物件移轉補償ニ關スル件竝ニ其他雜件ニ關シ諮問ス
同　年五月七日	八名	六名	水道事務所用地買收ノ件、昭和十三年度特別會計水道費歲入歲出豫算更正ノ件、道路撒水給水料ノ件諮問セリ次テ竣工セル濾過池ノ防空施設竝ニ事務所建築ニ關シ質疑應答アリタリ
同　年六月二十日	八名	五名	水道用鋼管購買ニ關シ諮リ次デ足立水道課長ヨリ水道各機關ノ防空施設ニ關シ意見ヲ開陳シ續テ給水普及狀況ニ付報告セリ
同　年十二月六日	七名	四名	給水工事用材料單價更正ノ件及其他雜件ニ關シ諮問、終テ配水塔構内ニ於ケル内徑二五粍消火栓ノ放水試驗竝ニ濾過池ヲ視察セリ
同　十四年二月二日	七名	六名	昭和十四年度特別會計水道費歲入歲出豫算案内示ス
同　年四月四日	九名	五名	從來水道料金ハ公設消防組員ヲ以テ組織セル溫交會ニ委託集金ヲナス制度ナリシモ消防組ノ改組ニ依リ溫交會ハ自然解消セシヲ以テ納付制度ニ更改ノ件ヲ諮問シ次デ本市水道誌編纂竝ニ本年度特典附給水募集ノ件ヲ諮問セリ猶終了後完成セル濾過池及水道施設全般ヲ視察シ午後四時散會セリ

第三節　事務處理規程

一宮市水道事務細則

昭和九年九月十三日廳達第八號
同十年二月二十六日改正

第一章　總　則

第一條　本市水道ニ關スル事務ハ一宮市諸規程ニ定メアルモノノ外本細則ニ依リ之ヲ處理スヘシ

第二條　水道課ニ於ケル事務分擔ヲ定ムルコト左ノ如シ

庶　務　掛

一、文書ノ收受、發送ニ關スル事項

二、文書ノ編纂、保存ニ關スル事項
三、水道ニ關スル市會竝委員會提案諮問ニ關スル事項
四、水道歳入出豫算、決算ニ關スル事項
五、收入支出ニ關スル事項
六、工事用材料、物品出納、保管ニ關スル事項
七、工事ノ請負入札及契約ニ關スル事項
八、工事用材料又ハ物品ノ購買、借入及處分ニ關スル事項
九、用地買收、地上物件移轉、借地及補償ニ關スル事項
十、給水ニ關スル事項
十一、水道ニ關スル統計諸報告ニ關スル事項
十二、前各號ノ外一般庶務ニ關スル事項

工務掛

一、測量、製圖及設計ニ關スル事項
二、工事檢査ニ關スル事項
三、既成工作物ノ維持管理ニ關スル事項
四、設計書、仕樣書、精算書及圖面整理保管ニ關スル事項
五、前各號ノ外工務ニ關スル事項

工事掛

一、工事施工及監督ニ關スル事項
二、工事用材料其ノ他物品ノ受拂、保管ニ關スル事項
三、工事設計變更及工事精算ニ關スル事項
四、工事用材料ノ試驗、檢査ニ關スル事項
五、所屬員ノ指揮、監督、勤怠ニ關スル事項
六、前各號ノ外工事施行ニ關スル事項

第三條 工事區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一工區 水源(送水喞筒及送水管路ヲ含ム)
第二工區 淨水場
第三工區 配水管
第四工區 配水塔
第五工區 檢査所(鐵管類、弁類、機械器具、セメント其ノ他材料試驗)

第四條 工事用材料、物品、出納保管ノ爲材料物品出納主任ヲ置キ各工事區ニ材料物品取扱主任ヲ置ク
各工事區ノ上席者ハ辭令ヲ用ヒスシテ材料物品取扱主任トス

第五條 各掛ハ日誌ヲ備ヘ執務上後證トナルヘキ事項ヲ詳細ニ記載スヘシ

第二章 庶務一般

第六條 各工事區ニ於テ備フヘキ簿冊概ネ左ノ如シ

一、文書受付簿
二、文書發送簿
三、文書送達簿
四、出勤簿
五、時間外勤務簿
六、郵便切手受拂簿
七、工事費豫算差引簿

第七條 庶務掛ハ工事費豫算差引簿ノ外第一號樣式ニ依ル推定豫算差引簿ヲ備ヘ整理スヘシ

第八條 工務掛ハ第二號樣式ニ依ル工事臺帳ヲ備ヘ整理スヘシ

第九條 工事掛ハ其ノ關係スル費目ニ付豫算差引ヲ爲シ起工別設計豫算ニ付テモ常ニ其ノ殘額ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三章 工事施行

第十條 工事ヲ施行セントスルトキハ第三號樣式ニ依リ設計書仕樣書、圖面ヲ作製シ經伺ノ手續ヲ爲スヘシ、工事ニ關スル測量調査竝試驗ヲ施行セントスルトキ亦同シ

第十一條 工事施行ノ決裁ヲ受ケタルトキハ工務掛ハ第四號樣式ニ依リ設計書其ノ他關係書類ヲ添ヘ工事掛ニ通知スヘシ

第十二條 設計變更ヲ要スルトキハ當該主任ハ第五號樣式ニ依リ變更設計書ヲ作製シ其ノ理由ヲ附シ經伺ノ手續ヲ爲スヘシ但シ輕

徴ナル事項ニ對シテハ異動精算書ニ依リ本手續ヲ省略スルコトヲ得

前項設計變更ノ爲施行期間ニ異動ヲ生スル場合ハ其ノ理由ヲ詳記スヘシ

第十三條　工事施行決定シタルトキハ水道課長ニ於テ工事擔當員ヲ定メ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　工事ニ着手セントスルトキハ當該主任ハ第六號様式ノ着手報告書ヲ提出スヘシ但シ請負工事ニ在リテハ第七號様式ノ着手屆書ヲ徴シ提出スヘシ

第十五條　工事請負人又ハ工事材料、物品勞力ノ供給人其ノ義務ヲ履行スル見込ナシト認メタルトキハ當該主任ハ其ノ理由ヲ具シ水道課長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十六條　工事ノ都合上中止ヲ必要トスルトキハ當該主任ハ其ノ期間竝事由ヲ具シ水道課長ニ之ヲ報告スヘシ

第十七條　前條ノ規定ニ依ル場合ニシテ請負工事ナルトキハ庶務掛ハ請負人ニ對シ工事中止下命ノ手續ヲ爲スヘシ中止解除セントスルトキ亦同シ

第十八條　天災地變等ニ因リ事故ヲ發生シ又ハ工事ノ進行ヲ妨ケラレタルトキハ工事主任ハ其ノ事實ヲ速ニ水道課長ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ

第十九條　工事擔當員鐵管布設ニ在リテハ第八號様式ノ鐵管布設日表其他ノ工事ニ在リテハ第九號様式ノ工事月報ヲ作製シ水道課長ニ之ヲ提出スヘシ

第二十條　工事主任ハ第十號様式ニ依ル請負工事成績月報ヲ作製シ翌月十日迄ニ之ヲ提出スヘシ

第二十一條　工事竣工シタルトキハ第十一號様式ノ竣工報告書ヲ提出スヘシ但シ請負工事ニ在リテハ竣工屆書ヲ請負人ヨリ徴シ提出スヘシ

第二十二條　工事竣工ノ際工事主任ハ第十二號様式ニ依ル精算書二通ヲ作製シ施工ニ關スル要領及竣工圖ヲ添ヘ速ニ之ヲ提出スヘシ

第二十三條　年度ヲ跨ル工事ニ在リテハ第十三號様式ニ依ル繰越調書ニ依リ年度精算ヲ爲シ年度經過後速ニ市長ニ之ヲ提出スヘシ

第二十四條　工事竣工檢査ノ命ヲ受ケタルモノハ當該工事主任立會ノ上竣工檢査ヲ爲スヘシ但シ請負工事ニ在リテハ請負人ノ立會ヲ求ムヘシ

第二十五條　檢査員竣工檢査ヲ了シタルトキハ第十四號様式ニ依ル竣工調書ヲ作製シ市長ニ之ヲ提出スヘシ

檢査員ニ於テ檢査ノ結果設計書、仕様書若クハ圖面ニ符合セサル廉ヲ發見シタルトキハ其ノ旨擔當員ニ通知シ別ニ意見書ヲ水道課長ニ提出スヘシ

第二十六條　工事主任ハ年度内ニ於ケル工事既濟部分ニ付第十五號様式ニ依ル竣工内譯書ヲ作製シ毎年四月末日迄ニ市長ニ之ヲ提出スヘシ

第二十七條　工事竣工精算ノ結果當初ノ設計金額又ハ其ノ内譯ニ異動ヲ生シタル場合ハ當該主任ハ第十二號様式ニ準シ異動調書ヲ作製シ之ヲ市長ニ提出スヘシ此場合ハ別ニ工事精算書ノ作製ヲ要セス

第二十八條　工事施行ノ爲通行禁止又ハ制限ノ必要アルトキハ其ノ禁止又ハ制限スヘキ範圍、期間、場所等ヲ記載シ略圖ヲ添ヘ水道課長ニ具申スヘシ其ノ他外部ニ對シ出願、折衝等ニ關スル事項ニ就テモ亦同シ

第二十九條　課程率ヲ定メ人頭割ヲ以テ工事ヲ施行セントスル場合ハ第十六號様式ニ依リ水道課長ノ承認ヲ受クヘシ

第三十條　請負人ヨリ工事竣工期限延長ノ願出アリタルトキハ當該主任ハ其ノ事實ヲ調査シ之ニ意見ヲ添ヘ市長ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條　請負人ヨリ請負金ノ一部支拂ノ請求アリタルトキハ當該主任ハ工事ノ出來形ヲ査定シ第十七號様式ニ依ル出來形調書ヲ作製提出スヘシ

第三十二條　請負工事契約決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ工事掛ハ豫メ工事着手ノ日ノ決定ヲ受ケ請負人ニ通知シ工事工程表及設計書ノ例ニ倣ヒ請負人ヨリ請負工事費内譯書ヲ徴シ提出スヘシ

第三十三條　材料、器具機械等ヲ請負人ニ交付シ又ハ貸與セントスルトキハ豫メ水道課長ノ承認ヲ受ケ請負人ヨリ受授ノ證票ヲ徴スヘシ

第三十四條　從業員其ノ他ニシテ工事ノ爲死傷アリタルトキハ當該主任ハ應急ノ措置ヲ爲スト同時ニ卽時水道課長ニ其ノ旨報告ヲナシ尙現認書ニ醫師ノ診斷書（請負人使役者ヲ除ク）ヲ添ヘ市長ニ之ヲ報告スヘシ

第四章　傭人使役

第三十五條　傭人身上ニ關スル願屆書類ハ當該主任認印ノ上水道課長ニ差出スヘシ、別ニ意見アルモノハ其ノ旨副申スヘシ

第三十六條　工事掛ニ於テ臨時傭人ノ傭入及解傭ヲ爲サントスルトキハ第十八號様式ニ依リ水道課長ニ上申其ノ承認ヲ受クヘシ

第三十七條　傭人使役ニ關スル整理ヲ爲ス爲第十九號様式ノ傭人使役明細簿ヲ備フヘシ

第三十八條　常傭人使役ニ就テハ出勤簿ニ依リ整理スルコトヲ得、但シ時間外勤務アル場合ハ使役明細簿ニ依リ整理スヘシ

第三十九條　時間外勤務ヲ命スル場合ハ豫メ早出、居殘承認簿ニ依リ水道課長ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條　臨時ニ使役スル職工人夫等ノ勞役時間ハ左ノ通トス

自二月一日
至二月末日　午前七時三十分ヨリ午後五時迄トス

自三月一日
至十一月二十日　午前七時ヨリ午後五時迄トス
自十一月二十一日
至一月三十一日　午前七時三十分ヨリ午後四時三十分迄トス

第四十一條　臨時ニ使役スル職工人夫等ニシテ遲刻早退ヲ爲シ又ハ時間外作業其ノ他特種作業ニ從事スルトキハ左ノ歩合ニ依リ賃金ヲ增減支給スルコトヲ得

一、始業前二時間ノ早出及終業時間ヨリ午後十時迄ハ從業一時間ニ付日給額ノ十分ノ一ヲ加給ス
二、午後十時ヨリ翌日始業時間迄ハ從業一時間ニ付日給額ノ十分ノ一、五ヲ加給ス
三、早退、遲刻ハ一時間ニ付日給額ノ十分ノ一ヲ減給ス

第四十二條　臨時ニ使役スル職工、人夫等ニシテ暴風雨又ハ出水時其ノ他特ニ危險作業ニ從事シ又ハ寒中終日水中作業其ノ他之ニ準スヘキ困難ナル作業ニ從事シタルトキハ勞務時間內ト雖モ市長ノ認可ヲ受ケ其ノ一日賃金ノ十分ノ四迄加給スルコトヲ得

第四十三條　水中作業其ノ他特ニ困難ナル勞務ニ服セシムルノ必要ヲ生シタルトキハ水道課長ニ申報其ノ承認ヲ受クヘシ

第四十四條　直接作業ニ從事スル傭人ノ給與ハ決裁ノ各工事費ヨリ支辨スヘシ

第四十五條　傭人給料仕拂ノ爲毎月廿五日第二十號樣式ニ依リ傭人使役報告書ヲ市長ニ提出スヘシ

第五章　物件購買

第四十六條　工事費支辨ニ屬スル備品、消耗品及工事用機械器具竝工事用材料ノ購買ハ本市工事執行規程ノ外本細則ニ依リ取扱フヘシ

第四十七條　廳中用竝事務用品類ハ會計課ニ於テ工事用物件ノ類ハ水道課ニ於テ購買ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十八條　物件ノ購買ヲ要スルトキハ關係取扱主任ニ於テ所要ノ時期及納入場所等ヲ記入シ相當日數以前ニ物品ニ在リテハ第二十一號樣式、材料ニ在リテハ第二十二號樣式ノ購買請求書ヲ庶務掛ニ差出スヘシ

特種ノ物件ニ對シテハ前項請求書ニ圖面、仕樣書及見本品ヲ添付スヘシ

第四十九條　庶務掛前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ豫算照合ノ上決裁ヲ受ケ講買ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條　多量ニ使用スル材料等ハ相當長期ニ涉ル所要數ヲ以テ契約シ必要ノ都度分納セシムルコトヲ得

第五十一條　物件購買ニシテ隨意契約ニ依ルモノハ左ノ場合ヲ除ク外當業者三名以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

一、二名以上ノ當業者ナキトキ
二、特種ノ物件ヲ購入スルトキ
三、工事用物件ニシテ一廉百圓未滿ナルトキ
四、普通物品ニシテ一廉五十圓未滿ナルトキ

第五十二條　前條ノ規程ニ依リ購買セントスルモノニシテ契約書ヲ必要トセサルモノハ所定ノ註文傳票ヲ發行シ購買ヲ爲スヘシ

第五十三條　物件購買ヲ爲サントスルトキハ庶務掛ニ於テ契約ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十四條　物件ノ購買決定シタルトキハ契約書ノ謄本又ハ購買決定通知書ヲ請求者ニ送付スヘシ、契約變更又ハ解約ノトキ亦同シ

第五十五條　供給人ヨリ購買物件ヲ持込ミタルトキハ持込現場ノ當該主任ニ於テ第二十三號樣式ノ納品書二通ヲ徵シ現品ト對照ノ上必要アルトキハ持込見認書ヲ供給者ニ交付スヘシ、但シ註文傳票ニ依リ購買シタル物件ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條　物件ノ供給者ヨリ納期ノ延期ヲ申出タルトキハ其ノ理由ヲ審査シ意見ヲ附シ市長ノ決裁ヲ受クヘシ

第五十七條　物件ノ供給者ヨリ物件ノ既納數量ニ對シ代金ノ請求アリタルトキハ庶務掛ハ既納數量ノ調査ヲ爲シ第二十四號樣式ノ物件既納調書ヲ作製シ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十八條　物品ノ修理ヲ要スルトキハ本細則ニ準據シ所定ノ修理註文傳票ヲ發スヘシ

第六章　物品出納

第五十九條　本章ニ於テ物品ト稱スルハ工事用材料ヲ除キタル工事用機械器具及廳中用備品、消耗品ヲ謂フ

第六十條　物品出納主任、物品取扱主任ハ自己保管ニ係ル物品ノ受拂及監守ノ責ニ任スヘシ

第六十一條　物品出納主任、物品取扱主任交替ノ場合ハ速ニ其保管ニ係ル物品ノ受授ヲ了シ引繼書ヲ作製シタル上前後任者連署ノ上市長ニ之ヲ報告スヘシ

第六十二條　物品取扱主任ニ於テ物品ノ交付ヲ受ケントスルトキ若クハ修理ヲ要スルモノアルトキハ第二十五號樣式ノ需用傳票及第二十六號樣式ノ修理傳票ヲ以テ物品出納主任ニ之ヲ請求スヘシ

第六十三條　前條ノ規定ニ依リ物品ヲ交付シタルトキハ各傳票ニ領收印ヲ徵スヘシ、但シ遠隔ナル地ニアル場合ハ第二十七號樣式ノ領收書ヲ徵スヘシ

第六十四條　交付ヲ受ケタル物品ニシテ不用ニ歸シタルモノ又ハ使用ニ堪ヘサルモノアルトキハ第二十八號樣式ニ依ル返納傳票ニ現品ヲ添ヘ出納主任ニ返納スヘシ

第六十五條　自己保管ニ係ル物品ニシテ盜難、亡失等ノ事故發生シタルトキハ其ノ品目、員數竝事由ヲ詳記シタル報告書ヲ作製シ

速ニ市長ニ之ヲ報告スヘシ
第六十六條 物品出納主任及物品取扱主任ハ毎年三月三十一日現在ヲ以テ自己保管ニ係ル物品現在高調書ヲ作製シ翌年四月十日迄ニ之ヲ提出スヘシ
第六十七條 物品出納主任ハ左記帳簿ヲ備ヘ整理スヘシ
一、備品出納簿 第二十九號樣式
二、消耗品出納簿 第三十號樣式
前各號ノ外補助簿ヲ設クルコトヲ得
第六十八條 物品取扱主任ハ左記帳簿ヲ備フヘシ
一、備品受拂簿 第二十九號樣式ニ準ス
二、消耗品受拂簿 第三十號樣式
三、備品貸出簿 第三十一號樣式

第七章 材料出納

第六十九條 材料取扱主任ハ所要材料ヲ第三十二號樣式ニ依リ材料出納主任ニ之ヲ請求スヘシ
第七十條 材料出納主任、材料ノ交付ヲ爲サントスルトキハ第三十三號樣式ニ依リ材料送付書ヲ發スヘシ
第七十一條 材料取扱主任材料ノ交付ヲ受ケタルトキハ第三十四號樣式ニ依リ領收書ヲ發スヘシ
第七十二條 材料取扱主任ハ毎月第三十五號樣式ノ材料受拂月報ヲ調製シ翌月五日迄市長ニ之ヲ提出スヘシ
第七十三條 材料出納主任ハ毎月第三十六號樣式ニ依ル材料出納月報ヲ調製シ翌月十日迄市長ニ之ヲ提出スヘシ
第七十四條 材料出納主任ハ毎年度經過後三十日以内ニ第三十七號樣式ニ依ル材料出納計算表ヲ作製シ之ヲ提出スヘシ
第七十五條 材料ノ亡失、毀損アリタルトキハ第三十八號樣式ニ其ノ事由ヲ詳記シ市長ニ之ヲ報告スヘシ
材料出納主任自己保管ニ係ル材料ノ亡失毀損ヲ爲シタルトキ亦同シ
第七十六條 前條ニ規定スル場合ニ於テ材料出納主任ハ實狀ヲ調査具申ノ上之カ處分ノ手續ヲ爲スヘシ
第七十七條 工事上不用ニ歸シタルモノ又ハ使用ニ堪エサルモノアルトキハ材料取扱主任ハ第三十九號樣式ニ依リ材料出納主任ニ之ヲ返納スヘシ
第七十八條 材料出納主任及取扱主任ニ於テ其ノ保管材料ヲ所定以外ノ費目ニ流用セントスルトキハ第四十號樣式ニ依リ振替ノ手續ヲ爲スヘシ
第七十九條 現場ニ於テ製作變形シタルモノ又ハ一旦工事ニ使用シタル材料及工事施行ノ結果生產シタル物件アルトキハ第四十一號樣式ニ依リ材料出納主任ニ之ヲ引渡スヘシ
前項ノ材料ヲ工事ニ使用セントスルトキハ第七十二條ノ手續ヲ爲スヘシ
第八十條 材料出納主任ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ
一、材料出納簿 第四十二號樣式
二、鐵管類出納簿 第四十三號樣式
材料取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ
一、材料受拂簿 第四十四號樣式
二、材料生產整理簿 第四十五號樣式
前各號ノ外補助簿ヲ設クルコトヲ得

第八章 物件ノ試驗竝檢査

第八十一條 檢査試驗方法ハ別ニ定ムル鐵管類、弁類竝セメント檢査規格ニ係ルモノノ外以下各號ニ依ル
一、工事用材料、物件ノ檢査ハ購買請求書ニ揭ケラレタル條件、標本竝工事用材料仕樣書規格ニ依リ品質期限其ノ他不適合ノ廉ナキヤウ精査スヘシ
二、機械、器具類ノ檢査ハ購買請求書又ハ仕樣書ニ記ス規格ニ付審査シ檢査上必要アルトキハ檢査員立會ノ上納入者ヲシテ實驗セシムヘシ
第八十二條 納入物件收受ノ際ハ關係主任者ニ於テ檢査シ鐵管弁類ニ對シテハ第四十六號樣式其ノ他ノ物件ニ對シテハ第四十七號樣式ノ檢査表ヲ作製シ「セメント」類ニ對シテハ第四十八號樣式ノ試驗成績表ヲ提出スヘシ
簡易ナル物件ニ對シテハ檢査表ヲ省略スルコトヲ得
第八十三條 物件檢査ヲ行フトキハ供給者ヲシテ立會ハシムヘシ
第八十四條 納入物件檢査ノ結果不合格ト決定シタルモノハ其ノ理由ヲ附シ直ニ供給人ヲシテ引取ラシムヘシ
第八十五條 請負人ノ提供スル材料ノ檢査ハ特別ノ契約ナキ限リ工事現場ニ持込マシメ施行スルモノトス、特ニ出張檢査ヲ必要トスル場合ハ其ノ承認ヲ求ムヘシ
第八十六條 出張檢査ヲ爲シタル物件ニ對シテハ搬入後更ニ檢査ヲ施シ檢査表ヲ作製スヘシ
第八十七條 請負人工事ニ使用スル材料ヲ搬入シタルトキハ豫メ當該主任ハ是ヲ檢査シ更ニ檢査員ノ派遣方ヲ水道課長ニ要求スヘ

シ、之カ合格品ニ對シテハ相當ノ記標ヲ附シ不合格品ト分離シ置クヘシ

第八十八條　不合格品ニ對シテハ直ニ之カ引替ヲ命シ工事ニ支障ナカラシムヘシ

第八十九條　請負人持込材料ニ對シテハ第四十九號樣式ニ依ル檢査簿ヲ備ヘ合格品ノ整理ヲ爲スヘシ

第九十條　請負工事材料檢査成績ニ對シテハ第五十號樣式ノ月報ヲ作製シ毎月五日迄市長ニ之ヲ提出スヘシ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

推定豫算差引簿

項＿＿＿＿＿＿　目＿＿＿＿＿＿

年月日		摘要	番號	豫算額	推定支出額	決定支出額	殘額	
月	日						推定殘	決定殘

第二號樣式

工事臺帳

昭和 年度	款	項	目	一宮市水道課
決裁第 號	工事名		決裁 昭和 年 月 日	
施工位置				
工事大要				

實施	竣工	檢査	工事關係職員

契約締結	着手	竣工	工事日數	請負人	請負方法

檢査	檢査員	立會員	保證金	納付	還付

課長	工事主任	擔當員	出納主任	材料主任	材料取扱主任

部分拂	一回	二回	三回	四回	五回	計	備考

工事種別	請負額	支給材料	直營工事費	計	摘要
實施設計額					
請負契約額					
精算額					
翌年度繰越					

工事沿革其他

第三號樣式

工事設計書

工事番號	第 號
設計年月日	昭和 年 月 日
豫定着手年月日	月 日
工期	
施工法	

費目	款	項	目

工事設計書

名稱	工費	説明	仕譯
	金		

內譯

名稱	種目	斷面寸法	數量	單位	單價	金額	摘要

第四號様式

昭和　年度　起工第　號

工事決定通知書

工事名			
設計金額	圓	工種	
請負金額		請負人	
工期 豫定 着手	昭和　年　月　日		
工期 竣工	昭和　年　月　日	日間	
契約締結月日	昭和　年　月　日		

右關係書類添付及通知候也

昭和　年　月　日

工務掛

工事掛宛

第五號様式

工事變更設計書

工事番號	第　號	決裁月日	昭和　年　月　日	竣工期限	昭和　年　月　日
科目	款	項	目		

工事變更設計書

名稱	摘要

前設計額	變更設計額	增額	減額

內譯

名稱	前設計額	變更設計額	增額	減額	摘要

明細書

名稱	形狀寸法	單位	前設計額 數量	前設計額 單價	前設計額 計金	變更設計額 數量	變更設計額 單價	變更設計額 計金	增減額 數量	增減額 計金	摘要

第六號様式

工事着手報告

一、工事名　　工事
一、工種　直營(請負)
一、設計金額　金
一、着手　昭和　年　月　日
一、竣工期限　昭和　年　月　日　何日間
一、擔當員　職　氏名

右及報告候也

昭和　年　月　日

工事主任　職　氏　名㊞

市長宛

第七號様式

着手届

一、工事名
一、請負金
一、契約ノ時　昭和　年　月　日
一、竣工期限　昭和　年　月　日

右工事何月何日着手致候ニ付及御届候也

昭和　年　月　日

住所

請負人　氏　名㊞

市長宛

第八號様式

鐵管布設日表

鐵管布設日報

第　號

昭和　年　月　日

課長　主任　工事主任　擔當員

實施延長

鐵管延長

鐵管種別	納入年度	鐵管番號	有効長	接合職工名	摘要	勞力其他材料		見取圖
					布設場所 町 番地	始業	午前　時　分	方眼
						終業	午後　時　分	
						職工名		
						人夫數		
						馬車數		
						接合數	粍　口	
						同	粍　口	
						鉛使用量		
						麻同		
						道路復舊	粍　米	
						同	粍　米	

第九號様式

工事月報（直營）

工事月報

市長　助役　課長　主任　工事主任　擔當員

昭和　年　月　日（天候　）

費目	工事細別	勞力 種別	類別	員數	課程	割増 10/100	割増 15/100	計	單價	金額	材料 名稱	形質	單位	數量	單價	金額	工事出來形 前月迄出來高	本月出來高	計	摘要

第十號様式

請負工事成績月報

請負　　工事成績月報（起工第　　號）

市長

助役　課長　主任　工事主任　係

第　　號　　昭和　　年　　月分

費目	細別	種別	設計數量	本月出來高	前月迄出來高	出來高累計	單價	本月出來高金額	出來高累計金額	摘要

第十一號樣式ノ一

工事竣功報告

一、工事名

一、工費　金

一、着手ノ時　昭和　年　月　日

一、竣工ノ時　昭和　年　月　日

一、既定工期　日間

一、工期　日間

右報告候也

昭和　年　月　日

工事主任　職　氏　名㊞

市長宛

第十一號樣式ノ二

工事竣功届

一、工事名

一、契約締結ノ時　昭和　年　月　日

一、工事着手ノ時　昭和　年　月　日

一、既定工期　昭和　年　月　日

右工事昭和　年　月　日竣功致候間及御届候也

昭和　年　月　日

住所

請負人　氏　名㊞

市長宛

第一二號樣式

工事竣功精算書

工事番號	決裁月日	竣工月日
第　號	昭和　年　月　日	昭和　年　月　日

科目		
款	項	目

市長	助役	課長	主任	係	工事主任 材料取扱主任

工事竣功精算書

工事名稱	設計額	精算額	増額	減額	摘要

内譯

名稱	設計額	精算額	増額	減額	摘要

明細書

名稱	形狀	單位	設計額			精算額			増減額		摘要
			數量	單價	計金額	數量	單價	計金	數量	計金	

第一三號樣式

工事繰越調書

工事番號	第　號	決裁月日	昭和　年　月　日	竣功月日	昭和　年　月　日	
科目	款	項	目			
市長	助役	課長	主任	係	工事主任	材料取扱主任

工事繰越調書

工事名稱	摘要

設計額	本年度精算額	翌年度へ繰越額	増減額

內譯

名稱	設計額	精算額	繰越額	増減額	摘要

明細書

名稱	形狀	單位	設計額			本年度精算額			翌年度へ繰越額		摘要
			數量	單價	計金	數量	單價	計金	數量	計金	

第十四號樣式

工事竣功調書

一、工事名

右検査セシニ設計書及圖面ノ通相違ナク竣工セシモノト認定候也

昭和　年　月　日

工事検査員　職　氏名㊞

立會員　職　氏名㊞

市長　宛

第十五號樣式

竣功內譯書

設計高		摘要	竣工高 本年度		備考
數量	金額		數量	金額	
					註一、豫算種目毎ニ區分作製スルコト 二、摘要欄ヘハ工事名及工種ヲ掲ケ 材料勞力雜費等ノ順序ニ依リ其名稱ヲ列記スヘシ

第十六號樣式

課程操業承認伺

工事名稱		
工事細別	工種	數量

職名	單價	課程標準	供給人	摘要

右之通課程操業致シ度ニ付承認相成度

昭和　年　月　日

工事掛主任

水道課長宛

第十七號樣式

工事出來形調書

一、工事名

一、請負人

右昭和　年　月　日迄ニ於ケル工事既成部分ヲ檢査スルニ全工事ノ何分以上ニ達シタル事相違無之候也

昭和　年　月　日

工事檢査員　職　氏　名㊞

立會員　職　氏　名㊞

市長宛

第十八號樣式

臨時傭人（採用／解傭）報告

支辨費目	款	項	目

課長	主任	係	區工事掛主任

臨時傭人（採用／解傭）報告

月日	職名	支給日額	氏名	年齡	摘要

第二十號樣式

昭和　年　自月日 至月日　傭人使役報告

款	項	目	工事番號

市長	助役	課長	主任	係	工事主任	擔當員

勤務時間中就業歩合	割增歩合 百分ノ十	割增歩合 百分ノ十五	割增歩合 其他	計	日給額	支給金額	職名	氏名	摘要

第十九號様式

傭人使役明細薄

自至　年　月　職　　氏名　　日給

月／日		就業歩合勤務時間中	割増歩合 早出居残 $\frac{10}{100}$	$\frac{15}{100}$	——	其他	計	支給金額	摘要
	16								
	17								
	18								
	19								
	20								
	21								
	22								
	23								
	24								
	25								
	26								
	27								
	28								
	29								
	30								
	31								
計									
	1								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
計									
合計									

第二十一號様式

物品購買請求書

款　　項　　目

第　號

物品購買請求書

昭和　年　月　日

物品出納主任殿

物品取扱主任

品目	形質	單位	數量	豫定價格 單價	豫定價格 金額	摘要

納入期日　昭和　年　月　日　用途

納入場所

市長　　助役　　課長　　主任　　係

第二十二號樣式

材料購買請求書

材料購買請求書

第　號　款　項　目　工事名

材料出納主任殿　　　　材料取扱主任

品目形質	單位	數量	豫定價格 單價	豫定價格 金額	摘要

納入場所	
所要期限	月　日

市長	助役	課長	主任	係

第二十三號樣式

物件納品書

第　號　款　項　目　第　工區

品目形質	單位	數量	單價	金額	契約又ハ購買請求書番號	摘要

右之通納付候也

昭和　年　月　日

住所

氏名㊞

市長宛

第二十四號樣式

物件既納調書

契約番號	第　號	供給人

品目形質	單位	單價	契約 數量	契約 金額	前回迄支拂高 數量	前回迄支拂高 金額	今回請求高 數量	今回請求高 金額	差引殘高 數量	差引殘高 金額	摘要

右之通相違無之候也

昭和　年　月　日

市長宛

材料出納主任

第二十五―二十八號様式

(需用)(修理)(返納)(領收)傳票

第　　號	傳票	
品目	員數	摘要

昭和　年　月　日

物品材料出納主任殿　　物品材料取扱主任

摘要	

課長		主任		係		昭和　年　月　日受領

第二十九號様式

備品出納簿

品目　　　　單位

年月日	整理番號	摘要	受入高				拂出高					殘高		備考
			購入		其他		交付高			亡毀失損	其他	數量	金額	
			數量	金額	數量	金額	區	區	區					

第三十號様式

消耗品出納簿

品目　　　　單位

年月日	摘要	買入單價	受	拂	殘	摘要

第三十一號樣式

備品貸出簿

貸出月日	品目	員數	返付月日	員數	借受人	證印	摘要

第三十二號樣式

材料請求書

材料請求書

昭和　年　月　日　　　　起工第　　號分

第　號　款　項　目　工事名

材料出納主任殿

材料取扱主任

品目	形質	單位	豫定價格 單價	豫定價格 金額	用途

納入場所	
所要期限	

市長	助役	課長	主任	係

第三十三號樣式

材料送付書

材料送付書

昭和　年　月　日

第　號　款　項　目

材料取扱主任殿

材料出納主任

品目	形質	單位	數量	單價	金額	原請求番號

拂出命令		供給人	

第三十四號樣式

材料領收書

材料領收書

昭和　年　月　日

第　號	款	項	目

材料出納主任殿

材料取扱主任

品目	形質	單位	數量	單價	金額	送付書番號

第三十五號樣式

材料受拂月報

材料受拂月報

費目　　課長　　出納主任　　係　　材料取扱主任

年　月分

品目	形質	單位	單價	受入高 繰越高 數量	受入高 繰越高 金額	受入高 受入高 數量	受入高 受入高 金額	受入高 其他 數量	受入高 其他 金額	受入高 計 數量	受入高 計 金額	拂出高 使用高 數量	拂出高 使用高 金額	拂出高 亡失毀損 數量	拂出高 亡失毀損 金額	拂出高 其他 數量	拂出高 其他 金額	拂出高 計 數量	拂出高 計 金額	殘高 數量	殘高 金額	摘要

第三十六號樣式

材料出納月報

材料出納月報

費目　　市長　　助役　　課長　　出納主任　　係

年　月分

品目	形質	單位	單價	受入高 繰越高 數量	受入高 繰越高 金額	受入高 買入高 數量	受入高 買入高 金額	受入高 其他 數量	受入高 其他 金額	受入高 計 數量	受入高 計 金額	拂出高 交付高 一工區	拂出高 交付高 二工區	拂出高 交付高 三工區	拂出高 交付高 四工區	拂出高 交付高 試驗所	拂出高 亡失毀損	拂出高 生産	拂出高 其他	拂出高 計	殘高 數量	殘高 金額	摘要

第三十七號樣式

材料出納計算表

材料出納計算表

市長　　助役　　課長　　出納主任　　係

昭和　年　月　日

費目	品目	形質	單位	單價	受入高 前年繰越	受入高 本年買入	受入高 其他	受入高 計	受入高 金額	拂出高 亡失毀損	拂出高 本年度交付高	拂出高 賣却	拂出高 其他	拂出高 計	拂出高 金額	殘高 數量	殘高 金額	摘要

第三十八號樣式

材料物品亡失毀損報告書

材料（物品）亡失毀損報告書

第　　號

昭和　　年　　月　　日

市長殿

材料物品取扱主任

元賻入費目						
品目	形質	單位	數量	金額	事由

市長	助役	課長	主任	係

第三十九號樣式

材料返納書

材料返納書

昭和　　年　　月　　日

第　　號	元請求費目	款		項		目	

材料出納主任殿

材料取扱主任

品目	形質	單位	數量	單位	金額	事由

市長	助役	課長	主任	係

第四十號様式

材料費目振替書

材料費目振替書

昭和　年　月　日

第　號	買入費目	項		目		工事名			市長
	流用費目	項		目		工事名			
品目		形質	單位	數量	單價	金額	事由		助役
									課長
									主任
									係

第四十一號様式

生産品引渡書

生産品引渡書

昭和　年　月　日

材料（物品）出納主任殿					材料物品取扱主任			市長
第　號	款		項		目			助役
品目	形質	單位	數量	單價	金額	事由		
								課長
								主任
								係

第四十二號様式

材料出納簿

品目　　形質　　單位　　單價

年月日	證憑番號	摘要	受入高								拂出高								殘高		備考
			繰越高		受入高		其他		計		交付高					亡失毀損	其他	計	數量	金額	
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	一工區	二工區	三工區	四工區	試驗所						

第四十三號様式

鐵管類出納簿

品目　　形質　　單位　　單價

年月日	證票番號	摘要	有効長	單價	受入高								拂出高						殘高		備考
					越高		買入		其他		計		交付		亡失毀損		計		數量	金額	
					數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額	數量	金額			

第四十四號様式

材料受拂簿

品目　　形質　　單位

月日	摘要	單價	受		拂		殘		備考
			數量	金額	數量	金額	數量	金額	

第四十五號樣式

材料生産整理簿

品目＿＿＿＿　形質＿＿＿＿　單位＿＿＿＿

月日	原			價			計金	生産數量	價格	摘要
	材料	單價	金額	勞力	單價	金額				

第四十六號樣式

鐵管、弁類試驗檢査表

第　號	鐵管弁類試驗檢査表	昭和　年　月　日持込 / 昭和　年　月　日檢査
市長　助役　課長　主任出納　檢査員　立會員　係		供給者
款　項　目		昭和　年　月　日合格決定

品名	有効長	單價	契約數量	既納數量	檢査數量	合格數量	不合格數量	納入數累計	未納數量	備考

第四十七號樣式

工事用材料物品檢査表

第　　號	工事用材料物品檢査表			昭和　年　月　日納入	昭和　年　月　日檢査
市長	助役	課長	出納主任	檢査員	立會員
係	供給人				
款	項	目	昭和　年　月　日合格決定		

品名	形質	單位	單價	契約數量	既納數量	檢査數量	合格數量	不合格數量	納入數累計	備考

第四十九號樣式

請負人持込材料檢査簿

檢査ノ時	品目	形質寸法	外觀良否 瑕疵有無	檢査數量 持込	檢査數量 合格	檢査數量 不合格	備考

第四十八號様式

セメント試驗成績報告書

セメント試驗成績報告書

契約第　　號　供給人　　　品名　　　試驗 着手　月　日 竣工　月　日　合格數　袋　不合格數　袋　合格累計　袋　不合格累計　袋

契約員數　袋　持込員數　袋　持込昭和　年　月　日　今回試驗員數　袋

市長　　助役　　課長　　主任　　係　　檢査所主任　　擔當員

報告昭和　年　月　日

試料番號及記號	代表數（袋）	重量試驗（瓩）	粉末試驗（%）	凝結試驗						膨脹性龜裂試驗		強度試驗						鑑定	備考
				温度C		凝始時間	凝終時間	始終時間	注水量（%）	浸水法	沸煮法	砂入セメント耐伸強度			砂入セメント耐壓強度				
				最高	最低							一週間	四週間	增進			增進		

第五十號様式

月分請負工事材料檢査成績月報

月分請負工事材料檢査成績月報

市長	助役	課長	主任	係	工事主任

品目	設計數量	前月迄合格數	本月合格數	差引未納數	請負人氏名	備考